

身近な地域資源を活かしたまちづくりの
実践方策に関する研究

～姪浜でのまちづくり活動と地域づくりを巡る小さなまち旅を通して～



(公財) 福岡アジア都市研究所 会員研究員 (福岡市職員)
唐津街道姪浜まちづくり協議会 初代事務局長
大塚政徳



唐津街道姪浜まちづくり協議会卒業直後に熊本地震で甚大な被害を受けた熊本城を訪問(平成 28 年6月)。
これをきっかけに「地域づくりや建築の原点に戻る旅」と「熊本の復興の過程を巡る旅」をスタートした。



筆者が「地域づくりや建築の原点に戻る旅」の出発点として選んだ三角西港(平成 28 年7月)。
熊本大学時代の筆者の卒業研究のフィールドであり、思い出の場所である。

※表紙写真: 筆者の姪浜での最後のプロジェクトとなった「春のまち旅 2016」の様子(平成 28 年3月)

はじめに（研究の目的）

筆者は、福岡市西区姪浜で活動している「唐津街道姪浜まちづくり協議会」の初代事務局長の役を担った（平成 19 年 3 月～28 年 5 月）。この間、『姪浜の宝を福岡市民の宝に！』を目標に、地域固有の歴史・文化資源を活かしたまちづくりを推進してきた。姪浜への熱い想いを込めた 10 年間の活動は、「都市景観大賞（国土交通大臣賞）」や「ふるさとづくり大賞（総務大臣賞）」等として評価され、姪浜の魅力や協議会の活動を全国に発信することができた。

また、筆者個人にとっても、姪浜という地域は魅力的なフィールドであり、10 年間の活動はとても充実したものであった。そして、地域内外の多くの方々との出会いが、筆者の活動のエネルギーであり、精力的な活動で得たものも多かった。

筆者は、10 年間の活動で多くの成果を上げたこと及び今後の地域づくり活動に向けて筆者自身のステップアップを図るため、平成 28 年 5 月末、協議会活動 10 年という節目を機会に協議会を卒業した。ある知人からいただいた「市役所でのいろいろな経験、そして 10 年にわたる姪浜での地域づくりの経験を活かして、いろいろなフィールドで活躍してほしい」というアドバイスも、協議会卒業を決断する大きな後押しとなった。

また、時を同じくして起こった熊本地震の影響も大きい。熊本地震の直前に訪問した熊本城、阿蘇神社、阿蘇大橋、南阿蘇村等が大きな被害を受け、様変わりしてしまった。福岡市役所で建築物の耐震化促進の担当もし、大学時代を熊本で過ごした筆者にとっては、『建築物の耐震化は重要な仕事である。大学時代の恩返しをしよう。地域づくりの原点に返ろう。姪浜だけでなく、もっと大きな視点で世界を見てみよう。』というメッセージのように思えた。

まず、協議会卒業直後の平成 28 年 6 月から始めたことは、家族や姪浜の活動でお世話になった方々、身近な地域資源を活かしたまちづくりに関わる方々に筆者の姪浜や地域づくりへの想いを伝えていくため、今までの事務局長としての活動を振り返り、それを記録としてまとめることである。その成果として、(公財)福岡アジア都市研究所の平成 28 年度の会員研究で「身近な地域資源を活かしたまちづくり活動記録～姪浜での 10 年の実践活動を中心とした、建築と地域づくりへの想い～」を作成した。

また、同時に「地域づくりや建築の原点に返る旅」と「熊本の復興の過程を巡る旅」を始めた。これは、姪浜での 10 年間のまちづくり活動を振り返る旅であり、次の二毛作目の人生に向かって自分を見つめ直す旅でもある。初めての場所もあるし、思い出の場所もある。大学の卒業研究で関わった場所もあるし、建築を志した時に訪れた場所もある。いろいろな地域を旅し、その魅力を体感することは、地域づくりを考える上で大いに参考になるし、新たな出会いもある。特に、大学時代の思い出の多い熊本の復興の過程を見に定期的に熊本を訪問している。

今回は、平成 28 年度に作成した活動記録をブラッシュアップするとともに、今まで訪問してきた地域の中から特に印象に残る取り組みを振り返り、「身近な地域資源を活かしたまちづくりの実践方策に関する研究」として研究を進めていくものである。特に、都市化に埋没し、地域の個性や特徴が見えにくくなっている国内の大半の地域における身近な地域資源の活用策について、

筆者が精力的に取り組んできた姪浜の事例を踏まえながら提案していきたい。

また、まちづくり協議会のあり方について、筆者が唐津街道まちづくり協議会の事務局長として重要だと感じていた「ヒト」「モノ」「コト（ストーリー）」「巻き込み力」を中心に、筆者が訪問した地域の事例を踏まえながら検証・提案していきたい。

本研究で紹介するのは、公務員（福岡市職員）でもあり、建築士でもある筆者が景観行政の知識と経験を活かし、業務の枠を超えて地域づくりや景観づくりに取り組んできた事例、そして実際に訪問し体感体験した事例である。まちづくり事例としてだけでなく、公務員や地域づくり・建築に関わる皆さま方の今後の生き方の参考にさせていただければ幸いである。

なお、「本稿の構成と各章の要約」は次のとおりである。

【本稿の構成と各章の要約】

まずは、筆者が精力的に取り組んできた唐津街道姪浜まちづくり協議会の活動の概要と、活動の中で事務局長として工夫したこと、継続的で多彩なまちづくり活動で得た成果を述べる（第1章）。

次に、筆者が実際に市役所の業務として携わった地域や今まで訪問した地域における、身近な地域資源の活用策やまちづくり団体の活動状況について紹介する（第2章）。

最後に、それらを踏まえ、「身近な地域資源を活かしたまちづくりの実践方策」や「新たな課題や動向を踏まえた、今後の姪浜のまちづくりの展開方策」について筆者の提案を述べる（第3章）。

この他、まちづくり協議会卒業と同時に始めた「地域づくりや建築の原点に戻る旅」と「熊本の復興の過程を巡る旅」を手記として、また、公務員や建築士、地域づくりに携わる皆さま方へ伝えたいことをメッセージとして、さらに、各章の中で補足的なことなどをコラムとして紹介する。

ページ数は多いが、各章ともできるだけ読み切り形式にしているので、興味のある部分だけでも読んでいただければ幸いである。

平成29年7月

身近な地域資源を活かしたまちづくりの

実践方策に関する研究

～姪浜でのまちづくり活動と地域づくりを巡る小さなまち旅を通して～

目次

はじめに（研究の目的）	1
【第1章】 姪浜でのまちづくり活動とその成果	
1 筆者が精力的に取り組んできた唐津街道姪浜まちづくり協議会の活動の概要	6
（1）筆者と姪浜	
（2）宝のまち・姪浜～姪浜の歴史と魅力～	
（3）活動のきっかけとねらい、協議会の体制	
（4）唐津街道姪浜まちづくり協議会と筆者の10年の歩み	
（5）活動概要	
（6）主な活動内容一覧	
2 活動のポイントと継続的で多彩なまちづくり活動の成果	17
（1）活動のポイント（事務局長として工夫したこと）	
（2）継続的で多彩なまちづくり活動の成果	
コラム1 まちづくり活動の思い出	25
【第2章】 地域づくりを巡る小さなまち旅を通して	
3 思い出に残る地域・集落	27
4 身近な景観づくりの取り組み	29
（1）北部九州の身近な景観づくりの取り組み	
（2）福岡市御供所地区	
5 思い出に残る地域づくりの取り組み	39
（1）長野県小布施町	
（2）新潟県村上市	
（3）秋田県横手市増田	

6 まちなみネットワーク福岡に所属する団体の取り組み	57
(1) 八女市八女福島	
コラム2 行政マン&地域のまちづくり人としての筆者の目標	64
(2) 大川市小保・榎津	
(3) 福津市津屋崎	
(4) 飯塚市内野	

【手記】まちづくり協議会卒業をきっかけに始めた二つのまち旅 80

(1) 地域づくりや建築の原点に戻る旅	
コラム3 外海集落と崎津集落	82
コラム4 建築の原点に戻る展覧会	84
(2) 熊本の復興の過程を巡る旅	
コラム5 熊本市新町・古町地区の現状	88
コラム6 南阿蘇村 免の石	89

【第3章】 身近な地域資源を活かしたまちづくりの実践方策・展開方策の提案

7 身近な地域資源を活かしたまちづくりの実践方策の提案	91
(1) 各地域のそれぞれの魅力資源を活かしたまちづくり	
(2) 地域に根ざしたまちづくり協議会	
コラム7 事務局力	98
(3) 地域内の各団体の連携による活動の広がり	
(4) まちづくりの課題や段階（ステージ）に対応した取り組み	
(5) 身近な地域資源を活かしたまちづくりの実践に向けて	

8 新たな課題や動向を踏まえた、今後の姪浜のまちづくりの展開方策の提案	110
(1) 姪浜を取り巻く新たな課題・動向と筆者の提案（一覽）	
(2) 具体的な課題・動向と対応案	

コラム8 日本海を隔てた広域交流の提案	138
----------------------------	------------

【提言に代えて（筆者からのメッセージ）】 140

- (1) 公務員の皆さま方へ ～自治体職員よ、地域に出よう！スキルを活かそう！～
- (2) 建築士の皆さま方へ ～建築士よ、地域に出よう！スキルを活かそう！～
- (3) 地域づくりに携わる皆さま方へ ～小さなまち旅の薦め～

おわりに	158
------	-----

参考文献等	161
-------	-----

【参考資料】 ※別添

参考資料1 筆者がまちづくり協議会活動期間中及び卒業後に訪れた主な地域・集落等

- (1) 伝統的町並み
- (2) 集落等
- (3) 路地等
- (4) 唐津街道ことりっぷ
- (5) 歴史的建造物
- (6) 現代建築
- (7) 印象に残るヒト、モノ、コト（ストーリー）

参考資料2 熊本の復興の過程を巡る旅

- (1) 熊本城
- (2) 阿蘇神社及び門前町
- (3) 阿蘇大橋及びその周辺、益城町
- (4) 熊本市新町・古町
- (5) 印象に残るヒト、モノ、コト（ストーリー）

参考資料3 まちづくりの課題や段階（ステージ）に対応した姪浜での取り組み事例集

- (1) 取り組み一覧
- (2) 取り組み事例集

参考資料4 姪浜まち旅プロジェクト計画（概要版）

【まち旅を進めていく背景】

【まち旅プロジェクトの実施に向けたモデル的試行】

【まち旅プロジェクト推進のための情報発信ツールの整備】

【姪浜まち旅プロジェクト計画】

注) 本稿における表現について

用語	本稿での表現
「空家」「空き家」	団体名称など固有名詞を除き「空家」としている。
「町家」「町屋」	団体名称や事業名称など固有名詞を除き「町家」としている。また、「第2章の5 思い出に残る地域づくりの取り組み」の(2)で紹介する新潟県村上市では「町屋」を使っており、「町屋」としている。
「町並み」「街並み」 「まちなみ」「街なみ」	伝統的な町家が軒を連ねている地域や城下町等では「町並み」、商店や現代的な建築物が立ち並ぶ地域等では「街並み」、広義の意味で使う場合は「まちなみ」としている。また、事業名称など固有名詞があるものについては、それを使用している（「街なみ環境整備事業」等）。
「町」「まち」	町名など固有名詞を除き「まち」としている。

1 筆者が精力的に取り組んできた唐津街道姪浜まちづくり協議会の活動の概要

(1) 筆者と姪浜

平成17年3月の福岡県西方沖地震、それが筆者の人生の大きな転機となった。筆者の住む姪浜でも多くの町家や寺社が被害を受けた。被害を受けて改めて気付くというのは残念であるが、しかし、「姪浜にはこんなに素晴らしい歴史的資源が残っていたのか。まだ遅くはない。歴史的な環境を活かしたまちづくりを進める上で、これが最初で最後のチャンスだ。」と前向きに考え、地域関係者に声をかけ、2年後にまちづくり協議会を立ち上げた。筆者が49歳の時である。

それまで福岡市職員として長く景観行政に携わっていながら、自分が住む地域のことにはあまり関心がなかった。それからは今までの20年間を取り戻すかのように『姪浜の宝を福岡市民の宝に！』を目標に精力的に活動を続け、地域から感謝状もいただいた。

30歳代後半までは、職場でも「セブンイレブン（朝7時から夜11時まで）」と言われるぐらいに働いたが、今後は、はやりりの二刀流ではないが、地域への恩返しを込めて、「人生は二刀流、二毛作」をテーマに息長く、そして仲間とともに楽しく地域活動に関わっていきたいと思い、様々な活動を精力的に展開してきた。



福岡県西方沖地震による姪浜での被害例：姪浜住吉神社(左)、伝統的町家建築(右)

(2) 宝のまち・姪浜～姪浜の歴史と魅力～


姪浜は、人口150万人都市・福岡市の西区の中心的地域である。ややもすると通り過ぎてしまいそうな町並みであるが、じっくりと歩いてみると、町並みのそこそこにたくさんの「よかところ」を発見することができる。その中には先人たちから受け継いできたものもあるし、また、その上に新たに加えられたもの、生み出されたものもある。

先人たちから受け継いできたものの代表は、日本誕生の神話や神功皇后伝説、奈良時代や鎌倉時代からの歴史を持つ神社やお寺の数々、元寇防塁、小戸から生の松原にかけての白砂青松、江戸時代に栄えた唐津街道の町並み、港の風景などたくさんある。一方、姪浜駅周辺や海沿いの現代的な商業施設や高層マンション等は、姪浜の環境の良さや便利さが生み出した新たな風景である。


このように姪浜は新しいものと古いものが共存するまちであるが、区画整理によって新しく生まれ変わった姪浜駅周辺と、海辺のマリノアシティの間であって、ぽつんと取り残されたように歴史的な環境が残っている地域がある。ここが筆者らの主な活動地域で、宿場町、商人町、漁師町、寺町の4つの顔を備えた全国的にも珍しいまちである。その中央を東西に走る唐津街道を


中心に、数多くの寺社や古い町家、路地等が残り、今でも街道の名残りを感させる町並みが継承されている。






マリノアシティ






愛宕神社



小戸大神宮

姪浜駅



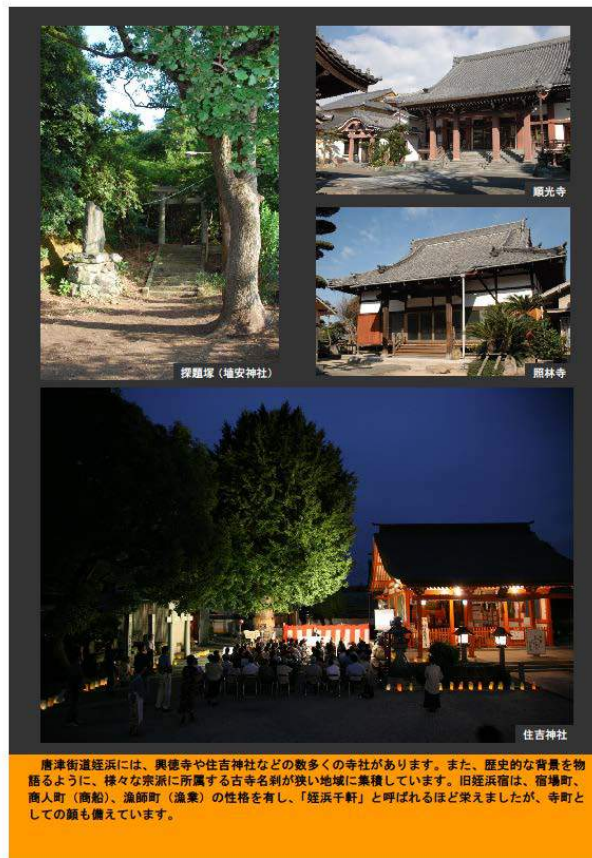
唐津街道姪浜の周辺には、愛宕神社や小戸大神宮などの歴史的資源の他、マリノアシティなどの新しい魅力スポットがあります。神話の時代（神功（じんぐう）皇后伝説など）と関わりが深いとされる小戸大神宮、中世の元寇防塁、近世の愛宕神社、現代のマリノアシティなど、いくつもの時代が交差し、様々な時代の歴史が息づいています。今後は、それぞれの魅力資源の連携による回遊ルートづくりと相互の活性化がまちづくりのテーマとなります。そのためには、中核となる唐津街道姪浜の魅力の創造と発信が求められます。

新旧の魅力スポットを巡る姪浜の回遊ルート

「元気！姪浜計画」をもとに筆者作成(上)、筆者作成の「唐津街道姪浜 地域の魅力資源集」より引用(下)



唐津街道姪浜には、興徳寺や住吉神社などの数多くの寺社があります。また、歴史的な背景を物語るように、様々な宗派に所属する古寺名刹が狭い地域に集積しています。旧姪浜宿は、宿場町、商人町（商船）、漁師町（漁業）の性格を有し、「姪浜千軒」と呼ばれるほど栄えましたが、寺町としての顔も備えています。



唐津街道姪浜には、興徳寺や住吉神社などの数多くの寺社があります。また、歴史的な背景を物語るように、様々な宗派に所属する古寺名刹が狭い地域に集積しています。旧姪浜宿は、宿場町、商人町（商船）、漁師町（漁業）の性格を有し、「姪浜千軒」と呼ばれるほど栄えましたが、寺町としての顔も備えています。



唐津街道姪浜を特徴づけているものに、伝統的様式の町家があります。都市化の進展や福岡県西方沖地震の影響などで、次第にその数は減少していますが、今でも昔の宿場町の雰囲気を感じさせる町並みが継承されています。

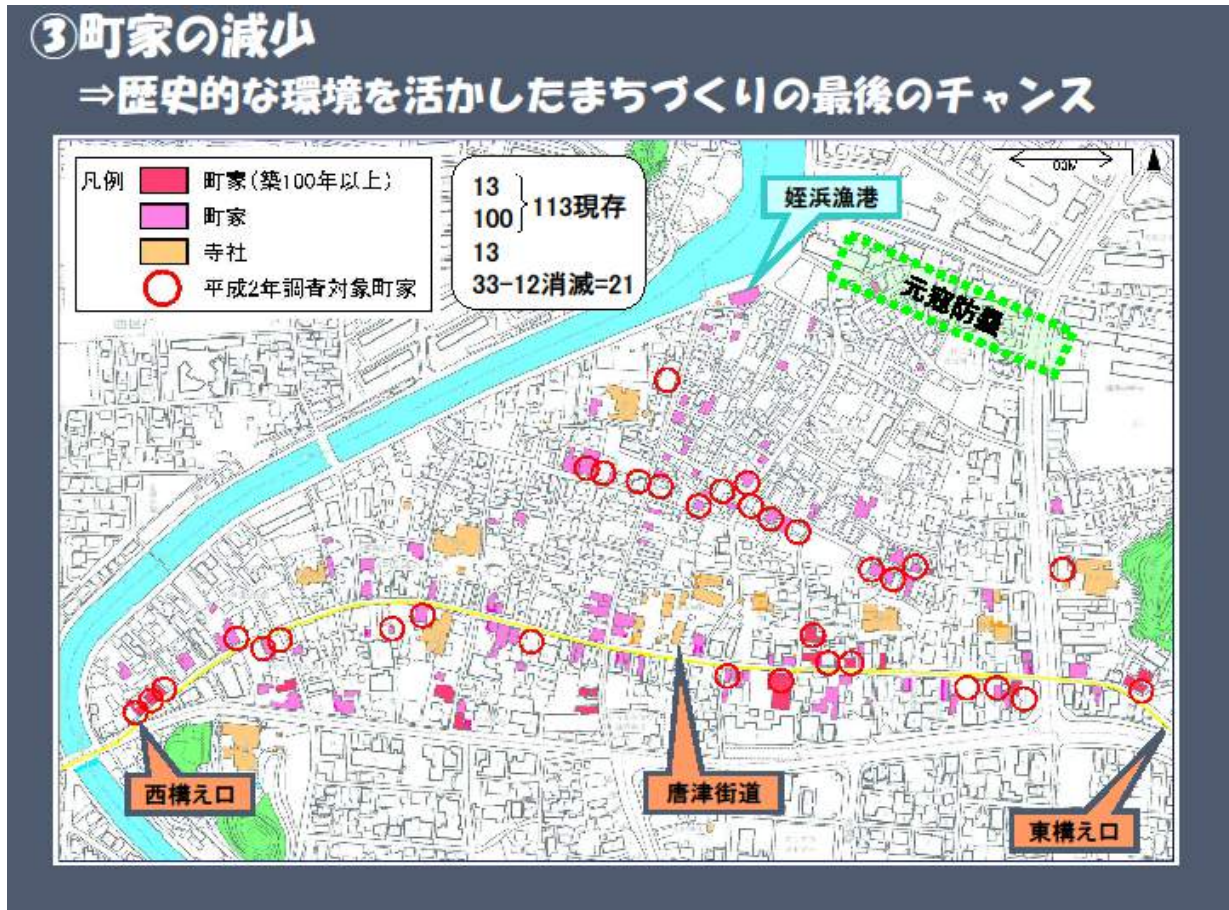


昔ながらの道の形も唐津街道姪浜の特徴です。鉤の手（かぎのて）と呼ばれる道の形は、防衛の手段として、敵が一気に攻め込みにくくするために、また、敵を追い詰めやすくするために城下町の入口や通りを直角に曲げたものですが、ここ姪浜でも随所にもその形跡が見られます。そして、塀や建物に囲まれた狭い路地空間も唐津街道姪浜の魅力です。ほっとする空間を私たちに提供してくれています。

姪浜の魅力資源（筆者作成の「唐津街道姪浜 地域の魅力資源集」より引用）

(3) 活動のきっかけとねらい、協議会の体制

姪浜では、平成17年の福岡県西方沖地震の影響や都市化の進展等による町家の減少、マンションや駐車場の増加等により、地域固有の歴史的景観が次第に失われつつある。このような状況の中で、歴史的な環境を活かしたまちづくりを進める上で今が正念場であると考え、危機感を持って立ち上がった筆者を含む福岡市職員が中心となって、平成19年3月に「唐津街道姪浜まちづくり協議会」を立ち上げた。



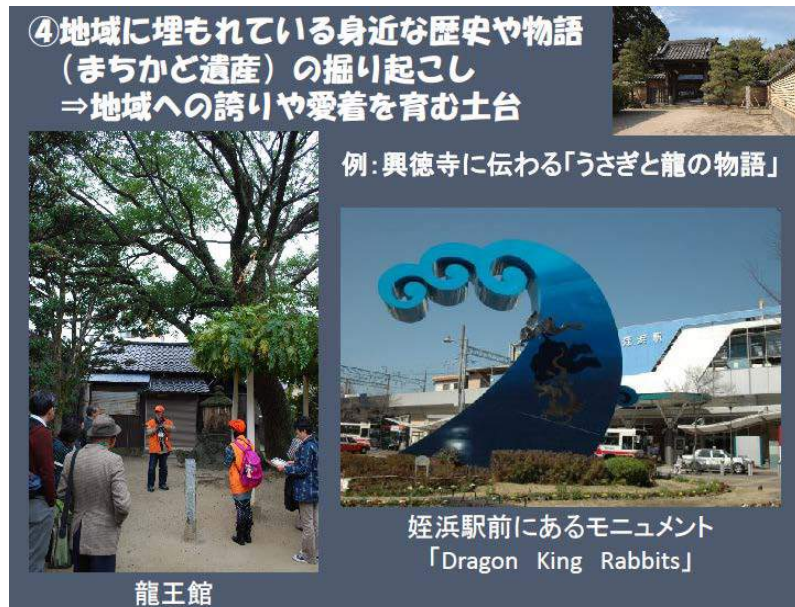
姪浜の町家分布状況(平成19年5月現在。「博多津にぎわい復興計画研究会」と「唐津街道姪浜まちづくり協議会」による共同調査をもとに作成された資料より引用)



景観形成への配慮が望まれる高層マンション

また、全国どこに行っても同じような街並みの形成が進む中で、筆者には「姪浜を普通のまちにしたい」という強い想いがあった。「地域に埋もれている身近な魅力資源を掘り起こしていくことが、姪浜ならではの地域特性を活かしたまちづくり・景観づくりの土台となる」という考え方は、筆者の姪浜でのまちづくりの哲学である。これは一步も譲ることはできない。

姪浜の魅力資源は、多彩な歴史、伝説・物語、数多くの寺社・町家、狭い路地、海、港、魚市場、美味しい魚など数え上げるときりが無い。地域の人が見慣れて、当たり前だと見過ごしているものにスポットを当てていくことが、姪浜ならではのまちづくりを進める第一歩なのである。



筆者の姪浜でのまちづくりの哲学



武内宿禰伝説のある真根子神社

当初は地域外のメンバーを中心に十数名のメンバーでスタートしたが、最盛期には協力会員を含め 46 名がメンバーとして名を連ねていた。建築士、コンサルタント、福岡市職員、地方史研究家、写真家、大学生、地域住民等の多様な構成が特徴で、年齢的には 40～60 歳台の男性が中心であった。なかには、仕事や家庭の都合で一度姪浜を離れた人や定年後に姪浜に戻ってきた人が、筆者らの活動に刺激を受けて活動に関わり出した例もある。こうしたメンバーが「ばか者、よそ者、若者」の視点を大切にして、『姪浜の宝を福岡市民の宝に！』を目標に、姪浜ならではの多彩な魅力資源を活かした地域協働のまちづくりを精力的に推進してきた。



多彩な魅力資源を活かした地域協働のまちづくりの推進

(4) 唐津街道姪浜まちづくり協議会と筆者の10年の歩み

年度 ステージ	活動の目標	各活動の開始年度			助成金（補助金）	表彰、認定
		イベント関連	計画策定、情報発信等	関連事業		
H18年度	設立準備	<ul style="list-style-type: none"> ■『博多津にぎわい復興計画研究会』として、講演会、まち歩き、姪浜での調査を実施。 ■H19.3.17の姪浜でのまち歩きイベント後に協議会設立を決定。 ■H19.3.26『唐津街道姪浜町並み・まちづくり活性化協議会』として福岡市職員有志を中心に設立。以降、地元メンバーを加える。H20.4.1に現在の『唐津街道姪浜まちづくり協議会』に名称変更。 				
H19年度	1st ステージ 地域の魅力の再認識と地域内外への発信	<ul style="list-style-type: none"> ■まちづくり講演会・シンポジウム ■景観歴史発掘ガイドツアー ■みそ蔵コンサート 	<ul style="list-style-type: none"> ■定例会 ■地域の魅力資源調査 ■地域の魅力資源集作成 ■まち歩きマップの発行(順次改訂) 		●西区やる気応援事業補助金(福岡市)	
H20年度		■まちなみパネル展	■まちづくり先進都市調査	<ul style="list-style-type: none"> ■『西区まるごと博物館』への参加 ■『唐津街道サミット』への加盟 	●西区やる気応援事業補助金(福岡市)	
H21年度		■灯明コンサート	<ul style="list-style-type: none"> ■町家再生の実践 ■まちの案内所開設(マイヅル味噌内) ■旧町名表示板設置 		<ul style="list-style-type: none"> ●西区やる気応援事業補助金(福岡市) ●農業・地域協同活動支援基金(JA福岡市) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆農業・地域協同活動支援表彰(JA福岡市) ◆福岡市都市景観賞(福岡市) ◆ふくおか地域づくり活動賞(地域づくりネットワーク福岡県協議会) ◆景観づくり地域団体認定(福岡市)
H22年度	2nd ステージ 地域協働のまちづくり計画の策定 景観まちづくりの実践		<ul style="list-style-type: none"> ■『元気！姪浜計画』の策定 ■かわら版の発行 	■九州大学『都市・建築ワークショップ』への協力	<ul style="list-style-type: none"> ●景観づくり地域団体活動助成金(福岡市) ●住まい・まちづくり担い手事業助成金(住まい・まちづくり担い手支援機構) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆西区の宝認定(西区まるごと博物館推進会) ◆ふくおか地域づくり活動賞(地域づくりネットワーク福岡県協議会)
H23年度			<ul style="list-style-type: none"> ■景観づくり委員会設立 ■『姪浜ブランド』の認定 ■『景観づくり計画』STEP1の策定 	■『地域づくりネットワーク福岡県協議会』への加盟	●景観づくり地域団体活動助成金(福岡市)	◆ふくおか地域づくり活動賞奨励賞(地域づくりネットワーク福岡県協議会)
H24年度		■着物で唐津街道の町並みをそぞろ歩き ■町家コンサート	■『姪浜町家』の認定	<ul style="list-style-type: none"> ■総合学習への協力(姪北小) ■『全国まちなみゼミ福岡大会』参加 	<ul style="list-style-type: none"> ●URCAまちづくり企画支援事業助成金(再開発コーディネーター協会) ●まちづくり人応援助成金(まちづくり市民財団) 	◆まちづくり人認定(まちづくり市民財団)
H25年度	■登録文化財みそ蔵 特別公開 ■子どもまちなみ探検隊	<ul style="list-style-type: none"> ■『景観づくり計画』STEP2の策定 ■子ども落書き消し隊 ■『姪浜景観まちづくり宣言』の作成 ■地域の方から『姪浜相撲甚句』『史跡巡りの歌』の贈呈 	<ul style="list-style-type: none"> ■『まちなみネットワーク福岡』への加盟。第1回まちなみフォーラム福岡を姪浜で開催 ■『福岡県美しいまちづくり協議会』への加盟 	<ul style="list-style-type: none"> ●街なか再生助成金(区画整理促進機構) ●ふくおか地域貢献活動サポート事業補助金(福岡県) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆福岡県共助社会づくり表彰協働部門賞(福岡県) ◆日本まちづくり大賞及び福岡支部賞(NPO福岡都市計画家協会) ◆あしたのまち・くらしづくり活動賞振興奨励賞(あしたの日本を創る協会) 	
H26年度	3rd ステージ 登録文化財のみそ蔵を中心とした姪浜のまちなみの個性の再構築 次のステージに向けた『姪浜ネクスト』の推進	<ul style="list-style-type: none"> ■海からまちを眺める遊覧船ツアー ■みそ蔵の再生・活用に向けた活動 	■『姪浜景観づくりの手引き』の発行		<ul style="list-style-type: none"> ●ふくおか地域貢献活動サポート事業補助金(福岡県) ●公益信託 大成建設自然・歴史環境基金(H26.12~H27.11) 	◆まちづくり優秀賞(日本建築士会連合会)
H27年度		<ul style="list-style-type: none"> ■新たなまち旅プロジェクトの発掘・夏休み親子まちなみ探検隊 ・遊覧船から見る花火大会 ・寺社講話&紅葉巡りツアー ・白うさぎ伝説と桜の名所巡り&姪浜ブランド店巡り 	<ul style="list-style-type: none"> ■『みそ蔵活用計画』の策定 ■姪浜ネクストの推進(TEAM姪浜ネクスト発足) ■新案内所の移転、改修 ■『姪浜まち旅プロジェクト計画』の策定 ■まち歩きマップの改訂(来訪者、店舗、姪浜地域、協議会のWin-Win-Win方式) ■街なか再生助成金の活用企画(ニュースレターの発行、暖簾による修景事業等) 	■総合学習への協力拡大(姪浜小、愛宕小)	<ul style="list-style-type: none"> ●まちづくり人応援助成金(まちづくり地球市民財団) ●街なか再生助成金(区画整理促進機構。H28.2~12) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆都市景観大賞 景観教育・普及啓発部門大賞(国土交通大臣賞) ◆ふるさとづくり大賞団体表彰(総務大臣賞)
H28年度	<p>初代事務局長として、精力的に様々な活動を企画・実践し、多くの成果を残す。H28.5.31次のステップアップを図るため、10年という節目を機会に協議会を卒業。地域内外の皆さま、長い間のご支援ありがとうございました。</p>					

(5) 活動概要

まずは、筆者が中心となって企画・実践してきた多彩な活動の概要を紹介する。一つひとつの活動は、オーソドックスなものであるが、まちづくりの課題や熟度に応じた多彩な活動を展開してきた。「こだわり」「おもてなし」「多彩」「粘り強さ」「地道」をテーマにした10年間の精力的な活動により、姪浜の魅力及び協議会の活動を全国に発信してきた。

活動概要（各ステージの地域課題、活動目標、活動内容）

◆ 1st ステージ（主に平成19年度～21年度）

- 地域課題：地域住民自身の地域の魅力の認識不足
- 活動目標：地域の魅力の再認識と地域内外への発信
- 活動内容：「まち歩きマップやかわら版の発行」「まちづくり活動拠点の設置」等による姪浜の見どころ・活動の情報提供
「景観歴史発掘ガイドツアー」「国の登録有形文化財でのみそ蔵コンサート」「歴史ある寺社での灯明コンサート」等の多彩な町並みイベント

◆ 2nd ステージ（主に平成22年度～25年度）

- 地域課題：①地域のまちづくりの方向性が不明確
②まちづくりの効果の具現化（具体的に目に見える形で示す）
- 活動目標：①地域協働のまちづくり計画の策定
②景観まちづくりの実践
- 活動内容：①住民参加のワークショップ等による「元気！姪浜計画」や「景観づくり計画」の策定
②「町家再生の実践」「旧町名表示板の設置」「姪浜ブランドの認定」「姪浜町家の認定」等の具体的な活動を展開し、目に見える形でまちづくりの効果を伝えてきた。
③「子どもまちなみ探検隊」や「子ども落書き消し隊」等の次の世代を担う子どもたちを対象にした景観づくり普及活動

◆ 3rd ステージ（主に平成26年度～27年度）

- 地域課題：①景観づくりの実践に向けた意識高揚
②平成25年末に味噌の製造場としての約1世紀の役割を終えて閉店した、地域の歴史的・景観的シンボルであるマイヅル味噌のみそ蔵の再生・活用
③みそ蔵に代わる地域のシンボルとなる新たな魅力スポットや、姪浜らしさにこだわった多彩な事業の発掘・発信
- 活動目標：①国の登録文化財のみそ蔵を中心とした姪浜のまちなみの個性の再構築
②次のまちづくりのステージに向けた『姪浜ネクスト』の推進
- 活動内容：①「姪浜景観づくりの手引き」の発行・活用による地域への普及活動
②マイヅル味噌のみそ蔵の再生・継続的活用に向けた活動
③次のまちづくりのステージ「姪浜ネクストの推進」に向けた活動
多彩なよかところを再発掘・活用する「姪浜まち旅プロジェクト計画」の展開

(6) 主な活動内容一覧

段階	活動内容	活動開始年度								
		H 19	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27
1 s t s t e r j i	地域の魅力資源調査	●								
	地域の魅力資源集の作成	●								
	まち歩きマップの作成・発行	●								
	まちづくり講演会・シンポジウム	●								
	景観歴史発掘ガイドツアー	●								
	みそ蔵コンサート	●								
	版画展・町家展	●								
	先進都市調査		●							
	まちなみパネル展		●							
	他団体との交流・連携活動		●							
	町家再生の実践			●						
	灯明コンサート			●						
	旧町名表示板の設置			●						
まちづくり活動拠点の開設・運営			●							
2 n d s t e r j i	地域との交流会				●					
	九州大学との連携				●					
	かわら版の発行				●					
	まちづくり計画策定ワークショップ				●					
	「元気！姪浜計画」の策定				●					
	「姪浜ブランド」の認定					●				
	「景観づくり計画」の策定					●				
	「姪浜町家」の認定					●				
	姪浜展を主体としたウィークリー事業						●			
	町家活用イベント						●			
	着物でそぞろ歩き						●			
	地域のシンボルであるみそ蔵の再生・継続的活用に向けた活動							●		
子どもたちを対象にした景観づくり普及活動							●			
景観まちづくり宣言							●			
3 r d s t e r j i	「景観づくりの手引き」の作成								●	
	海を意識したプロジェクト								●	
	「TEAM 姪浜ネクスト」の推進								●	
	win-win-win-win方式によるまち歩きマップの作成・発行									●
	ポストみそ蔵としての「まち旅プロジェクト計画」の策定									●
	空き店舗を活用した新案内所の開設									●

筆者の思い出の活動 10 景



みそ蔵コンサート



灯明コンサート



景観歴史発掘ガイドツアー



遊覧船ツアー



着物でそぞろ歩き

筆者の思い出の活動 10 景



子ども落書き消し隊



旧町名表示板、横浜町家認定



かわら版、まち歩きマップ、まちづくり計画書



NPO 日本都市計画家協会賞でのプレゼンテーション
(日本まちづくり大賞受賞)



ふるさとづくり大賞受賞式

2 活動のポイントと継続的で多彩なまちづくり活動の成果

(1) 活動のポイント（事務局長として工夫したこと）

筆者が唐津街道姪浜まちづくり協議会の事務局長として精力的に活動した期間（平成19年3月～28年5月）において、事務局長として工夫したことは、次の点である。

- ①各段階の地域課題に対応した長期的展望に立った多彩なまちづくり活動の推進
- ②地域に埋もれている身近な魅力資源の掘り起こし
- ③ヨソモン（地域外の人間）、ワカモン（若者）の視点の活用
- ④計画策定における住民参加、地域との対話や双方向性の確保
- ⑤関係団体、住民、商店、寺社、大学、行政等との協働関係の構築
- ⑥姪浜らしさにこだわった多彩な事業の推進
- ⑦マスコミへの情報発信
- ⑧協議会に参加している地域内外の人々の多様なノウハウ・スキルの活用
- ⑨全国区の助成金へのチャレンジ
- ⑩各種賞の受賞による情報発信

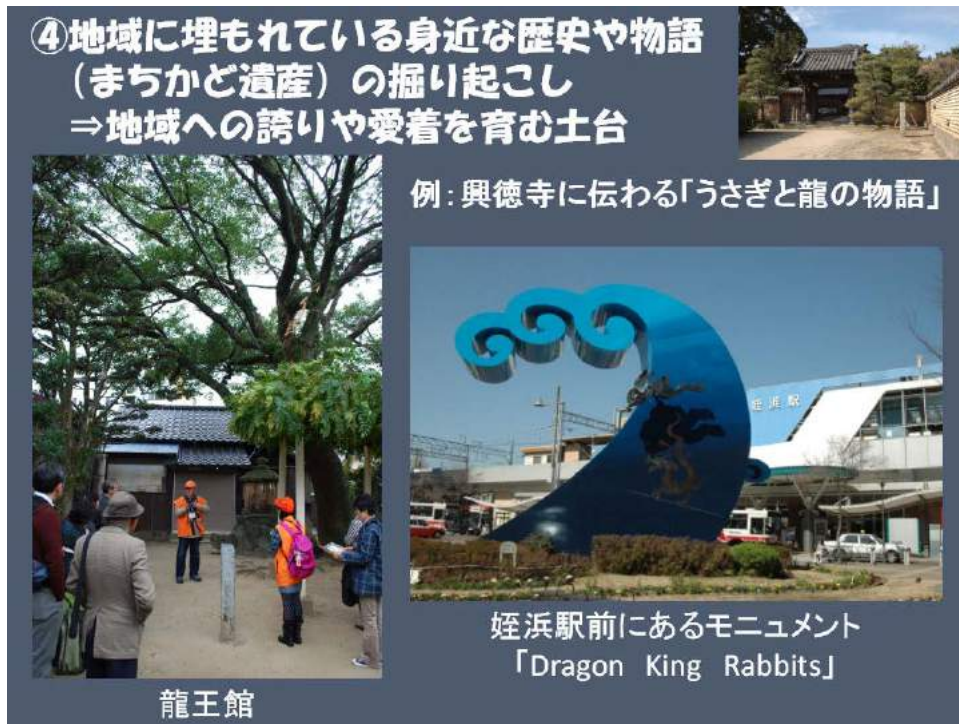
①各段階の地域課題に対応した長期的展望に立った多彩なまちづくり活動の推進

各段階の地域課題やまちづくりの熟度に対応した活動目標を立て、長期的展望に立って、多彩なまちづくり活動を段階的・継続的に進めてきた。

段 階	地域課題	活動目標
1st ステージ (H19～21年度)	○地域住民自身の地域の魅力の認識不足	○地域の魅力の再認識と地域内外への発信
2nd ステージ (H22～25年度)	○地域のまちづくりの方向性が不明確 ○まちづくりの効果の具現化 (具体的に目に見える形で示す)	○地域協働のまちづくり計画の策定 ○景観まちづくりの実践
3rd ステージ (H26～27年度)	○景観づくりの実践に向けた意識高揚 ○地域の歴史的・景観的シンボルであるマイヅル味噌のみそ蔵の再生・活用 ○みそ蔵に代わる地域のシンボルとなる新たな魅力スポットや、姪浜らしさにこだわった多彩な事業の発掘・発信	○国の登録文化財のみそ蔵を中心とした姪浜のまちなみの個性の再構築 ○次のまちづくりのステージに向けた『姪浜ネクスト』の推進

②地域に埋もれている身近な魅力資源の掘り起こし

全国どこへ行っても同じような街並みの形成が進む中で、地域に埋もれている身近な魅力資源を掘り起こすことが、地域への誇りや愛着を育み、姪浜ならではの地域特性を活かしたまちづくり・景観づくりの土台になると考え、各種事業を推進してきた。



身近なまちかど遺産の掘り起こしの例

③ヨソモン（地域外の人間）、ワカモン（若者）の視点の活用

ヨソモン（地域外の人間）、ワカモン（若者）の視点を活用し、長く住んでいると見失いがちな地域の魅力を、外部の人間や若者の新鮮な視点で伝えるよう努めてきた。



ヨソモン(地域外の人間)、ワカモン(若者)の視点が重要

④計画策定における住民参加、地域との対話や双方向性の確保

地域のまちづくり・景観づくりの方向性を共有し、より実践的なものにしていくため、まちづくり計画や景観づくり計画策定における住民参加、地域との対話や双方向性の確保に努めてきた。



ワークショップ等による地域との対話

⑤関係団体、住民、商店、寺社、大学、行政等との協働関係の構築

各事業の実施に当たっては、地域内の関係団体、住民、商店、寺社等の協力を得ながら、お互いに連携して進めていくよう努めてきた。また、九州大学、行政等との協働関係の構築にも努めてきた。



大学、NPO、行政等との連携

⑥姪浜らしさにこだわった多彩な事業の推進

姪浜らしさにこだわった多彩な町並みイベントの実施により、多くの参加者に姪浜の魅力を伝えることに努めてきた。



場所へのこだわりも重要

⑦マスコミへの情報発信

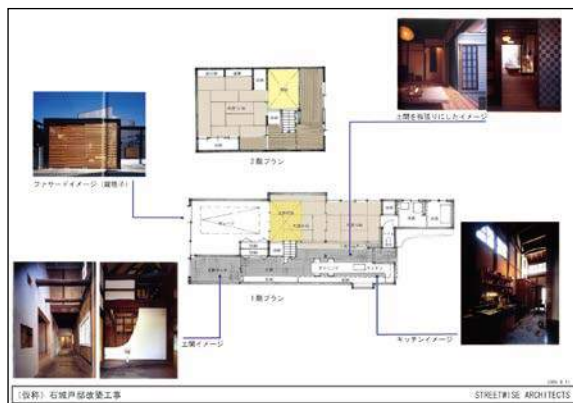
各事業の実施に当たっては、マスコミに取り上げてもらえるような話題性のある活動内容に努め、姪浜の魅力や協議会の活動内容を地域内外に発信してきた。



マスコミに取り上げてもらえるような話題性のある活動内容

⑧協議会に参加している地域内外の人々の多様なノウハウ・スキルの活用

協議会に参加している地域内外の人々の多様なノウハウ・スキルをフルに活用して、多彩な活動を展開してきた。



会員の多様なノウハウ・スキルをフルに活用した事例

⑨全国区の助成金へのチャレンジ

それぞれの時期の課題や目標に沿った活動を推進するため、難関の全国区の助成金に積極的にチャレンジ・採択されることで、協議会活動を加速させてきた。

活動概要	
業種NO	2-59
市町村名	福岡県 福岡市
団体名	唐津街道姪浜まちづくり協議会
活動名	歴史的環境を活かした「住んで良し、訪れて楽し」の町並み・まちづくり推進事業

1. 活動地区の概要
唐津街道沿いの旧城下宿場町の「宿場地区」には、築町も中津、近郊の歴史が町並みの中に見え、福岡市内でも数少ない景観を残している。一方、地区の景観はほぼ崩壊の状況にあり、多くの建物が解体され、空き家や雑草が蔓延しており、訪れる人々も少なく、寂しい。宿場地区の歴史的な景観は、地区内外ともにあまり知られておらず、観光客を惹きつけるような環境になってしまっていることはほとんどなく、観光の発展は宿場地区の活性化や地域振興の向上に繋がっていない。



2. 活動内容
(1) 活動拠点（地域の魅力発見拠点、まちの案内所）の運営
登録有形文化財の境内に開設した協議会の拠点が、まちづくり活動の拠点となり、まちの案内所として機能している。



(2) まちづくり活動の展開
まちづくり活動を広く地域住民や観光客に提供する目的とした「まちづくり週間」を2回開催した。

みそ蔵を再び地域のシンボルに！ ～姪浜の歴史的・景観的シンボル再生活用プロジェクト～



江戸時代の姪浜と唐津街道（筑前名所図會）

2014年7月
唐津街道姪浜まちづくり協議会

地域課題に対応した活動推進のための全国区の助成金へのチャレンジ

⑩各種賞の受賞による情報発信

各種表彰にも積極的にチャレンジ・受賞することで、姪浜及び協議会の名前を全国に発信してきた。



様々な賞の受賞により姪浜及び協議会の名前を全国に発信

(2) 継続的で多彩なまちづくり活動の成果

- ①地域住民の地域への誇りや愛着の創出
- ②活動の広がり
- ③地域の歴史・文化・暮らしを踏まえたまちづくりや景観づくりの方向性の共有
- ④まちづくりの効果を具体的に目に見える形で地域に示す（まちづくりの効果の具現化）。
- ⑤地域資源の保全・活用に向けた意識醸成と双方向のまちづくりへの展開
- ⑥全国的な評価及び姪浜の魅力の全国へのPR、地域への情報発信
- ⑦身近な地域資源を活かしたまちづくりの他地域への波及効果（今後期待）

①姪浜ならではの魅力資源を活かした多彩な活動 ⇒ マスコミの取材回数の増加 ⇒ 来訪者の増加 ⇒ 地域の魅力の再認識と地域内外への発信 ⇒ 地域住民の地域への誇りや愛着の創出



マスコミの取材回数の増加 ⇒ 地域住民の地域への誇りや愛着の創出

②ヨソモンの刺激 ⇒ 地元会員の増加 ⇒ 活動の活性化 ⇒ 大学、行政、NPO、他地域との協働・連携 ⇒ 活動の広がり

③住民参加のワークショップ等により、地域のまちづくり・景観づくりの総合計画となる
『元気！姪浜計画』『景観づくり計画』を策定
⇒ 地域の歴史・文化・暮らしを踏まえたまちづくりや景観づくりの方向性の共有



元気！姪浜計画



景観づくり計画

④まちづくり実践活動の展開

⇒ まちづくりの効果を具体的に目に見える形で地域に示す（まちづくりの効果の具現化）。



旧町名表示板



姪浜町家認定プレート



案内所の開設

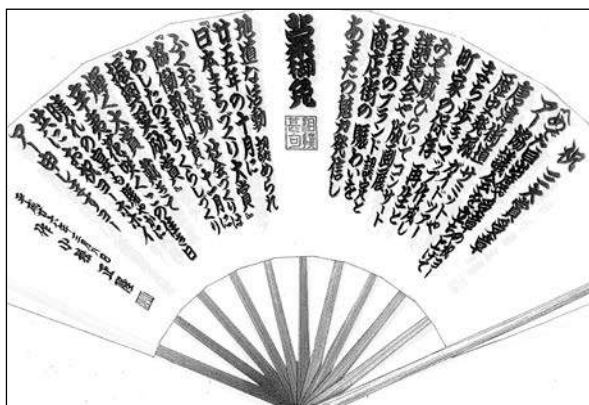


子ども落書き消し隊

⑤自主的に景観形成に配慮した建築物等の増加

地域住民から「相撲甚句」や「史跡めぐりの歌」の贈り物

⇒ 地域資源の保全・活用に向けた意識醸成と双方向のまちづくりへの展開



地域の方で作っていただいた相撲甚句(左)と史跡めぐりの歌(右)

⑥各種賞の受賞

⇒ 全国的な評価及び姪浜の魅力の全国へのPR、地域への情報発信



マスコミ掲載 ⇒ 地域への情報発信

⑦姪浜での活動成果の発信

⇒ 身近な地域資源を活かしたまちづくりの他地域への波及効果 (今後期待)

- ・まちづくりの熟度に応じた多彩な活動の展開
- ・「こだわり」「おもてなし」「多彩」「粘り強さ」「地道」



身近な地域資源を活かしたまちづくりの他地域への発信

コラム1 まちづくり活動の思い出

筆者が姪浜に関心を持つようになった最大のきっかけは、平成17年3月20日の福岡県西方沖地震である。玄界島の被害の状況が大きくクローズアップされたが、姪浜住吉神社の鳥居・門が倒壊した様子も新聞やテレビで報道された。心を痛めると同時に、「姪浜にはまだこんなに歴史的建造物が残っているのか」と前向きに考えた。これがきっかけで、福岡市都市景観室時代に見落としていた身近な姪浜のまちづくりに取り組むことになった。筆者らがまちづくり協議会を立ち上げたのは、福岡県西方沖地震から2年後の平成19年3月26日である。筆者が49歳の時である。

それ以来、筆者は事務局長として、姪浜ならではのまちづくり推進のための企画立案、関係者との協議・調整、具体的な実践を率先して行う他、会計事務、各種申請事務など時間と労力を要する多くの業務を粘り強く推進してきた。

当初は、活動が軌道に乗るまでの3年間程度は頑張ろうと考えていたが、様々な活動を展開する中でいろいろな成果も表れ、活動も進化させていった。また、それぞれのステージの地域課題に対応したまちづくりの目標を立て、具体的な事業を展開してきた。姪浜への熱い想いを込めた10年間の活動は、「都市景観大賞（国土交通大臣賞）」や「ふるさとづくり大賞（総務大臣賞）」等として評価され、姪浜の魅力や協議会の活動を全国に発信することができた。



福岡県西方沖地震での姪浜住吉神社の被害



地域への想いを込めた多彩な活動のひとつ

このように姪浜という地域は筆者にとって魅力的なフィールドであり、姪浜での10年間の活動はとても充実したものであった。そして、地域内外の多くの方々との出会いが、筆者の活動のエネルギーであり、精力的な活動で得たものも多かった。筆者は、10年という節目に協議会卒業という道を選択したが、これまでの活動を振り返るとともに、環境を変えて、さらに自分を磨いていく絶好の機会と考えたのである。（次ページに続く）



筆者の姪浜での最後の晴れ舞台となった「ふるさとづくり大賞」受賞式

また、筆者には忘れられない言葉がある。「放し飼いの役所職員、固有名詞のある役所職員」。これは、平成 26 年 10 月の(公社)日本建築士会連合会のまちづくり賞の審査委員会で、ある審査員が筆者に付けた呼び名である。筆者は役所から決して放し飼いにされているわけではなく、唐津街道姪浜まちづくり協議会の初代事務局長として長年、市役所の業務の枠を超えて精力的にまちづくり活動に取り組んできた。姪浜への熱い想いを込めた活動は、全国レベルの賞を何回も受賞するなど、多くの成果を上げてきた。そういう意味では、筆者にふさわしい呼称であり、誇りにしたい言葉である。もっと聞こえのいい言い方をすれば、「業務の枠を超えて地域に飛び出す公務員」ということなのだろうか。

筆者は平成 30 年 3 月末で福岡市役所を退職し、「放し飼いの役所職員、固有名詞のある役所職員」も卒業するが、退職後は市役所の業務や姪浜でのまちづくり活動の経験を活かし、「放し飼いのまちづくり人、固有名詞のあるまちづくり人」として、まちづくり活動や執筆、講演等を通じて、いろいろな地域で「身近な地域資源を活かしたまちづくり」を支援していきたいと考えている。

【審査講評（抜粋）】

○よそ者の建築士が活動し、景観形成まで手がけるという活動。その中に自治体の職員もいたということ。地域活動に役人が主体的に参加することは立場上難しいところがあり、地域の個性を大切にしたいという強い想いを持つ職員が「放し飼い職員」として果たした役割も大きいと感じた。今後とも、固有名詞のある役所職員として頑張ってもらいたい。

日本建築士会連合会のまちづくり賞での公開プレゼンテーション⇒
(上2枚の写真は日本建築士会連合会提供)



姪浜でのまちづくり活動の経験を活かした執筆活動や講演活動

第2章

地域づくりを巡る小さなまち旅を通して

3 思い出に残る地域・集落

筆者は大学時代から街並みや建築物に興味を持ち、多くの地域、集落、伝統的町並み、歴史的建造物、現代建築等を見て回った。共通しているテーマは、それぞれの地域固有の歴史・文化・風土を活かした地域づくりと景観づくりの取り組みである。

この中から、唐津街道姪浜まちづくり協議会在籍中から実践している「身近な景観づくりを巡る旅」や、まちづくり協議会卒業直後に始めた「地域づくりや建築の原点に戻る旅」「熊本の復興の過程を巡る旅」を通して感じていることを中心に紹介する。

		思い出に残る地域・集落等
	熊本大学時代 ～鴻池組時代 (昭和51年4月～ 昭和61年3月)	<ul style="list-style-type: none"> ■伝統的町並み (栃木、川越、倉敷) ■港・都市計画 (三角西港) ■アーバンデザイン (代官山ヒルサイドテラス) ■ヨーロッパの街並み・集落 (フィレンツェ、ベネチア)
福岡市役所時代	まちづくり協議会 活動以前 (昭和61年4月～ 平成19年2月)	<ul style="list-style-type: none"> ■地域づくり (小布施、御供所) ■伝統的町並み (小樽、函館、角館、栃木、川越、金沢、飛騨高山、京都、奈良、富田林、出石、八女、知覧) ■アーバンデザイン (横浜、パリ、ベルリン、シュトゥットガルト、バルセロナ) ■ヨーロッパの街並み・集落 (ハイデルベルク、ローテンブルク、ベネチア、エジンバラ、コッツウォルズ、バルセロナ、パリ、アムステルダム)
	まちづくり協議会 活動中 (平成19年3月～ 平成28年5月)	<ul style="list-style-type: none"> ■地域づくり (村上) ■産業遺産 (軍艦島) ■伝統的町並み (角館、横手増田、喜多方、大内宿、川越、長岡、倉敷、高梁、吉井、八女、大川、津屋崎、内野宿、肥前浜宿、塩田宿、杵築、臼杵) ■アーバンデザイン (代官山ヒルサイドテラス及びその周辺)
	まちづくり協議会 卒業後 (平成28年6月～) ・地域づくりや建築 の原点に戻る旅 ・熊本の復興の過程 を巡る旅	<ul style="list-style-type: none"> ■地域づくり (免の石) ■港・都市計画 (三角西港) ■伝統的町並み (有田、八女) ■集落 (外海、崎津) ■洋風建築 (孤風院) ■熊本地震被害 (熊本城、阿蘇神社、阿蘇大橋、南阿蘇村、益城町、熊本市新町・古町) ■物語 (広川町のイチョウ並木、熊本市上乃裏通り)

注1) ○○○は、取り組み事例で紹介する地域等

注2) ○○○は、コラムで紹介する地域等

注3) ○○○は、手記やメッセージ等で紹介する地域等

「参考資料1 筆者がまちづくり協議会活動期間中及び卒業後に訪れた主な地域・集落等」

取り組み事例で紹介する地域



福岡県福岡市御供所



長野県小布施町



新潟県村上市



秋田県横手市増田



福岡県八女市八女福島



福岡県大川市小保・榎津



福岡県福津市津屋崎



福岡県飯塚市内野

4 身近な景観づくりの取り組み

(1) 北部九州の身近な景観づくりの取り組み

まずは、町並み等の地域固有の魅力資源を活かしたまちづくりの取り組み事例を紹介する。

■肥前浜宿（佐賀県鹿島市）

肥前浜宿は、浜川の河口につくられた在方町（江戸時代の農村における小都市集落）である。江戸時代は長崎街道多良往還（多良海道）の宿場町として、また有明海に臨む港町として栄え、明治以降も酒造業や水産加工業に支えられ、豊かな町並みがつくられてきた。江戸時代から「浜千軒」といわれ、通り沿いには今でも白壁土蔵造りの酒蔵や草葺の町家が立ち並び、伝統的な景観を色濃く残している（伝統的建造物群保存地区）。

浜中町八本木宿伝建地区は、近世の宿場町から酒造など醸造業を中心に発展し、街路と水路を骨格とする町である。防火構造の居蔵造町家、土蔵造大型酒蔵、棧瓦葺真壁造町家、茅葺町家、武家住宅、洋風建築等、質の高い建築が豊かな町並みを創出し、変化のある独特の風情を醸し出している。漆喰のはがれた土壁も素朴で風情がある。筆者らが訪問したのは、9月中旬でまだ暑い時期であったが、酒蔵に入ると少しひんやりしていた。町並みが産業や生業と関係あることが実感できるまちである。

また、浜庄津町浜金屋町伝建地区は、近世に鹿島藩の港町として、商人や船乗り、鍛冶屋等が住み発展した。海道と小路が町のフレームを形成し、道沿いや敷地背後に水路が走る。河港の在郷町としての地割をよく残し、茅葺や棧瓦葺の町家が建ち並ぶ、特色ある歴史的風致を今日によく伝えている。



肥前浜宿（浜中町八本木宿伝建地区）の町並み



肥前浜宿（浜庄津町浜金屋町伝建地区）の町並み

■塩田宿（佐賀県嬉野市）

塩田宿もかつて長崎街道沿いに栄えた宿場町である。すぐ近くを流れる塩田川は当時、嬉野や有田など、焼物の積み出しや陸揚げを行う港として利用され繁栄した。物資取引の中心地となった馬場下一帯は今も白壁造りの町家が残り、当時の様々な建築様式がかつての面影を伝えている（伝統的建造物群保存地区）。また、塩田石工による石垣や仁王像、恵比寿像等が加わって良好な歴史的風致を構成している。

人通りは少なかったが、町家、寺社、塩田川等の多彩な魅力資源と歴史は、姪浜の参考になると思った。地域資源の掘り起こしの大切さを改めて感じたところである。



塩田宿の町並み

■^{もりたけ}森岳 商店街（長崎県島原市）

森岳商店街は、島原市内の6つの商店街のひとつである。近くに島原城があり、この特性を活かしたまちづくりを進めている。伝統的建造物群保存地区ではないが、古い町家や商家を「登録有形文化財（文化庁）」「まちづくり景観資産（長崎県）」「まち並景観賞（島原市）」の制度で認定することで、歴史的景観を活かしたまちづくりを進めている。

また、古い町並みと調和した商店（酒屋、金物屋、レストラン等）が人気となっており、姪浜でも参考になる事例である。



森岳商店街の町並み

■^{こうじろくうじ}神代 小路（長崎県雲仙市）

神代小路は、天正15年（1584年）の九州国割を経て、慶長13年（1608年）鍋島信房が初代

領主となったことに始まる。城跡の森と塀を兼ねた川に囲まれた武家地ならではの閉鎖的な空間を有している。江戸中期の地割りをよく残し、武家屋敷建築の主屋や長屋門が、屋敷囲いを構成する生垣や石垣、水路等の環境要素と相まって美しい町並み景観を醸し出している（伝統的建造物群保存地区）。

定年を機会に神代小路に戻られる方もいるとのことであるが、高齢化が進み、人口も減少するなど、町並みを維持していくことの難しさを感じた。



神代小路の町並み

■昭和の町（大分県豊後高田市）

昭和の町は、昔どこにでもあった町並み（今は失われた町並み）を逆手にとり、『商業と観光』の一体的振興策として「昭和の町」づくりという明快なテーマをもとに、店舗修景（お化粧品直し）、かつて1万俵の米を納めていた旧農業倉庫を活用した観光拠点づくり（昭和の夢町三丁目館）、地元住民がまちを紹介する「ご案内人」制度など、オリジナリティある取り組みが行われている。



昭和の町の町並み

■臼杵^{うすき}（大分県臼杵市）

臼杵は城下町で、寺院、町家、商家、武家屋敷、洋館が混在しており、独特の町並みを形成している。特に二王座付近は、ゆるやかな坂道が続く静かな町であり、伝統的建造物群保存地区ではないが、質の高い建築が豊かな町並みを創出し、変化のある独特の風情を醸し出している。町家も狭い路地に密集して建ち並んでおり、迷路のようである。江戸時代から現在に至るまでの長い歴史を随所に感じる事ができた。



臼杵の町並み

■^{きつぎ}杵築市北台南台（大分県杵築市）

杵築は江戸時代の城下町の風情が残るまちである。杵築城を中心として南北の高台に武士が住み、その谷あいには商人が住んでいた町で、「サンドイッチ型城下町」の構造となっている。特に北台武家屋敷通りは、上級武士や家老たちの屋敷がずらりと並び、今でも色濃く江戸時代の面影を留めている（伝統的建造物群保存地区）。

また、江戸の粋な風情を残す町家境界の町並みもあるが、道路拡幅によりヒューマンスケールの界限性が失われ、イメージが大きく変わってしまったような気がする。神代小路と同様に、高齢化と人口減少が進み、町並みを維持していくことの難しさを感じた。



杵築市北台南台の町並み

■その他

この他、木屋瀬（北九州市）、赤間（宗像市）、津屋崎（福津市）、内野（飯塚市）、筑後吉井（うきは市）、八女福島（八女市）、小保・榎津（大川市）、有田内山（有田町）、山鹿（山鹿市）、新町・古町（熊本市）等を訪問し、それぞれの地域の景観づくりの取り組みを学んできた。このうち、八女福島、小保・榎津、津屋崎、内野については、後述（第2章の6）の「まちなみネットワーク福岡に所属する団体の取り組み」の中で紹介する。

(2) 福岡市御供所地区

次に、筆者が福岡市職員として直接業務に携わった御供所地区の景観づくりの取り組みを当時を振り返りながら紹介する。

■歴史的特性

聖福寺を中心として、承天寺、東長寺等の寺社群が織りなす景観は、福岡市の悠久の歴史を物語り、広大な寺社境内の豊かな緑は、都心部の雑踏を感じさせない心休まる雰囲気を提供している。また、戦災を受けなかったことによって約400年前の太閤町割り、短冊型の敷地、路地空間、伝統的な雰囲気を感じさせる町家等が継承されている。さらに、山笠や松ばやしなど全国に誇る伝統行事もある。これらが調和して醸し出す歴史的な雰囲気や人間的なつながりは、御供所地区固有の財産である。



聖福寺と幻住庵の間の路地



伝統的町家建築と聖福寺



普賢堂の町並み



聖福寺の前を走る山笠

(※写真はいずれも平成5年頃撮影)

■地域主体のまちづくり活動

しかし、この地域では当時、人口の減少や高齢化が進むことで、山笠等の伝統行事や地域コミュニティをどのように維持・継承していくかが深刻な問題となっていた。また、町並みの連続性や町家の知恵として継承されてきた伝統的な住まい方も次第に失われ、日照・通風・プライバシー等の生活環境面でも様々な問題が生じつつあった。

こうした状況の中で、自治会が中心となって平成5年3月に「御供所まちづくり協議会」を発足し、「歴史や文化を活かしたまちづくり」「住み続けられるまちづくり」を目指した活動を開始した。

福岡市も住民主体のまちづくりを支援していくため、平成6年10月にまちづくり協議会を都市景観条例に基づく「景観づくり地域団体」として認定し、まちづくり活動に必要な経費の一部を助成して、地域における本格的なまちづくり活動が始まった。



景観づくり地域団体の認定(平成6年10月)

まちづくり協議会の活動状況（当時の瀧田喜代三まちづくり協議会会長のコメントより）

平成7年2月から、住民によるまちづくりを進めています。御供所地区と同じような悩みを持った他都市の調査をはじめとして、歴史的な環境を活かしたまちづくり、まちの活性化等について勉強を重ねてきました。これによって「地域のまちづくりは、地域住民が中心になって進めていく」という自覚ができたと思います。

同年12月には、住民に対するまちづくりアンケート調査を実施しました。回収率は55%と低く、まちづくりへの関心はまだまだといった感じでしたが、回答したほとんどの人が「歴史的な環境と地域社会の人的なつながりを大切にして、今後も住み続けていきたい」と考えていることがわかりました。

このアンケート調査の結果を受けて、平成8年3月、住民のまちづくりへの関心を高めてもらうことを目的に「まちなみウォッチング&都市景観シンポジウム」を開催しました。これは地域住民以外の人たちも巻き込んだワークショップ形式のシンポジウムで、参加者自らが自分の手、足、目、耳を使って御供所地区のまちづくりを考えようというものでした。多くの方に参加していただき、古き良き御供所地区の魅力を再発見してもらえたと思います。私たちにとっても、多くの人々が御供所地区に高い関心を持っていることがわかり、自分のまちの良さを再認識するきっかけになりました。

同年8月からは、地域住民を中心にしたワークショップや講演会等を月1回程度のペースで行いました。こういった取り組みを通して、御供所地区の価値を確認し、住民によるまちづくりへの認識が深まったのではないかと思います。

平成9年2月からは景観形成地区指定に向けた具体的なルールづくりに着手し、景観形成の目標とルールについてまちなみ模型、イラスト、スライド等を使って1年間ほど検討を重ねてきました。

このような地域住民と福岡市都市景観室が一体となった長年にわたる粘り強い取り組みが、今回の景観形成地区指定につながったと思います。これでやっとスタート地点に立てたわけですが、まちづくりはこれからが本番だと気を引き締めているところです。

（出典：「福岡市都市景観情報誌 彩都」No.4）



京都市西陣大黒町の視察(平成7年2月)



御供所小学校でのワークショップ(平成8年3月)



ワークショップや講演会の開催(平成8年8月～9月)



■景観形成地区指定の内容

こうした地域主体の取り組みを受け、景観形成地区指定の区域、景観形成方針、景観形成基準を次のように定めている。内容は寺社境内地区の歴史的環境の保全と、その周辺地区の寺社と調和した落ち着いた町並みの形成及び住環境の整備を主眼としている。

【区域】

聖福寺、承天寺、東長寺等の名刹と、地区内の主要な生活道路である西門通り、追い山コースでもある御供所通りを含む地区を、その対象区域としている。また、それぞれの特性を考慮して、①寺社境内地区、②普賢堂地区、③御供所通り地区など8地区にゾーンを分けている。

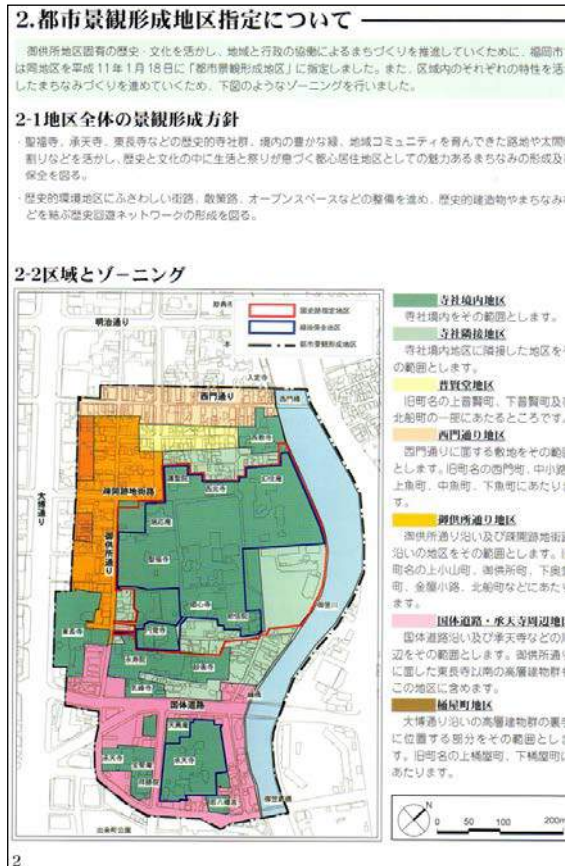
【景観形成方針】

まず、地域全体の景観形成方針を「歴史と文化の中に生活と祭りが息づく都心居住地区としての魅力あるまちなみの形成・保全」「歴史回遊ネットワークの形成」としている。これを受けて、各ゾーンごとの方針を定めている。例えば、寺社境内地区では「歴史的建造物と境内の豊かな緑の保全」を、また普賢堂地区では「博多の歴史を感じさせるまちなみの形成」「町家の知恵を現代に活かした快適な居住環境の形成」としている。

【景観形成基準】

特徴的な基準としては、「通りに沿って連続する壁面と軒の線の確保」「3階以上の壁面後退に

よる圧迫感のないまちなみの形成」「瓦屋根によるまちなみの形成」「寺社からの眺望への配慮」等が挙げられる。



景観形成地区指定の内容(福岡市「御供所地区都市景観形成地区 景観形成ガイドライン」より引用)

■景観形成地区指定を契機としたまちづくり

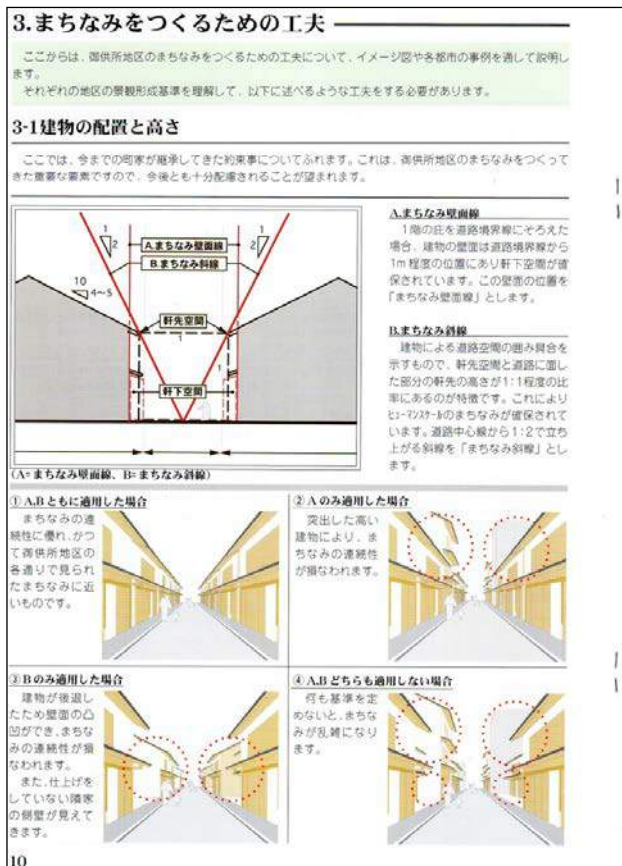
このように長期的な視点に立って景観形成方針と景観形成基準を定めているが、地区指定の意義は、指定を契機として、地域住民、寺社群、行政の三者が一体となって御供所地区固有の歴史・文化を活かしたまちづくりを進めていくことにある。

担当者としての当時の筆者の感想

景観形成地区指定に当たり苦労したのは、どういう景観を目指すのか、どうしたらいい景観になるのかを地域の方々にわかりやすく伝えることだった。そのため、できるだけ図やイラストを使い、場合によってはパースやまちなみ模型を制作することもあった。

また、地域の方々は概ね前向きだったが、別の場所に住んでいる地権者の中には「なぜ聖福寺が中心なのか。博多の中心は櫛田神社だ。」と市役所に怒鳴り込んで来る方もいた。また、御供所は山笠の流れは大半が東流であるが、一部恵比寿流の地域があり、地域コミュニティの難しさを痛感することが何度もあった。

いろいろなことはあったが、平成10年11月にシーサイドももち地区に続く景観形成地区の第2号として指定した。地元に入って5年半かかったが、それだけ思い入れも多い。



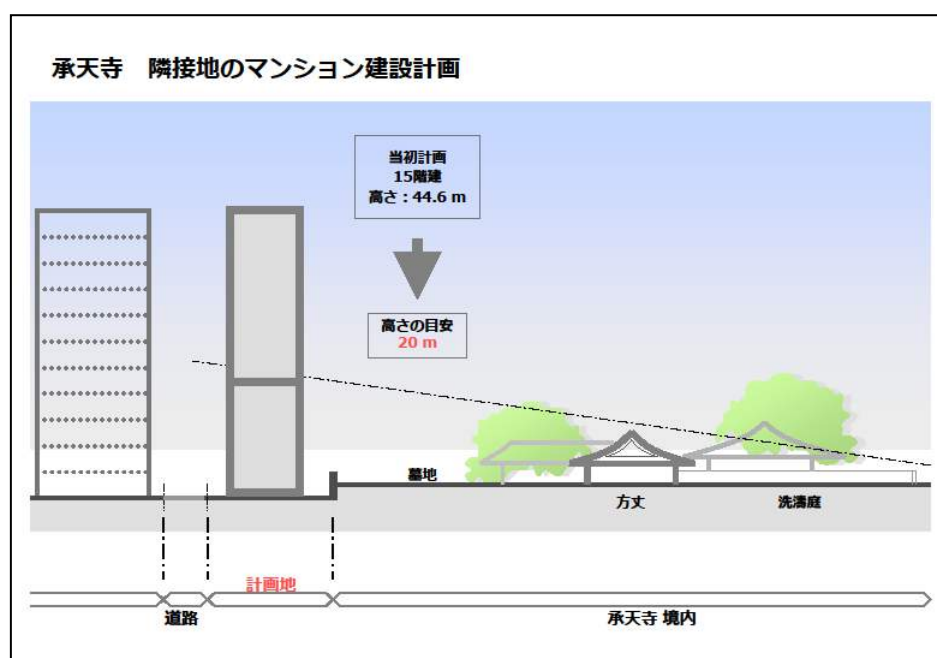
■景観形成地区指定後の状況

景観形成地区指定後、街路整備やお寺の塀・門の修景等は進んでいる。また、平成18年には、都市景観条例制定20周年記念事業の一環として「御供所ライトアップウォーク」が開催され、その後、博多の秋のイベントとして定着していくことになった。

さらに、平成20年には、承天寺に隣接する場所で高層マンションの建設計画が持ち上がり、景観論争となり、これをきっかけとして、高さ制限が景観形成基準に盛り込まれることになった(平成23年5月)。その後、平成28年3月には、御供所地区都市景観形成地区及び承天寺通り周辺が「福岡市景観計画」の中で歴史・伝統ゾーンとして新たに位置付けられ、届出対象規模の見直しにより、景観形成地区周辺でもよりきめ細やかな景観誘導を図ることになった。



御供所ライトアップウォーク(福岡市「御供所地区 都市景観形成地区での取り組み」より引用)



承天寺に隣接する場所での高層マンションの建設計画
(福岡市「御供所地区 都市景観形成地区での取り組み」より引用)

筆者が御供所に関わり始めた平成5年頃は福岡市民にほとんど知られていなかった御供所であるが、景観づくりの取り組みを通して「寺町・御供所」として知られるようになったことは本当に嬉しい。

政令指定都市で都心部にこれほどの歴史的な環境が残っている都市は、京都市以外にはなく、福岡市のコントラストのある都心づくりの一環として、官民協働で「景観」「回遊」「地域活性化」等の総合的な視点でまちづくりに取り組み、その魅力にさらに磨きをかけていくことが重要である。また、歴史まちづくり法に基づく歴史的風致維持向上計画策定やそれに基づく支援制度についても検討してもいいのではないだろうか。それだけのポテンシャルを備えた地域である。



東長寺五重塔(左)と聖福寺境内(右)



博多千年門



承天寺通り



聖福寺



普賢堂の町並み

最近の御供所(平成 28 年 12 月～29 年 11 月)

5 思い出に残る地域づくりの取り組み

前に紹介した「思い出に残る地域・集落」の中から、3地域の事例を紹介する。

(1) 長野県小布施町

りんごや栗といった特産品以外に、何もない町から出発した小布施町であるが、「北斎」という小布施ゆかりの人物をきっかけに、「町並み修景」「花のまちづくり」を進めるなど、暮らしやすく面白いまちづくりを展開し、多くの人を訪れる町になった。「面白い町をつくる」⇒「来訪者が多くなる」⇒「活気が生まれる」⇒「町はさらに面白くなる」、この好循環の繰り返しにより成功した事例である。

■小布施町の概要

- ・長野市から電車で約30分の距離
- ・半径2kmに全戸が入る小さな町
- ・人口：約11,000人
- ・来訪者（観光客）：約120万人／年
- ・地形的特徴：千曲川、雁田（かりだ）山など、豊かな自然に恵まれた町
- ・ゆかりの人物：浮世絵師・葛飾北斎、俳人・小林一茶、地元豪商・高井鴻山
- ・特産品：りんご、ぶどう、栗、栗菓子



フローラルガーデンおぶせから雁田山を望む

■まちづくりへの嚆矢となった北斎館

- ・小布施のまちづくりは、昭和51年の北斎館開館から始まったと言われている。小布施は、昭和40年代はりんごを中心とする農業と栗菓子産業の他は、これといった産業のない、ありふれた町であった。また、この時期、町では人口過疎化問題が深刻化し、外部からの居住者流入を促すため、長野市のベッドタウン形成を目指していた。
- ・ちょうどこの時、人口拡大策に関連して町が着目したのは、「この町には北斎の作品が数多く残されている」ということであった。①個人所蔵では、いずれ散逸と破損を免れない。②北斎が天井絵を描いた東町・上町祭屋台の専門的な収蔵庫も欲しい。③作品を展示するだけでなく、北斎の研究拠点にしたい。等々の理由で建設された北斎館は、地方の小さな町での美術館の珍しさと北斎の肉筆画だけを集めた美術館ということで、「田んぼの中の美術館」として注目（揶揄）を集め、全国から多くの人小布施を訪れるようになった。
- ・昔から文化志向の強い地域性であったことに加え、全国からの来訪者の増加により、住民には「世界的画家・葛飾北斎の数多くの作品が残る歴史と文化の町の住民」であるという誇りが生まれ、これが大きなきっかけとなって、文化活動や地域づくりへの取り組みが一段と活発になっていった。

※来訪者：①北斎館開館前はほとんどいなかった。

②北斎館開館初年の昭和51年には約35,000人が北斎館を訪れた。

③現在は1年間に約120万人とも言われる人々が小布施を訪れている。



小林一茶の句碑「拾われぬ 栗の見事よ 大きさよ」



北斎館

■ 儻然楼（ゆうぜんろう）周辺町並み修景事業

- ・北斎館に続くのが、「儻然楼周辺町並み修景事業」である。この一帯は、小布施の町組（室町時代の都市における町々の自治組織）発祥の地であり、北斎館をはじめとする美術館群と、老舗の栗菓子店や大壁造りの民家等により、特徴ある歴史的景観をとどめ、小布施文化の雰囲気数を多く残している地域である。町の総合計画でも、歴史文化ゾーンと位置付けられている。
- ・北斎館の来館者が増えるにつれ、周辺部の整備が懸案となった。町ではまず、小林一茶や葛飾北斎が滞在し、小布施文化のサロンとなった高井鴻山の隠宅「儻然楼」を昭和 57 年に譲り受け、翌年、高井鴻山記念館としてオープンした。
- ・記念館建設の話が持ち上がった頃、周辺の住民から「これを契機に、儻然楼周辺の町並み整備をしたらどうか」という提案があった。これを受けて、1.6ha のエリア内の地権者が町並み修景を柱とするまちづくり計画についての話し合いを始め、地元の建築家・宮本忠長氏を含めて2年間に及ぶ話し合いを重ね、計画がまとまった。
- ・その後、この計画に基づき、昭和 59 年～62 年にかけて、民家・金融機関の移設、店舗の新築等が行われ、①民家における居住環境の改善、②金融機関や店舗等におけるイベントにも対応できる共同駐車場の確保、③歩道の拡幅（栗の木のブロックが敷き詰められた、くつろぎの歩行者空間の確保）が実施された。



高井鴻山記念館



共同駐車スペースである幟（のぼり）の広場

- ・その結果、元々その場所にあった民家、金融機関、店舗、工場、公園を外に出すことなく、それらを組み替えて混在させたエリアが完成した。また、各建物が路地で結ばれ、住む人、働く人、来訪者にとって快適で楽しい回遊路が創出された。その後、順次レストラン等の整備が行われ、現在に至っている。



栗の木のブロックが敷き詰められた歩道



修景された町並み(小布施堂本店)

- ・また、同時に行われた町並み修景事業は、江戸時代からの高い文化性を伝承したこの地域固有の建築景観を活用する形で行われ、その後に周辺に展開することになるまちづくりのイメージを具体的に提示することになった。
- ・この事業の特色としては、①官民の協力によってスタートした町並み修景事業が周辺に良い影響を与え、あわせて諸制度が制定されて自主的なまちづくりが広がったこと、②伝統を継承したまちづくりが栗菓子をはじめとする地元の産業と結びついたこと、③地元の建築家がまちづくりの過程に終始責任をもって関与していることなどが挙げられる。



修景された町並み(榎一市村酒造場本店)



傘風楼テラス

■町並み修景事業の周辺への波及

- ・倭然楼周辺町並み修景事業は、数々の名誉ある表彰を受け、まちおこしの成功例として一躍注目を浴びた。多くの人が小布施を訪れ、「栗」「北斎」と並んで「町並み修景」が大きな発信性と求心力を持つようになった。外部からの高い評価は、住民のまちづくりへの参加意欲を高め、修景の考え方に沿った建物が町の中に次第に増えていった。
- ・行政の方でも、倭然楼周辺町並み修景事業をきっかけに、地域の特性を活かした住民主体の

- まちづくりを進めやすいような制度を整えていった（環境デザイン協力基準、うるおいのある美しいまちづくり条例、景観関連の各種マニュアルの制定、住まいづくり相談所の開設等）。
- ・小布施流のまちづくりは、「外はみんなのもの、内は自分のもの」という言葉に象徴されるように、まずは住む人の快適な暮らしを優先し、その上で町並みに調和した外観づくりを工夫している。これは、「住む人が快適と思わない町は、来訪者にとってもきっと居心地の悪い場所に違いない」という小布施流のまちづくりの理念が貫かれているからである。



周辺に広がる町並み修景



HOPE 計画と景観関連のマニュアル

■小布施の新しい個性「花のまちづくり」

- ・小布施では昭和 55 年以来、「よそおいの花づくり」「福祉の花づくり」「産業の花づくり」の三つの観点から花のまちづくりを主要施策として取り組んでいる。そのため、メインストリートだけでなく、小さな空き地や民家の軒先、畑の一隅でも心のこもった美しい花壇に出会うことができる。



そこかしこに展開される花のまちづくり

- ・住民参加の手作りの花のまちづくりの拠点となるのは、「フローラルガーデン小布施」（平成 4 年開設）である。1.5ha の敷地は、花壇、築山、芝生の広場で彩られ、四季折々の花が咲き乱れ、常に多くの来訪者で賑わいを見せている。しかし、ここは観光目的だけの施設ではなく、住民にとっては「花のまちづくり」の情報発信基地の役割も担っている。住民は、ここで花作りを体験したり、園芸の指導を受け、その技術を自邸の庭先や近くの公園の花作りに活かしている。

- ・平成 12 年からは、「丹精込めた庭を、より多くの人と楽しもう」「出会いや交流を通じて、花と緑があふれる豊かな生活文化を高めよう」という願いを込めて、個人の庭を公開する「小布施オープンガーデン」がスタートした。オープンガーデンが住民と行政の協働によって運営されるのは、全国で小布施が最初の事例である。現在までに約 130 箇所の個人庭園が公開されている。
- ・このように花のまちづくりにおいても、観光目的でない手作り、いわゆる小布施流の「こだわり」「もてなし」のまちづくりが展開されている。だれでも参加できる花作りを通して、いずれは小布施の町全体がひとつの大きな花公園になっていくのではないだろうか。



フローラルガーデン小布施



オープンガーデンの一例

■歩いて楽しめるまちづくり

- ・「栗」「北斎」「町並み修景」「花のまちづくり」といった小布施ブランドだけでなく、小布施の見どころは他にもたくさんある。
- ・アーティスティックな施設としては、「北斎館」「高井鴻山記念館」の他に、「おぶせミュージアム」「千曲川ハイウェイミュージアム」「日本のあかり博物館」等があり、高井鴻山が土台を築いた芸術を愛する風土は、今でも小布施人によって連綿と受け継がれている。
- ・歴史や伝統を感じさせるものとしては、「岩松院」「玄照寺」といった由緒ある寺院の他に、「陣屋の小径」「平松家の土蔵と小道」等があり、観光地化された商業主義の町並みとは、ひと味もふた味も違う、住民のもてなしの心が伝わってくる町並みが印象的である。
- ・このように、見どころの多い小布施であるが、約 4 km 四方のエリアなので、スニーカーを履いて散策するのにちょうどいい広さである。①パーク&ウォーク、②レトロなシャトルバスによる周遊、③レンタサイクルによる回遊など、いろいろな楽しみ方があるが、小布施の町は歩いてみてこそ、その良さがわかる町である。



シャトルバス「おぶせ浪漫号」

【参考】小布施町のまちづくりの経緯（昭和51年の北斎館開館～平成12年頃）

	地域住民や団体の動き	行政の動き	
		景観形成を中心とした動き	その他関連事項 (花のまちづくり等)
北斎館開館	S51 来訪者の増加 ↓ 地域に対する住民の誇りの創出 ←	S40 頃 人口過疎化問題→長野市のベッドタウン化の動き ↓ S45 頃 北斎に着目、北斎館建設へ S51 北斎館開館	
町並み修景事業と波及効果	S57 脩然楼周辺の町並み ← 整備について提案。 修景を柱とするまちづくり 計画策定(～S59) ↓	S56 第二次総合計画策定。 北斎館・脩然楼周辺地区を「歴史文化ゾーン」に位置付ける。 S57 高井鴻山隠宅「脩然楼」を譲り受け、 記念館建設へ S58 高井鴻山記念館開館	S55 28 自治会に「町を美しくする事業推進委員会」を結成。花のまちづくり始まる。
	S59 脩然楼周辺町並み修景事業(～S62) 以降、H4年までレストラン等の整備が行われ、現在に至る。 ↓		
	住民のまちづくりへの参加意識の高揚 ↓ 景観形成活動の展開 修景事業の周辺への展開 ↓ H3 小布施景観研究会発足	S61 総合計画後期基本計画策定 環境デザイン協力基準の骨子作成 ← うるおいのあるまちづくり優良公共団体として「自治大臣賞」受賞 S63 地域住宅計画(HOPE計画)策定 環境デザイン協力基準の具体化 H1 住まいづくり相談所の開設 H2 うるおいのある美しいまちづくり条例制定。まちづくり貢献者表彰制度や助成制度を盛り込む。 H3 第三次総合計画策定 H4 住まいづくりマニュアル作成 広告物設置マニュアル作成	H1 ヨーロッパ花のまちづくり町民海外研修開始(～H4) H4 フローラルガーデンおぶせ開設
新たな展開へ	H5 (株)ア・ラ・小布施(第3セクター)設立 ↓ H7 栗どっこ市始まる。(ア・ラ・小布施) H9 ゲストハウス小布施開館(ア・ラ・小布施)	H6 「都市景観100選建設大臣賞」受賞 H9 あかりづくりマニュアル作成 H13 第四次総合計画策定	H6 花のあるまちづくりコンクール「農林水産大臣賞最優秀賞」受賞 H8 シャトルバス「おぶせ浪漫号」運行開始 H9 おぶせフラワーセンター開設 H10 「緑化推進功労内閣総理大臣賞」受賞 第3回国際北斎会議を小布施町で開催 中学生ヨーロッパまちづくり視察研修開始 H12 小布施オープンガーデン開設 小布施国際音楽祭開始

(小布施町提供の資料、パンフレット等をもとに筆者作成)

■交流のまちづくりへ

- ・「町並み修景」「花のまちづくり」等の地域の特性を活かしたまちづくりを進めている小布施には、1年間に120万人ともいわれる来訪者があり、「国際北斎会議」「小布施国際音楽祭」等が開催され、国内外から多くの人々が参加し、「北斎」や「音楽」を通じて、小布施文化との触れ合いがもたれている。また、住民や中学生を対象にしたヨーロッパへの視察研修（花やまちづくりがテーマ）も行われており、「花のまちづくり」や「美しい景観づくり」等を通して、交流の輪が一層広がっている。
- ・小布施では、友人をもてなすような小規模な心のこもった宿泊施設も特徴である。筆者が宿泊したゲストハウス小布施は、外観は昔の面影を残しながら、内装は落ち着きのある洋風で快適な空間を提供しており、小布施の家庭に居るような雰囲気味わうことができる。まさに「小布施のもてなしの都市空間」を内包、凝縮した宿と言える。今後、ゲストハウス小布施を核として、来訪者をあたたかくもてなし、情報や文化の交流が期待できる「民泊」のネットワークが広がっていけば、小布施のまちづくりはさらに面白くなると思う。



ゲストハウス小布施



北斎館と高井鴻山記念館を結ぶ栗の小径

■まとめ

- ・小布施のまちづくりは、一言で言えば「身の丈に合ったもてなしのまちづくり」と言える。「外はみんなのもの、内は自分のもの」という言葉に象徴されるように、小布施人は日々、心豊かな美しい暮らし＝「美日常」を追い求めてきた。それは、「まず、住民（受け入れ側）が楽しむ。そして、自分たちの暮らしぶりを乱さない程度に来訪者をあたたかくもてなす」というグリーンツーリズムの考え方と共通していると思う。観光地化を目指したまちづくりとは対照的に、地に足の着いた取り組みこそが、地域づくりにしてもツーリズムにしても長期的に持続する秘訣だと思う。
- ・りんごや栗といった特産品以外に何もない町から出発した小布施であるが、「北斎」という小布施ゆかりの人物をきっかけに、「町並み修景」「花のまちづくり」を進めるなど、暮らしや楽しく面白いまちづくりを展開し、多くの人々が訪れる町になった。「面白い町をつくる」⇒「来訪者が多くなる」⇒「活気が生まれる」⇒「町はさらに面白くなる」、この好循環の繰り返しにより成功した事例である。

※小布施については、福岡都市科学研究所「URC」Vol.50(2001冬号)で筆者が執筆した「こだわり、もてなしのまちづくり～小布施町と長野市の地域づくりを巡る旅～」を一部時点修正したもの。

(2) 新潟県村上市

新潟県最北の城下町「村上」。かつては観光客がほとんどいなかった町であったが、道路拡幅問題を機に、地域の宝である伝統的な町屋に光を当てたイベントにより全国から多くの観光客が訪れるようになった。これがきっかけとなり、「黒塀プロジェクト」や「町屋再生プロジェクト」といった市民主体の景観づくりプロジェクトにつながり、「歴史を活かしたまちづくり」が展開されている。現在は、空家問題にも取り組み、地域再生の大きな力になっている。

■村上市の概要

- ・新潟県最北・最東の市。かつては村上藩の城下町として栄えた。
- ・人口約 62,000 人
- ・北限の茶どころ
- ・特産品：鮭



鮭のまちならではの風景

■まちづくりのきっかけ

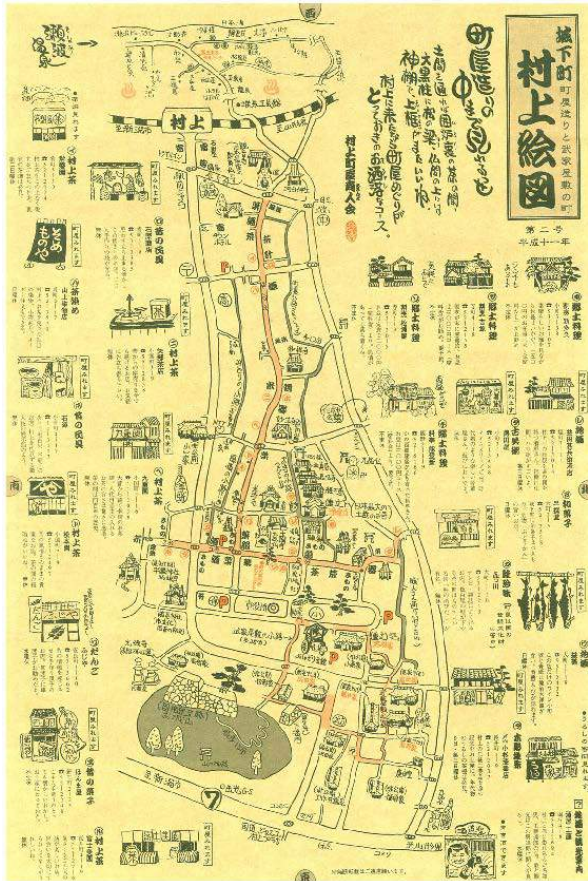
- ・村上には、「武家屋敷」「町屋」「寺町」「城(跡)」という城下町としての四大要素が残り、全国的にも希少な城下町として高い評価を受けているにもかかわらず、地元ではそのような価値認識はきわめて低かった。
- ・平成9年、町屋の多く残る町人町に道路拡幅を伴う大規模な近代化計画の話が持ち上がったが、「道路拡幅をしたら城下町の価値は失われるし、第一道路を拡げて成功した商店街は一つもない」という専門家のアドバイスを受け、有志が全国の町を歩いて見てその実態を確かめ始めたところ、「拡幅による衰退」がまぎれもない現状であることがわかった。
- ・有志は署名運動で近代化計画に反対するのではなく、伝統的な町屋に光を当て、町屋を活かし、町に賑わいを取り戻すことで、村上の持つ歴史的価値を示そうと、平成10年、老舗を集め、町屋の生活空間を公開する取り組みを開始した。
- ・村上の町屋は外観こそ近代化され魅力に欠けているが、一步店の奥に進むと、囲炉裏や梁、大黒柱に神棚、仏壇、そして豪快な吹き抜けの造りが現われ、タイムスリップしたような江戸や明治時代の町屋が現われる。この内部空間を公開しようと、町屋を活かした取り組みが始まった。



村上の町屋の内部

■町屋公開

- ・有志の呼びかけに賛同した22店舗（当初）によって「村上町屋商人（あきんど）会」を結成して町屋の常時公開を行うことができるようになった。商人会でマップ「城下町村上絵図」を作成し新聞に折り込んだところ、マップを手に町を歩く人が増え始め、人々が村上の町屋を訪れるようになり、町屋の価値が体感されるようになっていった。
- ・この後、この取り組みが原点となり、商人会のメンバーや町人町の方々の熱意により、春にはその家に伝わる江戸や明治時代の人形を飾り、無料で公開する「町屋の人形さま巡り」を開催した。また、秋には同じく町屋に伝統の屏風を展示し、公開する「町屋の屏風まつり」を開催した。どちらも大成功し、全国から多くの観光客が訪れるようになった。町屋が話題を呼び、歴史の町として村上は世間からの高い評価を受けるようになっていった。
- ・町おこしとして茶の間に飾っている人形や、蔵の中で眠っていた屏風を公開することで（人形さま巡りも屏風まつりも毎回1回の開催費用は約35万円）、行政に頼らず、市民の知恵と汗で継続している。



城下町村上絵図(「村上のまちづくり 案内人 国交省認定 観光カリスマ 吉川真嗣HP」より引用)



「町屋の屏風まつり」の様子

■黒塀プロジェクト

- ・こうした町おこしがきっかけとなり平成14年、行政に頼らない景観づくりの取り組みが始まった。まちの中ほどにある安善小路とその周辺には、城下町の歴史的建造物が多く集まっている。しかし、ここにある塀は普通のブロック塀で、景観の美しさが損なわれていた。この小路を市民の手で城下町らしい昔ながらの黒塀の景観に戻そうと、市民自ら「黒塀プロジェクト」を開始した。
- ・これは、昭和の中期以降ブロック塀になっていた小路を、昔ながらの趣のある黒塀の一面に変えるプロジェクトである。既存ブロック塀を壊さず、その上に木の板を打ち付け黒く塗る

ことで、表向きは黒塀に変えるもので、「黒塀一枚1000円運動」と称して展開している。

- ・簡易工法ではあるが、ブロック塀を黒塀に変えるだけで町の景観を変えることができる。平成27年時点で約425mの黒塀が作られ、今後も延長予定である。また、「安善小路と周辺地区の景観に関する住民協定」が締結され、電線の地中化や道路の石畳化を目指して活動が行なわれている。さらに、現在はこの一画をさらに美しくしようと緑三倍計画をスタートさせ、緑化を推進している。



黒塀プロジェクト(「村上のまちづくり 案内人 国交省認定 観光カリスマ 吉川真嗣HP」より引用)



現在の町並み(平成25年10月)

■町屋再生プロジェクト

- ・この黒塀づくりがもとになり、平成16年からは町屋の外観再生への取り組みとして発展していった。町屋の生活空間を公開して話題を集める村上も、町屋の外観に関してはアーケードやサッシ、トタン等で覆われており、歴史の町として町屋の外観再生が課題だった。このため、有志で「町屋の外観再生プロジェクト」を立ち上げたが、その内容は会員を募り、その年会費で基金を作って、外観再生を希望する店舗に補助金(補助率60%、上限額80万円)を出すというものである。
- ・これは、民間ベースのプロジェクトとしては、全国で初めての取り組みであった。現代風になっているアーケードやサッシ、トタン等の外観を、歴史的考証の上、昔ながらの格子や看板、木枠のガラス戸に変えて外観を整え、町並みをも変えていこうという壮大なプロジェクトである。外観を昔ながらの姿に変え、町屋の景観を整えることができれば、内外ともに充実し、その魅力は各段に増し、魅力的な城下町になるというものである。

- ・プロジェクトを始動して早々の平成16年6月には、再生第1号が完成し、翌17年春には第2号が完成した。そして10棟目の再生が完成した頃を機に、通年の交流人口が目に見えて増加してきた。補助金は本来なら行政の仕事であるが、市民プロジェクトとしては全国初となる画期的な取り組みである。
- ・平成26年からは空家になった町屋を守るため、空家の再生に100万円を出すという補助金制度も開始。平成27年までに6軒の空家を再生し、外観再生と併せて計32軒を再生した。



町屋の外観再生プロジェクト(「村上のまちづくり 案内人 国交省認定 観光カリスマ 吉川真嗣HP」より引用)



現在の村上の町並み(平成25年10月)

■まとめ

- ・道路拡幅を伴う大規模な近代化計画問題に端を発し「町屋を守れ」と始まった市民の取り組みは、地域活性化の起爆剤となり、村上市の進む方向を「歴史を活かしたまちづくり」へと大きく変えた。市民が自分の住む町の文化に気づき、誇りを持ち始めたことが大きな収穫である。現在は、その誇りから、市民自らが町の景観づくりに取り組み出し、さらには空家問題にも取り組み、地域再生の大きな力になっている。

【参考】これまでの主な動き

年	主な事業等
平成9年	・町屋の多く残る町人町に道路拡幅を伴う大規模な近代化計画の話が持ち上がる。
10年	・村上町屋商人会（あきんどかい）を結成し、町屋の公開を開始
12年	・「町屋の人形さま巡り」開始 ・「レンタサイクル」10台を村上郷土資料館に設置 ・美術館「旅籠門」を開館
13年	・「町屋の屏風まつり」開始 ・「十輪寺えんま堂の骨董市」開始（大町振興会）
14年	・「黒塀プロジェクト」発足 ・「宵の竹灯籠まつり」開始 ・「むらかみ古民家倶楽部」を結成、古民家コンサートを開始
16年	・「町屋の外観再生プロジェクト」開始。6月に再生第1号が完成
17年	・本プロジェクトの協力体制のもと、村上駅がレトロに外観を改修
18年	・「新潟県まちなみネットワーク」結成（県内32団体が加盟）
20年	・「黒塀通りの緑3倍計画」開始
21年	・「国際景観会議2009村上」を開催
22年	・「伝統的建造物群保存地区」選定に向けて活動開始
25年	・「町屋の空家再生」の活動を開始 ・「小中高生のための学び塾」（村上のまちづくりから学ぶ人材育成の出前授業）を開始
27年現在	・町屋の外観再生26物件、空家再生6物件、黒塀425mが完成（これまでの累計）

（「村上のまちづくり 案内人 国交省認定 観光カリスマ 吉川真嗣HP」より引用、筆者加筆）

（参考文献、引用文献）

- ・村上のまちづくり 案内人 国交省認定 観光カリスマ 吉川真嗣HP
- ・(公社)都市住宅学会「都市住宅学92号 2016winter」地域短信“行政に頼らない、村上市民の地域活性化への挑戦～町おこしイベントから景観づくり、空家再生まで～”
- ・村上町屋商人会「城下町村上 町屋の人形さま・町屋の屏風まつり」

(3) 秋田県横手市増田

秋田県横手市増田は、江戸後期から昭和初期にかけて造られた内蔵（家屋の中にある蔵）が40棟以上残っている。しかし、外から目に触れることがないため、その存在は長い間ペールに包まれてきた。地元以外にも知られるようになったのはこの数年である。平成24年からは内蔵の個別公開も始まり、観光資源として生まれ変わりつつある。また、平成25年12月には国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、今後の町並み整備が大いに期待される。

増田では、自らの蔵を公開することで、皆さんが生き生きと暮らし、来訪者をもてなされており、町並みや内蔵だけでなく、「観光」「地域の活性化」「生き甲斐」「高齢者の社会参加」等の面で、これからの日本の社会の手本となっていくのではないかと感じた。

■増田と内蔵

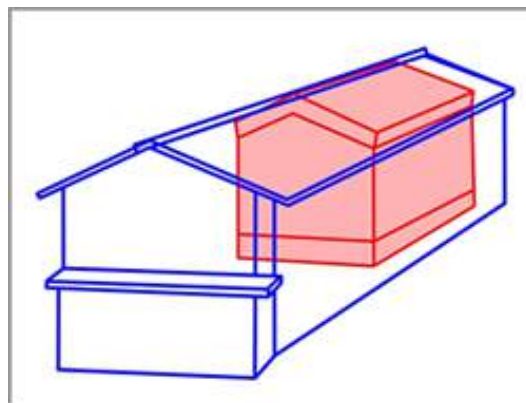
増田は江戸末期～昭和初期に、宮城県と秋田県を結ぶ交通の要所として発展し、葉タバコや蚕糸の生産等で商人文化が栄えた。特に明治時代になると、銀行事業や電力事業等の成功により商業活動が加速度的に活発化した。当時の商人たちが、成功の証しとして主屋の奥に蔵を造ったのが、「内蔵」の始まりとされている。内蔵は、蔵を豪雪から守るため、全体を「鞘」と呼ばれる上屋建物ですっぽり覆った土蔵であるが、増田の内蔵は主屋の奥に建っており、道路からは見えず、ひっそりと佇んでいるのが特徴である。



旧石平金物店（現在は増田町の観光案内所兼物産販売所「蔵の駅」）の内部（左）と内蔵（右）

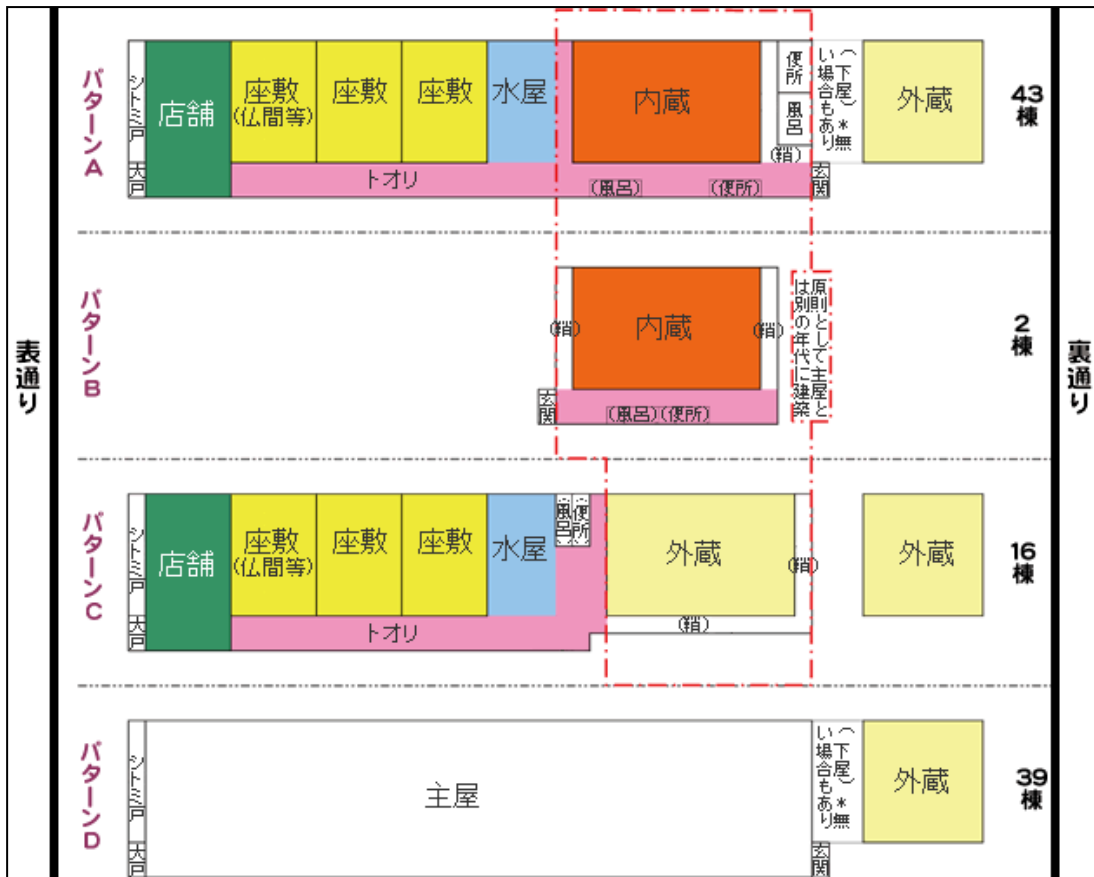


蔵の駅の外観



内蔵の立地イメージ

（横手市 HP「奥ゆかしき商家の町並み ますだ」より引用）



増田の土蔵のパターン(横手市 HP「奥ゆかしき商家の町並み ますだ」より引用)

■増田の町並み

筆者が増田を視察したのは、平成 25 年 8 月の下旬である。当日はあいにくの小雨の降る天気の中、歴史的な町並みを 1 時間ほどかけてゆっくり散策した。町割りは間口が 5～7 間（9～12.6 m）、奥行きが 50～100 間（90～180m）と極端な短冊型となっており、その上に町家建築が建ち並び、伝統的な町並みが形成されている。道路側からは、2 階の正面に梁首と呼ばれる梁組を見せているのが特徴で、職人技術の粋を垣間見ることができる。明治前期から戦前にかけて建てられた短冊型の主屋が軒を連ねる景観は、当時の情緒を現在にとどめており、主屋・内蔵・外蔵を「トオリ」と呼ばれる土間で結ぶ商家町家の特徴は、この地方独特のものとなっている。



増田の町並み

また、平成 25 年 12 月に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、今後の町並み整備が大いに期待される。

■内蔵見学

その後、公開されている 5 軒の蔵を見せてもらったが、どの蔵も、外観からはその存在が想像もできないほど、立派なものであった。まさに「内蔵」そのものである。そのうちの 3 軒を紹介する。

最初の蔵は、旧佐藤三十郎商店である。これは、明治 11 年に建築された 100 ㎡以上もある内蔵で、大きな梁とそれを受けるヒバの通し柱が重厚感を演出している。また、左右対称の幅広の床の間や通風を考えた市松模様の障子が印象的であった。柱と柱の間の壁は、漆喰仕上げであるが、石のように磨かれており、左官職人の技術の高さに感嘆せざるを得なかった。



旧佐藤三十郎商店の内蔵

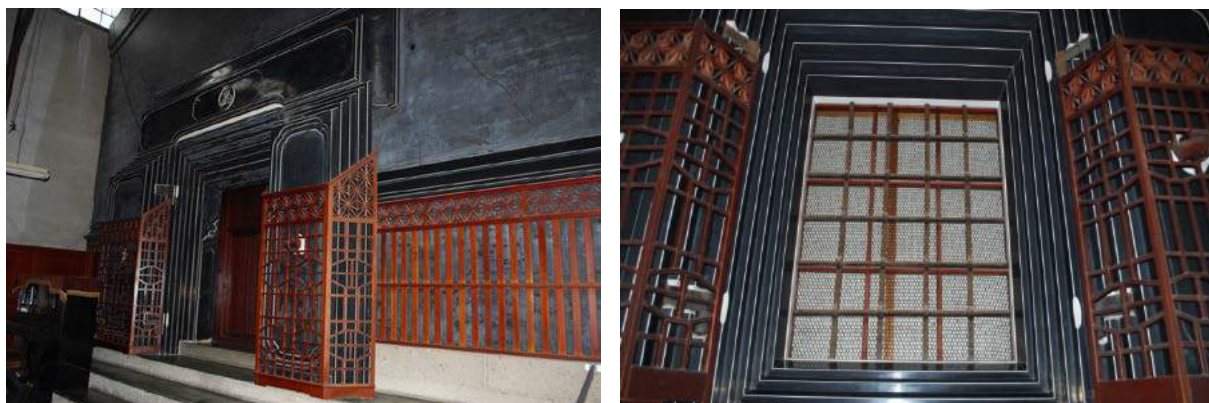
2 軒目の蔵は、佐藤又六家である。これは、通りの延焼を防ぐために建物全体が蔵造りの建物となっている。1 階の蔵は、明治元年に建てられたもので 150 ㎡以上もあり、現在も生活空間として使われている。また、2 階は全体が座敷となっており、防火の願いを込め施された火止唐草の鏝絵が見事であった。



佐藤又六家。1階の蔵(左)と2階の内蔵の防火扉(右)

3 軒目の蔵は、山吉肥料店である。これは、昭和初期に建てられたもので、輝きを放つ黒漆喰の土扉の蛇腹も 5 段と数も多く、立派な構えを見せている。また、扉を飾る鞘と左官技術は芸術

の域に達しており、見事のひとつに尽きる。まだ工作機械がない時代に腕一本で造り上げた大工・左官職人の卓越した技量を堪能できる蔵である。



山吉肥料店の内蔵

■各家のオーナーとの出会い（増田から学ぶこと）

筆者は、どの家も高齢のオーナーの皆さんが地域や我が家への誇りと愛着を持って説明されている姿に感銘を受けた。プライベートな空間はなかなか一般には公開しにくいものであるが、それだけ自分の住まい、そして増田の蔵に誇りを持っているのだと思う。それぞれは小さな取り組みであるが、これが町ぐるみになることで地域のイベントとしてしっかり定着し、地域の活性化に寄与しているのだと思う。

そして何よりも、案内される皆さんが生き生きとしていることが大変印象的であった。まちづくりには「ばか者、よそ者、若者」が必要といわれるが、若い人だけで行うものでもない。日本全体が超高齢社会に入っている現在では、高齢者が地域に出て、生き生きと生活していくことが極めて重要である。内蔵のまち・増田は自らの蔵を公開することで、皆さんが生き生きと暮らし、来訪者をおもてなしされている。「観光」「地域の活性化」「生き甲斐」「高齢者の社会参加」等々、増田には町並みや内蔵だけでなく、これからの日本の社会の手本となる宝がいっぱいあるのだと実感した。



各家のオーナーによる案内。生き生きと案内される姿が印象的である。

また、全国の町並み保存地区が後継者不足に悩まされているように、増田にも同じ課題がある。オーナーの皆さんに話を聞くと、多くの方は東京で仕事をし、定年を機会に故郷に帰り、家を守っているという状況のようである。「子どもたちが定年になって増田に帰ってくる。その間は自分たちがこの家を守る。」というような繰り返して町並みやコミュニティが維持・継承されていくという考え方は、超高齢社会では十分に考えられることである。町並み保存に限らず、定年後に地域づくりに関わっていく姿勢はぜひ見習いたいと思う。

九州から秋田に来て、武家屋敷や枝垂れ桜で知られる角館には寄っても横手、そしてさらにその奥の増田にまで町並みや内蔵を見に来る人は少ないと思う。しかし、筆者は初めて増田に来て、伝統的な町並み、芸術的な内蔵の数々、生き生きと暮らす高齢者の皆さま方から多くのヒントを得た。また、「観光客が大挙して押し寄せ、お土産を買って帰る」というような観光スタイルではなく、「頑張っている面白い地域を訪れ、そこで暮らしている方々から多くのことを学ぶ」「その地域でしか食べられない物を食べる」「その地域でしか手に入らないものを買って帰る」というような観光スタイルこそが姪浜でも目指してきたものであり、とても参考になった。こうした地に足のついた取り組みこそが、長期的な地域づくりにつながっていくのだと確信した。

【参考】これまでの主な動き

年	主な事業等
平成11年	・増田町商工会（当時）が中七日通りを「くらしっくロード」と銘打つ。
13年	・（有）佐藤養助商店が漆蔵資料館の営業を開始。内蔵を公開
14年	・増田地域センター運営協議会発足 ・日の丸醸造(株)、勇駒酒造(株)が登録有形文化財に登録
15年	・増田町文化財協会が内蔵の調査・写真撮影開始
17年	・「写真集 増田の蔵」発刊（増田町文化財協会） ・佐藤又六家が登録有形文化財に登録され、この頃から一般公開を開始 ・10月 合併により増田町は横手市へ
18年	・増田「蔵の会」発足 ・第1回「蔵の日」開催
19年	・「写真集 増田の蔵」2回目の刊行（増田十文字商工会）
20年	・「歴史的建造物調査事業」実施（横手市）
21年	・中七日通りに観光案内所（蔵の駅）設置（横手市）
22年	・伝統的建造物群保存対策調査開始（横手市） ・伝統的建造物通年公開の開始（増田町観光協会） ・「蔵の日」がリニューアル、実行委員会主催となり、主屋も公開対象になる。 ・旧石平金物店を取得（横手市）
23年	・旧石田理吉家を取得（横手市） ・旧石田理吉家・旧石平金物店公開（横手市）
24年	・「写真集 増田の蔵」3回目の刊行（増田「蔵の会」）
25年	・横手市増田伝統的建造物群保存地区に指定（横手市） ・国の重要伝統的建造物群保存地区に選定（文化庁）

（横手市HP「奥ゆかしき商家の町並み ますだ」より引用、筆者加筆）

（参考文献、引用文献）

- ・横手市HP「奥ゆかしき商家の町並み ますだ」
- ・増田「蔵の会」発行「写真集 増田の蔵」

6 まちなみネットワーク福岡に所属する団体の取り組み

ここでは、「まちなみネットワーク福岡」に所属する4地域の取り組みを紹介する。まちなみネットワーク福岡は、福岡県内の歴史的町並みなど地域遺産の保存継承を目的としてまちづくりを進めている様々な主体が、協調・連携を図りながらそれぞれ地域の歴史的文化遺産の保全に資することを目的として平成25年8月に組織されたものであり、平成25年度から毎年1回、各都市持ち回りで「まちなみフォーラム福岡」を開催し、課題や対応策等について精力的に意見交換を行っている。

なお、ここで紹介する内容については、各地域の団体や自治体から提供いただいた資料等の引用や、その資料等をもとに作成したものである。



まちなみフォーラム福岡の様子:飯塚市内野(左)、八女福島(右)

- (1) 八女市八女福島 (活動団体: 八女福島町並み保存会、NPO 法人八女町並みデザイン研究会、NPO 法人八女町家再生応援団)

■八女福島町の町並み保存・継承活動の歩み

年	主な事業等
平成3年	・超大型台風17号・19号により町家の被害甚大
4年	・市民若手の有志で勉強会が始まる
5年	・町並み保存を公約に掲げた若い市長が誕生 ・「八女・本町筋を愛する会」発足 (まちづくり団体) ・「八女町屋まつり」スタート
6年	・「八女ふるさと塾」発足 (まちづくり団体) ・八女福島の伝統的町並み景観整備に関するまちづくり協定締結 (12町内会424世帯締結、締結率74%)
7年	・街なみ環境整備事業 (国土交通省所管) スタート ・「八女福島伝統的町並み協定運営委員会」発足 (約270 世帯、現: 八女福島町並み保存会)
8年	・伝統的建造物群保存対策調査 (文化庁所管、～9年) ・「天神さん子どもまつり」復興
10年	・「雛の里・八女ぼんぼりまつり」スタート ・「八女福島町並みガイドの会」発足(13 名参画) ・「八女福島白壁ギャラリー」スタート

12年	・「NPO法人八女町並みデザイン研究会」発足（地元建築士・工務店等28名参画）
13年	・全国町並み保存連盟に加盟（現：八女福島町並み保存会） ・八女市文化的景観条例制定（伝統的建造物群の保存規定を含む）
14年	・八女福島の町並み：国の重要伝統的建造物群保存地区に選定（全国61番目）
15年	・「NPO法人八女文化振興機構」発足（現：NPO法人八女空き家再生スイッチ）
16年	・「NPO法人八女町家再生応援団」発足（空家再生活用に13名参画）
18年	・清田家の町家の再生活用（八女福島町家保存機構が借受・修理事業） ・「第29回全国町並みゼミ八女福島大会」を八女市で開催（約800名）
19年	・丸林本家の町家3棟の再生活用（八女福島丸林本家保存機構が借受・修理事業）
21年	・八女福島遺産保存活用プロジェクトが(公社)日本ユネスコ協会連盟の「プロジェクト未来遺産」に登録（空家と伝統工法の再生による町並み文化の継承） ・八女市都市計画道路の杉町高塚線（伝建地区中央を南北に走る）・荷稻五丁野線（伝建地区東端を走る）の全線及び一部を廃止
22年	・旧八女郡役所建物をNPO法人八女文化振興機構（現：空き家再生スイッチ）が寄付受入
23年	・旧八女郡役所の学術調査の報告書作成（大成建設自然・歴史環境基金の支援を受け、NPO法人八女文化振興機構が実施） ・「第2回作事組全国協議会」総会・シンポジウムを八女市で開催（約150名） ・旧寺崎家の学術調査の報告書作成（大成建設自然・歴史環境基金の支援を受け、NPO法人八女町家再生応援団が実施）
24年	・「第34回全国伝統的建造物群保存地区協議会」総会・研修会を八女市で開催（約400名、重伝建地区選定10周年を記念して誘致） ・「八女文化遺産保存・活用ネットワーク（八女町家ねっと）」発足（ホームページ開設）
25年	・ドキュメンタリー映画「まちや紳士録」の製作が完成（全国上映スタート）
26年	・「第9回JTB交流文化賞」受賞（町並みの輝きを再び取り戻す人々の挑戦） ・「ゲストハウス 川のじ」オープン（現：泊まれる町家「川のじ」・一棟貸） ・「第36回サントリー地域文化賞」受賞（八女福島 住まう文化のまちづくり）
27年	・旧八女郡役所の修理事業に着手 （八女空き家再生スイッチ、H29年3月12日一部オープン）
28年	・旧寺崎家の修理事業に着手 （解体の危機を救った所有者による再生、H29年8月31日完成） ・「第6回自治体学会 田村明まちづくり賞」受賞 （町家再生からひろがるまちづくり）
29年	・「第5回九州町並みゼミ八女福島大会&まちなみフォーラム福岡in八女福島」を八女市で開催（約200名、重伝建地区選定15周年を記念して開催）

（「第5回九州町並みゼミ八女福島大会&第5回まちなみフォーラム福岡 配布資料」より引用、筆者加筆）

■八女福島の町並みの特徴

- ・八女市の市街地である福島地区は、江戸期の直前に整備された福島城の城下町の町割りをそのまま受け継いでおり、江戸から明治期に交通の要衝の地であったことから物産の集散地として栄えた商家町である。地区には大火を経験して江戸後期に完成した「居蔵（いぐら）」

と呼ばれる重厚な妻入り入母屋の土蔵造の町家建築等が、旧往還道沿いに連続して残っている。

- ・町家建築は、明治中期と昭和初期の道路拡幅に伴う軒切によって正面の一階意匠が大きく変化した。平成7年に街なみ環境整備事業導入後、平成14年に重伝建地区に選定され、214棟の伝統的建築物を特定している。



八女福島の町並み

■町並み保存・継承の市民活動

- ・市民が八女福島の町並みの価値に気付くきっかけとなったのは、昭和63年に東京町（ひがしきょうまち）の「旧木下家住宅」（堺屋）が市に寄贈され、修理・復原されたことに始まる（公開は平成4年）。
- ・平成3年の大型台風によって被害を受けた町家が取り壊されて空き地になるなど、町並みが歯抜け状況になるのを見て危機感を感じた市民有志が、勉強会を重ね平成5年にまちづくり団体「八女・本町筋を愛する会」を発足させ、「八女町屋まつり」をスタートさせた。これがきっかけとなり、八女福島の町並みに市民や観光客の関心が向けられるようになった。
- ・平成6年にはまちづくり団体「八女ふるさと塾」が新たに発足し、八女福島の町並みを活かした市民主体のまちづくり活動として充実してきた。現在、地場産業でもある雛人形をアピールする「雛の里・八女ぼんぼりまつり」等の町並みを舞台としたイベントが、様々なまちづくり団体の参画による実行委員会方式で取り組まれ、定着してきている。



八女福島で発祥した「箱びな」
(八女人形会館 HP より引用)



雛の里・八女ぼんぼりまつりの様子
(九州旅ネット HP より引用)

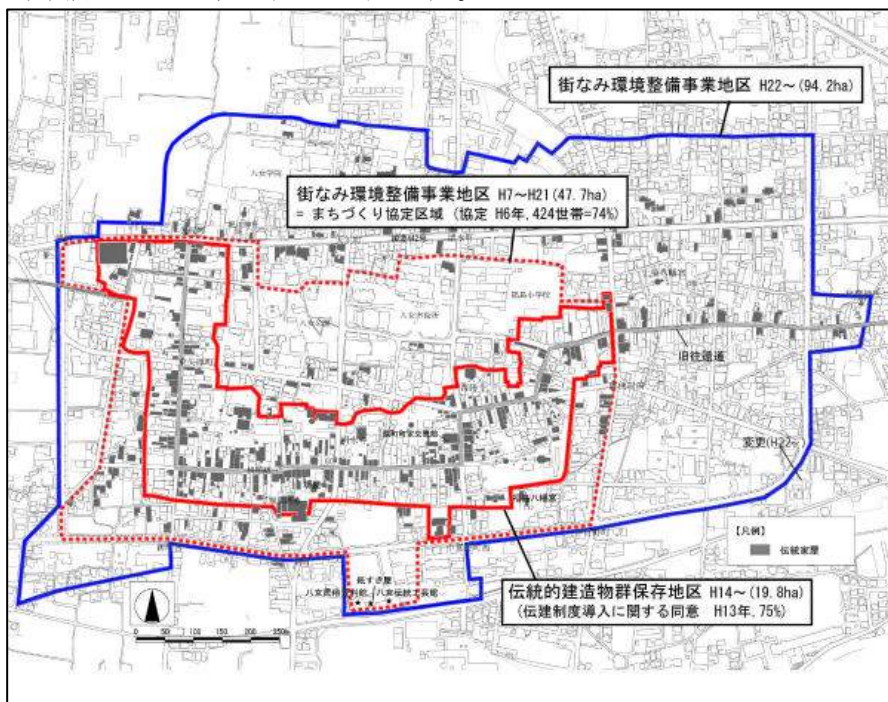
■市民と行政の協働によるまちづくりの展開

(国の支援事業として「街なみ環境整備事業」「伝統的建造物群保存地区保存事業」を活用)

- ・八女市は、町並みの保存活用という市民のまちづくり活動の気運に応じて、住民活動を支援する形で建築物等の修理・修景事業や住環境の整備を行うために、国の「街なみ環境整備事業」の導入に取り組み、平成7年度から事業をスタートさせた。

平成9年5月には町並みの情報発信の拠点及び市民の交流の場として、造り酒屋跡を買収整備し「横町町家交流館」を開館した。

- ・事業導入に先立って、平成6年度には事業対象地区の住民によって「景観のまちづくり協定」が締結され、協定者の代表による「八女福島伝統的町並み協定運営委員会」(現・八女福島町並み保存会。以下「町並み保存会」という。)が組織された。この住民組織は、事業内容やまちづくりについて協議し、地元住民と行政との調整をする役割も担っている。
- ・保存整備の成果が徐々に見えてくるにつれ、建築物等の修理・修景事業に対して、長期に継続して国の支援制度が受けられる文化庁の「伝統的建造物群保存地区制度(伝建制度)」を導入できないかと模索が始まり、住民団体と市が一致協力して取り組んだ。
- ・平成8～9年度に国の支援で保存対策調査を行い、学術的に高い評価を受けた。その後、市は、町並みを活かしたまちづくり事業を一本化して推進するため、平成11年に商工観光課に特徴あるまちづくり係を設置し、予定保存地区内の住民の合意形成に積極的に取り組み、平成13年6月に「八女市文化的景観条例」を制定した。
- ・平成13年12月末に保存地区の都市計画決定を行い、伝建制度をスタートさせるとともに、平成14年5月に国の「重要伝統的建造物群保存地区(全国61番目)」の選定を受けることとなった。なお、この間、「住民の合意形成」「市全体への市民的合意形成」「保存地区の中央を南北に計画された都市計画道路の見直し」という3つの大きな山を越えて導入にこぎつけた(保存対策調査から5年の歳月を要した)。

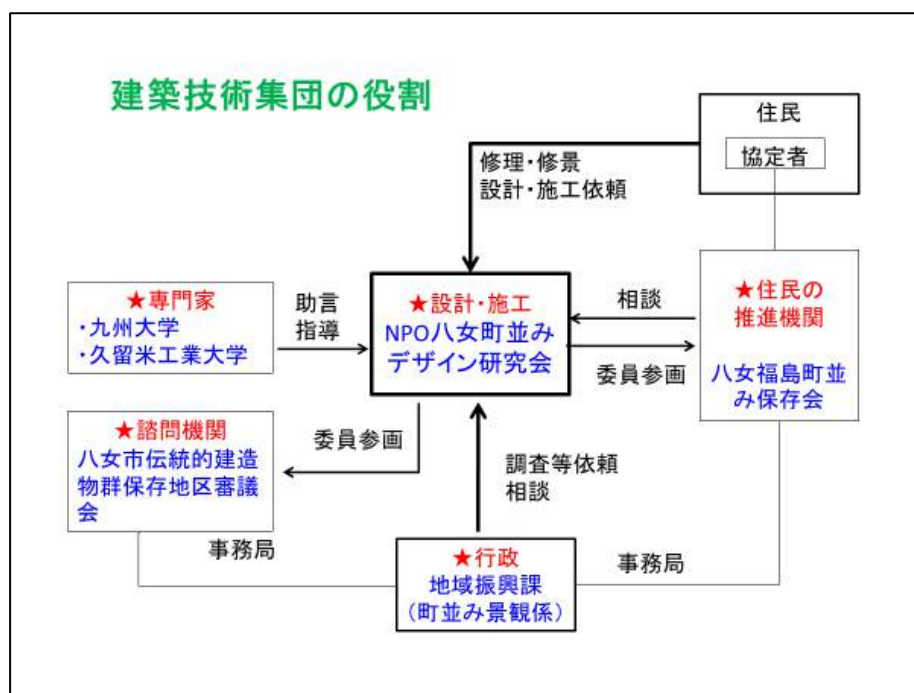


八女福島町の町並み説明図(八女町家ねっとHP「八女町家と八女町家ねっとについて」より引用)

■町並みの保存継承のための2つのシステムの構築

1) 第1は保存技術を継承する建築集団

- ・平成12年には伝統技法を駆使した町家の構造等を学び、地元建築士の立場から町並み保存のあり方を考え、本物を残していくために福岡県建築士会八女支部の八女市内居住者が中心になり、建築集団「NPO法人八女町並みデザイン研究会」（以下「デザイン研究会」という。）を発足した。
- ・デザイン研究会は、住民への修理・修景事業等（市の伝建事業等の補助事業）の相談活動をはじめ、その事業実施に当たっての設計監理及び施工工事を担い、技術的な実践活動を行う中で、八女福島伝統様式や伝統構法を習得し継承していく活動を展開している。



NPO法人八女町並みデザイン研究会の役割

（「第5回九州町並みゼミ八女福島大会&第5回まちなみフォーラム福岡 配布資料」より引用）



建築物の修理・修景事業の実績



町家等の修理事業例

（「第5回九州町並みゼミ八女福島大会&第5回まちなみフォーラム福岡 配布資料」より引用）

- ・デザイン研究会で特徴的なことは、次のような考え方である。

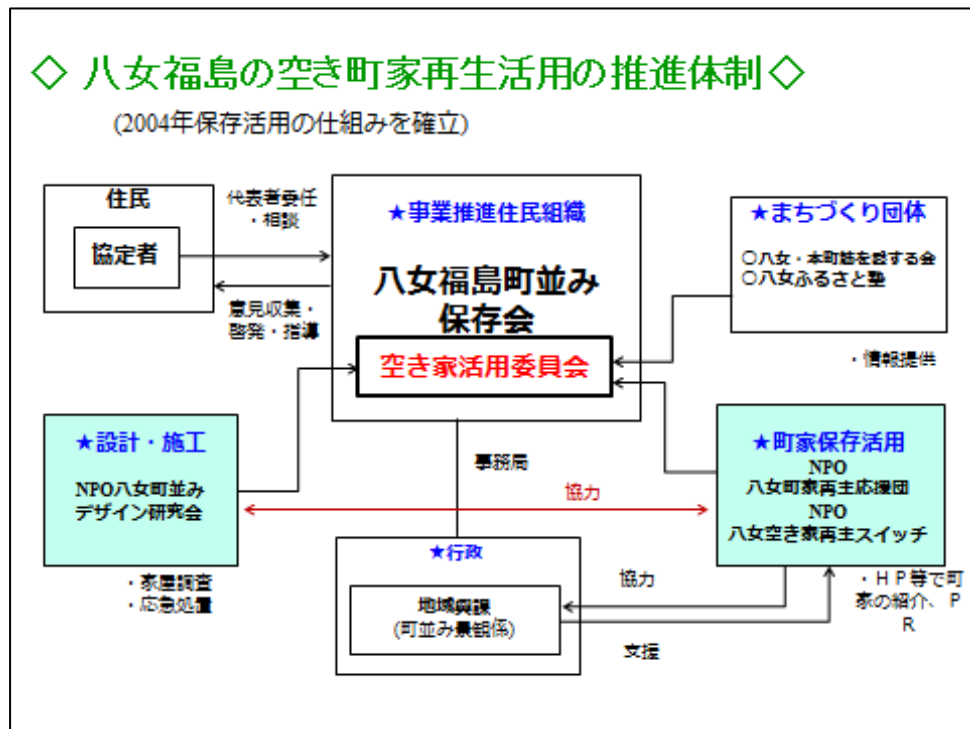
行政の職員は人事異動により数年すれば替わり、新しい担当者は最初から勉強しなければならないが、地元の建築士や大工等の職人が建築の専門家として、継続的に活動を行っていけば、生業をキープしながら技術もおのずと継承されていく。

※八女福島では、1年間に文化庁の補助事業で平均約6～7棟の事業が行われ、地元の多くの建築関係者が携わることになり、一定の経済効果もある。

行政としては、これを継続的な仕組みとして成熟させるためのサポートが重要であり、八女福島では、それを試行錯誤しながら実践している。

2) 第2は空き町家の保存活用を担う専門集団

- ・八女福島においても市街地の空洞化に拍車をかけている少子高齢化の進行は、地域に深刻な影響を落としている。特に伝統家屋の空家の増加は年々増え続け、有効な手立てが望まれている。そこで、八女福島では空家の解消に向けて、平成15年に空家再生の専門集団「NPO法人八女町家再生応援団」（以下「再生応援団」という。）を発足させ、空家の紹介・マッチング活動を開始した。
- ・それを受けて、平成16年、住民組織は、町並みに関係するまちづくり団体に呼びかけ、「八女福島空き家活用委員会」を立ち上げ、情報の共有を行い再生活用に力を入れている。具体的には、町並み保存会が行う空家の実態調査に基づいて、再生応援団は所有者と借り手等のマッチング活動を推進し、賃貸借契約及び売買契約を含めて様々なサポート活動を展開している。



八女福島の空き町家再生活用の推進体制

(「第5回九州町並みゼミ八女福島大会&第5回まちなみフォーラム福岡 配布資料」より引用)

- ・借り手の空家の活用内容は、飲食店が多いほか、アンテナショップ、住居を兼ねたカフェ・手仕事工房兼住宅、専用住宅など様々だが、再生応援団発足以降、約50軒の空家が再生活用され、徐々にではあるが実績を上げている。最近の傾向として、市外からの若い人の入居が目立つようになっている。



空き町家の活用例

(「第5回九州町並みゼミ八女福島大会&第5回まちなみフォーラム福岡 配布資料」より引用)

- ・空家を活用し、人が住むなり店を構えれば、小さいながらも経済活動が生まれる。また、少子高齢化の進行や空洞化が進む中、新しいコミュニティの担い手になる期待も生まれる。「これらへのサポートは行政の業務ではない」と消極的になりがちであるが、行政としてはそれを積極的に仕掛け・調整し、仕組みづくりに向けたサポートが必要である。八女福島では、これも試行錯誤しながら実践している。

■今後のまちづくりに向けて

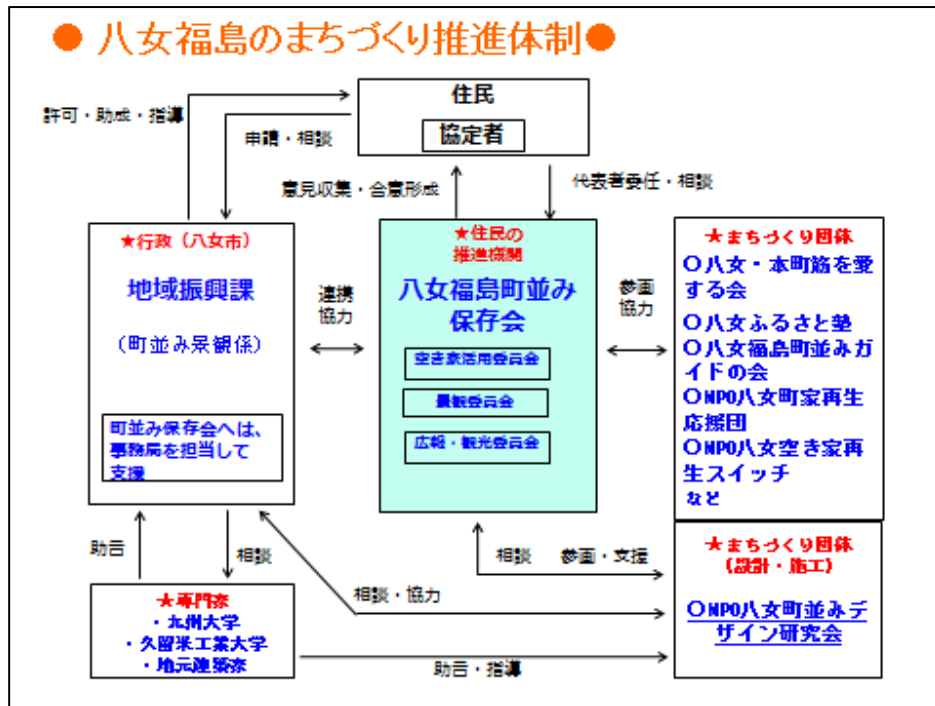
1) 課題

- ・ダイナミックで見事な秩序を持つ八女福島の町並みの保存と継承を持続的に進めていくこと。
- ・単なる見栄えが良くなる景観整備からその背後にある空間構成の原理まで踏み込み、常にこれからの時代の創造活動と連動しつつ、一つひとつの町家が輝いた時代の意匠等を追及して本物を残し伝えていくこと。
- ・綿々と受け継がれてきた地域の文化、暮らしやコミュニティとともに町並みを継承していくこと。

2) 課題への対応

- ・次の4点を常に念頭に置き、まちづくりの原点に立ち返り、日常的に追及していく。また、八女福島では様々なまちづくり団体が活動しており、情報を共有し連携を強化しながら、響きあうまちづくりを持続的に推進していく。

- ① 官民協働のまちづくりを発展強化すること。
- ② 各まちづくり団体のリーダーの若い世代へのバトンタッチを真剣に取り組むこと。
- ③ まちづくりの仕組みに磨きをかけること。
- ④ 滞在滞留型の観光まちづくりを前進させること。



八女福島のまちづくり推進体制

(「第5回九州町並みゼミ八女福島大会&第5回まちなみフォーラム福岡 配布資料」より引用)

(参考文献、引用文献)

- ・ 八女市 HP 「八女福島の町並み（歴史と保存の取り組み）」
- ・ 八女町家ねっと HP 「八女町家と八女町家ねっとについて」
- ・ 第5回九州町並みゼミ八女福島大会&第5回まちなみフォーラム福岡 配布資料

コラム2 行政マン&地域のまちづくり人としての筆者の目標

八女の北島力さんは、行政マンとしても、地域のまちづくりに関わる者としても、筆者が目標にしている方である。八女市役所時代は、平成5年に企画部門の町並み担当に就いた後、平成24年に都市計画課長を最後に定年退職されるまで、20年にわたって行政の立場から八女福島の町家再生と町並み保存に携わってきた。

北島さんは平成5年の就任直後から、町並み保存整備に関する国の補助事業（街なみ環境整備事業）の導入の検討を始め、平成7年から同事業をスタートさせた。また、平成8年～9年に「伝統的建造物群保存地区対策調査」を行い、平成14年に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定された。この間も八女市文化的景観条例の制定や、地区内を貫通する都市計画道路の見直しを行い廃止するなど、町並み保存整備を進める体制を作り上げてきた。

北島さんは行政マンとして中心的な役割を果たすだけでなく、勤務時間外に市民の立場としても活動を展開してきた。平成6年に住民による「まちづくり協定」が締結されているが、翌年その実働組織となる「八女福島伝統的町並み協定運営委員会（現：八女福島町並み保存会）」を設立し、住民と行政が連携して町並み保存に取り組む体制をつくった。また、平成12年には八女市に拠点を置く建築士、施工業者、大工等に呼びかけ、「八女町並みデザイン研究会」を立ち上げ、先人たちの匠の技術や知恵を地域内で継承できる仕組みもつくった。

(次ページに続く)

八女市でも空家の増加が顕著になってきており、保存すべき町家が空家のままでは町並みの解体につながることから、平成16年には空家の所有者と借りたい人を仲介する「NPO法人八女町家再生応援団」を設立した。このNPO法人は、町家の状態と住まいの歴史の調査を行い、所有者と交渉、管理委託契約を結んで修復し、移住希望者に町家を斡旋するという取り組みを行っている。

さらに、平成24年には「八女文化遺産保存・活用ネットワーク」(＝「八女町家ねっと」)、平成25年より広域的にまちづくりを支援する「まちづくりネット八女」を創設した。また、同25年には、ドキュメンタリー映画「まちや紳士録」の製作が完成し、全国上映をスタートさせるなど精力的に活動を進めている。

こうした取り組みにより、八女福島ではネットワーク型の町並み保存団体の連合体でまちづくりに取り組む独自の体制が構築され、着実な成果を上げている。こうした活動は、全国的にも高く評価され、「JTB交流文化賞(平成26年)」や「サントリー地域文化賞(平成26年)」等を受賞しているが、北島さんの存在が大きいのは言うまでもない。

また、北島さんは個人的にも平成24年に「COREZO(コレゾ)賞(行政職員と市民活動のひとり二役、人と人の縁を取り持つ町家と町並みの再生)」を、平成28年に「自治体学会 田村明まちづくり賞(町家再生からひろがるまちづくり)」を、平成29年に「日本建築学会文化賞(町家の再生と活用を通じた町並み保存と地域活性化の継続的活動)」を受賞している。

さらに、北島さんは全国町並み保存連盟の常任理事等も務められ、八女だけでなく、九州、そして全国の町並み保存や活用に精力的に関わり、八女市役所を退職後も現在に至るまで休むことなく継続・拡大されている。筆者も平成30年3月末で福岡市役所を定年退職するが、今後いろいろな面で目標にしていきたい。



自らもドキュメンタリー映画「まちや紳士録」に出演。
各地で広報活動も行う。

「自治体学会 田村明
まちづくり賞」も受賞



北島さんの活動は八女だけでなく、全国に及ぶ。※コラム2の写真はすべて北島力さん提供

(参考文献)

- ・(一社)日本建築学会 2017年日本建築学会文化賞 選考経過
「町家の再生と活用を通じた町並み保存と地域活性化の継続的活動」

(2) 大川市小保・榎津 (活動団体：NPO 法人小保・榎津藩境のまち保存会)

■活動の歩み

年	主な事業等
平成10年	・都市史・建築史調査 (大川市小保・榎津伝統的町並み調査報告。九州芸術工科大学宮本研究室)。小保・榎津には長い時間をかけて形成された町並みが残され、町並み調査により価値付けもされている。
11年	・住民主催イベント「肥後街道宿場を歩く (現：藩境まつり)」による住民機運の醸成 (平成29年までに18回開催)
21年	・藩境のまちづくりを考える会発足 (地元住民を中心とした30人で発足) ・「小保・榎津 藩境のまちづくり宣言」
22年	・住民意識調査 「伝統的な町並みの保存を進める歴史のかおる町」を望む人が 60%超 ・会員の意識向上に向けた勉強会、まち歩き開催 ・先進都市視察開始 (黒木・八女福島、石見銀山等) ・町並みの保存を対外的にアピールするため講演会を開始 ・かわら版の発行開始 ・木工業発祥の地をアピールするため看板製作 (木工業に携わっている 24 店舗分)、町並みサイン等の製作
23年	・景観調査・社会調査 (大川市小保・榎津伝統的町並み調査報告。久留米工業大学大森研究室+小保・榎津藩境のまち保存会)。価値を備える小保・榎津の町並みを保存・継承することは、単に文化財保護の一環として取り組む課題ではなく、大川産業基盤の再整備に向けた取り組みである。 ・「小保・榎津 藩境のまちづくり宣言」の実現に向けた歴史まちづくりの方向性を取りまとめた「第一次 藩境のまちづくり構想」作成 ・全体班と「伝統的建造物を活用することに協力する班」「木工業のアイデンティティの確立に協力する班」「環境整備・勉強会の開催に協力する班」の3つの班で様々な活動を実施
24年	・旧吉原家住宅の活用 (新春おぜんざいの会、木版画展、観月会、博多人形作品展等)
26年	・藩境まちづくり協定の締結、街なみ環境整備事業の導入 ・「まちなみフォーラム福岡 in 大川」開催
28年	・NPO法人化
29年	・新たな課題への対応と自立的な班活動の展開を目指して「第二次 藩境のまちづくり構想」作成 ・4つの班「町並みの価値を上げる班」「まちなみ活用班」「環境整備班」「旧吉原家住宅活用検討班」及び会員全員で取り組む「町並み見守り隊」での活動展開
現在	・重要伝統的建造物群保存地区指定を目指し、様々な活動を展開している。

(NPO法人小保・榎津藩境のまち保存会「小保・榎津藩境のまち保存会 活動のあゆみ」をもとに筆者作成)

小保・榎津の町並みと活動の様子



小保・榎津の町並み



藩境まつり(駕籠かき競争)



観月会



町並み清掃活動



石見銀山視察

小保・榎津藩境のまち保存会の活動の様子

(このページの写真はすべて「NPO法人小保・榎津藩境のまち保存会」提供)

■まちづくり活動のきっかけ

平成 11 年より小保・榎津地区で行われている住民主催イベント「肥後街道宿場を歩く（現：藩境まつり）」により住民の機運が高まったため、市が緊急雇用対策事業を用い、平成 21 年 11 月 25 日まちづくり団体「藩境のまちづくりを考える会」を発足。発足時は地元住民を中心に 30 名の会員で構成。活動前の住民意識調査でも、「歴史のかおる町」を求める人が多かった。

また、次のような「小保・榎津 藩境のまちづくり宣言」を行い、会員の意識共有を図っている。

【小保・榎津 藩境のまちづくり宣言】

このまちは、

- 一、旧い家並みと彩りあふれる伝統のまち
- 一、歴史が薫る 柳河・久留米 藩境のまち
- 一、職人の暮らし息づく木工発祥のまち

(NPO 法人小保・榎津藩境のまち保存会「小保・榎津藩境のまち保存会 活動のあゆみ」より引用)

■これまでの取り組み（抜粋）

(NPO 法人小保・榎津藩境のまち保存会「小保・榎津藩境のまち保存会 活動のあゆみ」より引用)

2-1-3 町並みの価値を対外的にアピール

■講演会の開催（6回開催、のべ420人）

「筑後小保・榎津の歴史的遺産とまちづくり」
@2010年11月14日 旧吉原家住宅 83人



@2011年9月4日 大川市立図書館 50人
@2011年11月17日大川ロータリークラブ 30人
@2011年12月8日 大川市ボランティア育成講座 10人
@2013年3月12日 大川産業会館 40人

講演会

■かわら版の発行



かわら版の発行

2-1-4 木工業発祥の地をアピール

小保・榎津が大川木工業の発祥の地 ←あまり知られていない

→ 木工業の発祥の地をアピールするための看板を製作。

町並みの建具屋を営んでいる4事業所・塗装屋が協力
木工業に携わっている24店分を製作！




木工業発祥の地をアピールするため看板製作

2-1-5 町並み環境整備

○町並みサイン等の製作




↑建物紹介看板
↑焼印付きプランターカバー
↑案内看板

町並みサイン等の製作



対外的活動



まちなみフォーラム福岡 in 大川



旧吉原家住宅の活用



NPO 法人設立記念式典

■ 現在の課題

- ・ 伝統的建造物が減少している。
- ・ 修理事物が未だにない。
- ・ 空家や使っていない伝統的建造物が増加している。
- ・ 伝統的建造物の取り壊しや新築等の情報が保存会に入らない。
- ・ 伝統的建造物の現状調査が進んでいない。
- ・ 街なみ環境整備事業制度について住民へ周知する活動ができていない。
- ・ イベントを行う際、ひとつの班の負担が大きくなってきている。
- ・ 地域住民に保存会の活動を周知できていない。コミュニケーションが足りていない。
- ・ まちなみ博物館のための調査が行えていない。
- ・ 全市民対象の講演会が行えず、保存会の周知活動が進められていない。

(NPO 法人小保・榎津藩境のまち保存会「小保・榎津藩境のまち保存会 活動のあゆみ」より引用)

■ 課題に対応した今後の保存会の活動方針と体制

「小保・榎津 藩境のまち 活動方針」(第二次、平成 29 年)に基づき、次の 2 ヶ年は地域の方々との信頼関係の構築に重点を置き、さらに旧吉原家住宅の 2 年後の再オープンに向けた体制の構築を視野に入れ、「小保・榎津の藩境のまちづくり構想」の実現に向けて、「地域住民の方々への会の周知」「自主的な班活動」という方針を設定し、それらに基づいた活動を行うこととし

ている。具体的には、4つの班「町並みの価値を上げる班」「まちななか活用班」「環境整備班」「旧吉原家住宅活用検討班」及び会員全員で取り組む「町並み見守り隊」での活動を展開することとしている。

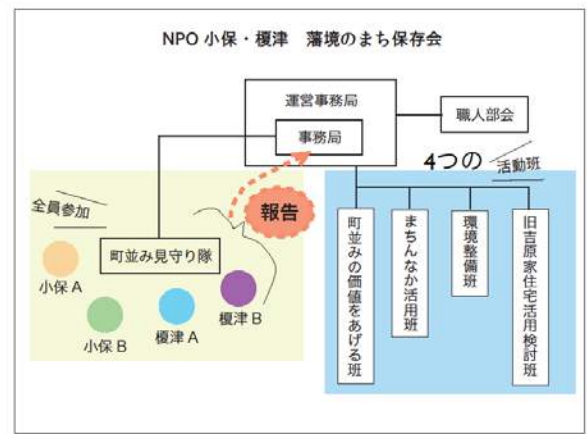
小保・榎津藩境のまちづくり構想（現状維持）

- ・小保・榎津の町並みの価値を維持する取り組みに協力します
- ・歴史的遺産を構成する伝統的建造物・環境物件等を保存・継承します
- ・町並みの特徴や魅力を伝えます
- ・旧吉原家住宅や緒方家住宅をはじめとする伝統的建造物群を公開・活用します
- ・大川市の基幹産業である木工業発祥の地というアイデンティティを確立します
- ・町並みを楽しく散策できる環境づくりに取り組みます

■ 小保・榎津 藩境のまち 活動方針 （第二次、2017年）

次の2ヶ年は地域の方々との信頼関係の構築に重点を置き、さらに旧吉原家住宅の2年後の再オープンに向けた体制の構築を視野に入れ、「小保・榎津の藩境のまちづくり構想」の実現に向けて、以下の活動方針を設定し、それらに基づいた活動を行います。

地域住民の方々への会の周知
自主的な班活動



活動方針と活動内容

[小保・榎津の地域住民との信頼関係を構築します]

- ・伝統的建造物等の情報収集、現状を把握
- ・「町並み見守り隊」の結成

[旧吉原家をはじめとする伝統的建造物の公開・活用に協力します]

- ・2年後に再オープンする旧吉原家住宅の活用や体制づくり
- ・伝統的建造物の公開・活用を検討
- ・まちななか博物館の実践
- ・伝統的建造物の修理に携われる職人部会の充実

[小保・榎津の町並みの特徴や魅力を伝えます]

- ・活動内容の報告：かわら版、HPの管理運営等
- ・勉強会の企画・開催、視察の企画・実施

[町並みを楽しく散策できる環境づくりに協力します]

- ・町並み・江湖等の清掃
- ・「町並み見守り隊」による事務所にて観光客への町並み案内、地域住民への憩いの場の提供



藩境のまちの象徴である藩境の石列

新たな活動方針と保存会の体制、活動内容

（NPO 法人小保・榎津藩境のまち保存会「小保・榎津藩境のまち保存会 活動のあゆみ」より引用）

（参考文献、引用文献）

- ・NPO 法人小保・榎津藩境のまち保存会「小保・榎津藩境のまち保存会 活動のあゆみ」

(3) 福津市津屋崎 (活動団体: 津屋崎千軒 海とまちなみの会)

■活動の歩み

年	主な事業等
平成19年	・散策地図「津屋崎千軒そうっこう」(A2判) 1万部発行 町歩きボランティアガイドを開始
20年	・『藍の家』国登録有形文化財記念の藍染めバンダナと原酒販売を行って完売 ・津屋崎千軒まちづくりフェア講演会を福津市で開催 (講師・西村幸夫東大教授)
21年	・「まちづくり功労者」として国土交通省大臣表彰 ・散策地図「津屋崎千軒そうっこう」英語・日本語併記版2万部発行
22年	・福津市へ〈津屋崎千軒〉の観光スポット解説板に掲示する文案を提供 ・散策地図「津屋崎千軒そうっこう」中国語版、韓国語版各1千部発行 ・「津屋崎千軒うみがめ祭・町家まつり」で津屋崎塩田回顧展、塩作り体験教室、伊藤伝右衛門ゆかりの津屋崎写真展、津屋崎塩倉庫ライトアップコンサートを運営 ・有効なまちづくりのためのプロジェクトや取り組みを行っているとして、日本都市計画家協会「第8回日本都市計画家協会賞」福岡支部賞を受賞
23年	・旧玉乃井旅館の名物だった「津屋崎たこつぼ料理」を15年ぶりに復活
24年	・福津市津屋崎3丁目に拠点事務所「貝寄せ館」を開館 ・福津市津屋崎3丁目にある卯建の建つ町家「麦屋惣平衛邸」前に解説案内板を設置 (会員ら1口千円の寄付金で設置の案内板第1号) ・「海とまちなみの会」らで組織した実行委員会が、津屋崎地区で「伊能忠敬ウォーク&宿泊地探訪バスツアー」を開催 ・田上健一・九州大学大学院教授との町家調査で発掘した津屋崎千軒に残る卯建や鏝絵のある江戸・明治期からの町家について、市主催の郷育講座で「卯建と鏝絵の町家巡り」を講義 ・津屋崎千軒で開催された「第35回全国町並みゼミ福岡大会」で、第5分科会「町並みの保存・継承と町家等の活用」の運営を担当
26年	・平成25年度「ふくおか地域づくり活動賞」奨励賞表彰 ・市民募金約40万円で福津市宮地浜に夕陽が沈む方向と時刻が分かる「夕陽風景時計」を設置 ・福津市との共働事業で「津屋崎里歩きフットパス」を開設
27年	・NHKドラマ「ここにある幸せ」ロケ地ガイドで「津屋崎の子守歌」を披露 ・NPO法人新日本歩く道紀行推進機構から『絶景の道100選』に認定
28年	・「津屋崎千軒フットパスまつり」&「第4回まちなみフォーラム福岡in津屋崎千軒」を開催
29年	・「全国フットパスの集いinなかま2017」への参加 ・福津市主催の環境フォーラムへの参加
現在	・福津市の景観条例を活用した景観計画推進に協力、町並み景観や町家の保全を目指している。

(「津屋崎千軒 海とまちなみの会」提供資料をもとに筆者作成)

津屋崎千軒の町並みと活動の様子



津屋崎千軒の町並み



豊村酒造の主屋を飾る龍の鍍絵のガイド



宮地浜の夕陽風景時計のガイド
(福岡県美しいまちづくり協議会の視察団を案内)

津屋崎千軒海とまちなみの会の活動の様子(「津屋崎千軒 海とまちなみの会」提供)

■まちづくり活動のきっかけ

- 江戸時代から福岡藩直営の塩田での製塩や海上交易で栄え、商家が連なる町並みは千軒も
の家が並ぶほどだとして、「津屋崎千軒」と称された福津市津屋崎地区の Quaint Town (古風
な趣のある町) の町並み景観の保全活用と海辺の自然を守りたいと、市民ら 23 人が平成 19
年 2 月 16 日、「津屋崎千軒 海とまちなみの会」を創設した。
- 旧西鉄宮地岳線津屋崎—新宮(福岡県新宮町) 駅間約 10km が平成 19 年 3 月末で廃線になる
ことから、鉄道を失う町の地盤沈下危機感を持ったのが会設立のきっかけである。

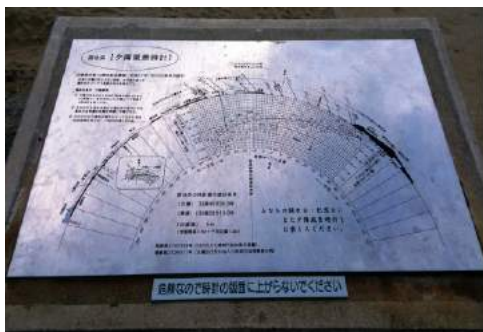
「津屋崎千軒 海とまちなみの会」の構成

- ・平成 29 年 10 月 1 日現在の会員数 54 人
 (福津市内在住 49 人、津屋崎出身者や津屋崎ファンの千葉県、愛知県など市外在住者 5 人)
- ・役員：会長 1 名、副会長 2 名、監事等 5 名

■最近の活動内容

1) 「津屋崎里歩きフットパス」の活用と自然環境・景観保全

- ・「海とまちなみの会」では、福津市の景観条例を活用した景観計画推進に協力、町並み景観や町家の保全を目指している。
- ・平成 26 年 7 月、市民募金約 40 万円で福津市宮地浜に夕陽が沈む方向と時刻が分かる「夕陽風景時計」を設置した。同時に福津市住みよいまちづくり推進企画補助金 38 万 3 千円を受け、福津市との共働事業で、同時計前を発着点に浜山松原、津屋崎千軒を経て、宮地嶽神社までを 2 時間半で回遊する歩程 6.8km の「津屋崎里歩きフットパス」を開設した。
- ・平成 27 年 9 月に NPO 法人新日本歩く道紀行推進機構から『絶景の道 100 選』に認定された。
- ・平成 26 年 7 月の「津屋崎里歩きフットパス」初歩きをはじめ、平成 29 年 9 月の「津屋崎千軒フットパスまつり 2017」まで計 15 回の「フットパス」ウォーク開催で合計 425 人が参加。平成 27 年 11 月には、「海を渡る蝶・アサギマダラ」が海浜植物・砂引草の花の蜜を吸いに飛来するフットパスコースの「津屋崎浜」と「宮地浜」の計 4 か所に、貴重な海浜植物群落の保護を求める掲示板を福津市うみがめ課と設置した。フットパスや市景観条例活用による自然環境・景観保全を図るのがねらいである。



宮地浜「夕陽風景時計」



『絶景の道 100 選』認定ステッカー



津屋崎浜への海浜植物保護掲示板設置を掲載した記事 (H27.11.14)

(このページの写真、新聞記事等は「津屋崎千軒 海とまちなみの会」提供)

2) 「津屋崎千軒フットパスまつり」 & 「第4回まちなみフォーラム福岡 in 津屋崎千軒」開催

- ・「まちなみネットワーク福岡」など3団体と平成28年9月17日、福津市津屋崎地区で「津屋崎千軒フットパスまつり」&「第4回まちなみフォーラム福岡 in 津屋崎千軒」を開催した。
- ・「津屋崎里歩きフットパス」の『絶景の道100選』認定1周年を記念し、午前中にA 絶景の道コース（「津屋崎里歩きフットパス」）とB 世界遺産の道コース（世界遺産候補「新原・奴山古墳群」ウォーク）のフットパスを開催した。また、午後からは、「豊村酒造」酒蔵等を会場に「第4回まちなみフォーラム福岡 in 津屋崎千軒」を開催した。いずれも、景観や世界遺産、町並み保全・継承、まちづくりにつなげていく企画とした。
- ・「豊村酒造」酒蔵では、「町家の再生活用と町並み景観の保全」をテーマにした『まちなみパネルディスカッション』や、酒蔵と他の2会場で3分科会（Ⅰフットパスで活かす世界遺産、Ⅱ古民家の再生活用と移住受入、Ⅲ伝建地区制度と街なみ環境整備事業による町並み保存継承）を開き、各地域共通の課題解決手法や地域遺産の活用策を掘り下げて議論した。
- ・「津屋崎千軒フットパスまつり」 & 「第4回まちなみフォーラム in 津屋崎千軒」の総参加者数は155人で、フットパスには95人（A 絶景の道コース54人、B 世界遺産の道コース41人）、基調講演・パネルディスカッション、分科会には100人以上が参加し、大盛況であった。



フットパスの様子:A 絶景の道コース(左、「津屋崎千軒 海とまちなみの会」提供)とB 世界遺産の道コース(右)



まちなみフォーラムの様子(「津屋崎千軒 海とまちなみの会」提供)

■活動に当たって工夫していること

活動の継続性を図るとともに、会員や参加者に知的好奇心を満たしてもらえるように、次の点に配慮している。

- ・「無理のない範囲で、楽しく」のスタンスで活動の中に楽しみを持てるように、「海とまちな

みの会」の活動方針五カ条をモットーにしている。「1に健康第一、2に家族優先、3に仕事
が大事、4に生きがい、5にボランティア」で、各会員は5番目の優先順位であるボランテ
ィアとして活動している。

- ・郷土の歴史や文化、自然の素晴らしさ等を学ぶ「〈津屋崎千軒〉ふるさと塾」を平成23年か
ら始め、「馬鉄の話を聴く会」「つやざき飴作り」「伊能忠敬ウォーク」「津屋崎の博物学」「新
原・奴山古墳群」「万葉古道の植物探訪」等をテーマに平成29年11月まで17回開催した。

■活動に当たっての課題や問題点

- ・役員ら活動の中心会員15人の平均年齢が平成29年10月1日現在で68歳（最高齢84歳、
最若年38歳）と高齢化し、観光ボランティアガイドやイベントの担当者が固定メンバーにな
りつつある。
- ・津屋崎千軒の町並みの景観を支え、観光客のお土産や立ち寄りスポットだった津屋崎飴製造
「香立商店」が平成24年に廃業し、江戸時代から営業の和菓子店「上田製菓」が平成29年
5月に閉店するなど老舗の商店が閉じられている。また、町家も解体が続くなど、古い町並
みの歴史や風情が希薄になり、町歩きの魅力に陰りが出てきている。
- ・津屋崎への移住者は増えているものの、商店を営む人は少なく、行列のできる人気の飲食店
の進出もなく、年間を通した賑わいづくりができていない。

■地域内の他の団体との連携、行政や大学等との連携

- ・会員が重複している「藍の家保存会」「津屋崎ランチ」など福津市内の市民団体と連携して
活動しているほか、協働事業で「津屋崎里歩きフットパス」を開設した福津市都市管理課と
市の景観保護について、またアサギマダラ飛来地の「津屋崎浜」と「宮地浜」に海浜植物の
保護を呼び掛ける掲示板を連名で設置した同市うみがめ課と環境保護について、それぞれ協
力して活動している。
- ・福岡県が事務局をしている「福岡県美しいまちづくり協議会」（事務局・県都市計画課）と、
「地域づくりネットワーク福岡県協議会」（事務局・県広域地域振興課）に加盟、景観維持や
地域づくりについて情報交換、啓発イベントに参加するなどの活動を続けている。
- ・県内各地のまちづくり団体で構成する「まちなみネットワーク福岡」には、平成25年8月の
設立時から加盟して活動を重ねている。

（参考文献、引用文献）

- ・津屋崎千軒海とまちなみの会 提供資料



国の登録有形文化財である「藍の家」を案内する
「津屋崎千軒 海とまちなみの会」の皆さま

(4) 飯塚市内野 (活動団体：一般社団法人 内野地区活性化協議会、NPO 法人長崎街道内野宿 冷水峠デザイン研究会)

■内野の概要

- ・内野宿は三方を山に囲まれ、穂波川（遠賀川）の上流に位置している。樹齢 800 年を越すおがたまの木、500 年を越すもみじ、内野のシンボルになっている樹齢 500 年のイチヨウ、400 年を越す柿、350 年を越す山桜など種々の古木があり、自然豊かな環境にある。
- ・内野宿は 8,000 年前（黒曜石の矢じり、土器等の出土の縄文遺跡）から脈々と続く歴史を有している。また、江戸時代は長崎街道筑前六宿の一つとして栄えた歴史がある。現在も旧宿場内を通る街道は道幅・道筋ともに江戸時代のままであり、家々の間口も当時のままに引き継がれたものが多く、宿場時代の面影を色濃く残している。
- ・文化庁の「歴史の道百選」に選定された内野宿と山家宿の間の難所冷水峠の石畳道も当時のまま残っている。英国初代公使ラザフォード・オールコックがその著書「大君の都」の中で、景色が素晴らしいと書き記している冷水峠の石橋や祠を今もみることができる。



老松神社



内野の町並み(左:内野宿展示館、右:小倉屋)



樹齢 500 年のイチヨウ



老松神社のイチヨウ



冷水峠

内野の魅力資源

■まちづくり活動のきっかけ

- ・内野は多彩な自然や歴史資源を有する一方、過疎化、高齢化が進み、小学生で多い時には 1 学年 60 名を越していたのが、現在はその 1/10 以下になっている。

- ・地域の活性化を目指し、昭和51年に40歳以下の有志による「村づくり青年会」ができ、祭り等の盛り上げなど10年余り活動した。その後、平成4年に内野地区全世帯を会員とする「内野ふるさと創生会」が結成され、ほたるを見る会、そば祭り等のイベントや山村留学制度の実施等を行ってきた。
- ・その後、平成20年に「内野地区活性化推進会議」として再結成され、平成26年に「一般社団法人 内野地区活性化協議会」として法人化された。

■内野地区活性化協議会の活動

- ・内野に熱い思いを持っている若手で結成する「NPO 法人長崎街道内野宿冷水峠デザイン研究会」とも連携して、内野の歴史・自然を認識し直し、地域資源として活かしていく「うちのにぎわいを求めて」の事業推進に取り組んでいる。
- ・ウォーキングコースをつくり、春には「春の内野宿一本桜自然ウォーキング」大会を開催している。また、秋には「秋酔の内野 宿場のにぎわい」を開催し、大イチョウのライトアップや紅葉名所めぐり、ぼんぼり祭り等を実施している。
- ・「内野宿かわら版」を2ヶ月に1回程度のペースで継続的に発行し、これまで第25号まで発行している（平成29年12月15月現在）。

内野宿かわら版

第24号 平成29年12月1日発行
一般社団法人 内野地区活性化協議会

【秋酔の内野 宿場のにぎわい】開催

11月10・11・12日の3日間「秋酔の内野 竹あかり」を開催しました。

【10日】ライトアップ点灯式

黒田藩大陣の号砲、内野宿作事奉行の黒田24騎の一人伊豆太兵衛着用の禮砲を撃った多田会長の「点灯」の号砲で「内野宿大イチョウ」が灯りにうかびあがりしました。その後、日本一の鐘を敲みつつ海軍太兵衛にちなみ黒田節の舞踊が演じられました。



青柳の内野を感じんでもらおうと大イチョウの他、老松宮、正円寺、宗賢寺のライトアップ、竹あかりの舞臺、長崎屋、東内野として歌舞伎



遊覧し長崎屋



遊覧屋内で観覧の中ゆらゆら竹あかり、鐘の音にデザイン

送られた竹灯ろう、明りに照らされた生け花、夏ごたえのある青柳の内野を楽しめました。ライトアップは工夫を重ねより良いものにしていきたいと考えています。

【11日】江戸の情緒群「長崎街道をワラジで歩く」

冷水峠から石畳道を、竹の皮で包んだおにぎり弁当を携え、笠をかぶり、ワラジをはいて内野宿まで歩く。「少し不安だったが、ワラジで歩くのは違和感もあつたがなかなかよかった。いい体験ができた」とご夫婦（夫74歳、妻70歳）で歩かれた方の感想でした。



【内野宿紅葉名所めぐり】

バスで内野の浦田、弥山、岩ヶ根、大石、凡定と馬敷の西光寺を巡りました。浦田では紅葉の下を歩き、等馬を収め、西光寺では紅葉をたのしむとともに住職の話を聞き、黒田首兵衛公の自筆の法名「如水円清」の御位牌に手を合わせました。

【もよぎり】

遺物を着た子供たちがお包みまでそろそろ歩き宿場の町並みにかわいさを添えてくれました。老松宮で神事を受け、長崎屋で祝儀を頂きました。ワラジで歩く、紅葉名所めぐりは観望園工芸協会の事業と連携を図りました。



【12日】は11日と同様ワラジで歩く、紅葉名所めぐりを行うと共に楽しい音楽の演奏を堂泉寺さんのグループに行ってもらいました。

また、内野宿大イチョウの下で**【黒田藩御旗船大陣】の再現 迫力に感動、重さ30kg大旗の吹、煙、音の迫りに感動しました。**

11・12 両日 虎事始「長崎屋」では非けごはん十内野村、「うちの家庭」では肉うどん、カレー、鍋限定

内野宿かわら版

第25号 平成29年12月15日発行
一般社団法人 内野地区活性化協議会

甘木屋の再建

建設予定地の旧丁人倉庫を取り壊し、整地を行ったところ、江戸時代の井戸が出てきた為、県の担当者から井戸を活かした甘木屋に設計変更すべきとの指図を受けました。このことは御着附していたいた村上様の意向に合うものと考えています。

飯塚市の文化財担当者で打ち合わせを行い、平成30年1月に試掘調査を行うことが決定しています。



甘木屋建設地 表玄関部分が井戸

内野宿来訪者

10月に入って内野宿を訪れる人が増えてきました。平日でも3〜4組の人々が内野宿を散策したり、内野宿大イチョウを見に来られています。庄屋屋敷跡の大橋や大イチョウの迫力に感動されています。

11月5日には「伽藍一武蔵 100キロウォーク」の一行190名が内野宿を通り、長崎屋で休憩、内野汁を味わい、冷水峠・石畳道を越えて武蔵まで歩いて行きました。

常田の危険箇所への交通安全の手配を行いました。

11月15日には長崎市津島町から自治会長を中心とした津島町地域づくり推進員および市役所職員を含む25名が来訪されました。内野宿散策、食事を楽しんだ後、内野地区活性化協議会と意見交換会をしました。津島町は聖の家（国登録有形文化財）保存会をはじめ、多くの団体が活動されています。内野も加入している「まちなみネットワーク福岡」にも加入されており、今後交流を深め連携を図っていきたいと考えています。



家屋調査の実施

近畿大学産業理工学部建築・デザイン学科建築計画研究室 益田信也先生により、「内野地区伝統的定屋実測調査」が行われました。調査期間は10月2日から11月3日まで、調査には近畿大学の8名の学生も参加しています。今回の調査は内野宿東西横入口間の9軒の家屋が調査され、合わせて道路の高差の調査も行われました。

調査対象になった家屋の方には大変お世話をお掛けしました。感謝いたします。現在調査内容を取りまとめ中です。



11月27日の大イチョウ

11月18日は長崎から20名の方が来訪され、長崎屋で食事され、内野宿を1時間散策されました。案内の中で一軒一軒の地割りが江戸時代から変わっていないまちなみにびっくりされていました。

11月20日は2グループの来訪がありました。1グループは大阪からのお客様で朝8時30分に新門司港をバスで出発、紅葉寺として有名な馬場の西光寺を見学し、

最近のかわら版（「内野地区活性化協議会」提供）

■第3回まちなみフォーラム福岡 in 内野宿

- ・平成27年11月に「第3回まちなみフォーラム福岡in内野宿」を内野で開催し、地域内外から

約100名が参加した。初日は町並み見学～基調講演～パネルディスカッション～内野地区からの活動発表～情報交換交流会等、2日目はバルーン搭乗～長崎街道冷水峠散策と多彩な内容であり、福岡県内各地の地域文化の子どもへの継承を考え、いかにまちづくりにつなげるかを探った。

- ・内野では、子どもたちに内野を愛し、誇りを持ってもらいたいとの思いから、「内野をもっと知ってもらおう」と内野の歴史を研究してもらった活動も行っており、内野小学校の児童に研究発表してもらった（英国初代公使オールコックが冷水峠の情景に感動した様子を発表してもらったもの）。



町並み見学



パネルディスカッション



内野小学校児童による研究発表



情報交換交流会

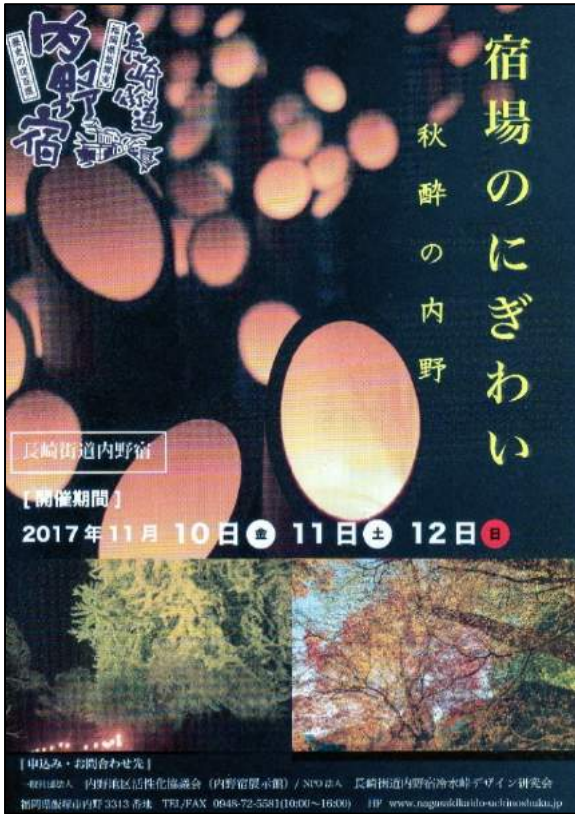


バルーン搭乗



長崎街道冷水峠散策

最近の活動内容



広報パンフレット



竹あかりの長崎屋



長崎街道をワラジで歩く

「2017年 秋酔の内野 宿場のにぎわい」の様子



冷水峠の地藏堂完成



内野宿絵図完成。県立嘉穂高校美術部の生徒による制作



内野地区伝統的の家屋実測調査。近畿大学の学生も参加



小学生によるまち歩き
(冷水峠～内野宿)



小倉屋石垣の草刈り・清掃



甘木屋の再建に向けた準備

(このページの写真はすべて「内野地区活性化協議会」提供)

(参考文献、引用文献)

- ・(一社)内野地区活性化協議会 提供資料
- ・第3回まちなみフォーラム福岡 in 内野宿配布資料

【手記】まちづくり協議会卒業をきっかけに始めた二つのまち旅

(1) 地域づくりや建築の原点に戻る旅

平成 28 年 5 月末の唐津街道姪浜まちづくり協議会卒業後、筆者がまず始めたことは「地域づくりや建築の原点に戻る旅」である。これは、姪浜での 10 年間のまちづくり活動を振り返る旅であり、次の二毛作目の人生に向かって自分を見つめ直す旅でもある。筆者は、大学の卒業研究のフィールドであった「三角西港」や建築を志した時に感銘を受けた「孤風院」という洋風建築訪問をきっかけとして、それぞれの風土や身近な歴史・文化を活かしたまちづくりを進めている地域や集落、各地に残る歴史的建造物等を訪問している。それぞれの地域の取り組みを学び、地域の方々と出会い、対話することで、地域づくりや建築への想いを新たにしている。



大学時代に研究していた頃の三角西港(昭和 57 年 2 月。大学を卒業して 2 年後の写真)



現在の三角西港(平成 28 年 7 月)



現在の孤風院(平成 28 年 8 月)



木島安史先生の著書「孤風院白書」

地域づくりや建築の原点に戻る旅



国立西洋美術館



東京駅



旧朝倉邸と代官山ヒルサイドテラス



すみだ北斎美術館



富貴寺



有田の町並み



肥薩線の旅

コラム3 外海集落と崎津集落

平成 28 年の夏に長崎市外海と天草市崎津の集落を巡る旅に出た。外海は初めての訪問であり、目的は出津教会を見ることであった。出津教会に到着するまで至る所に見られる石積みがこの集落の特徴であることがすぐにわかった。

長崎市のホームページによると、集落の中には、斜面地を開墾した際に出土した結晶片岩を用いて、土留めの石垣、防波・防風の石築地、居住地の石塀、住居・蔵の石壁など多種多様の石積み構造物が築かれてきた。石積みは、結晶片岩の石に赤土及び藁すさを練り込んで築いた伝統的な石壁である「練塀」のほか、明治期にはパリ外国宣教会のド・ロ神父によって藁すさに代わり赤土に石灰を混ぜる練積みの「ド・ロ壁」が導入され、現在もこうした石積み構造物が数多く残されている。このように、外海の石積集落には、生活生業に関連した多種多様な石積み構造物がみられ、この地域特有の石積文化の集落景観が形成されている（平成 24 年に国の重要文化的景観に選定）。



外海の石積集落景観

(次ページに続く)

また、崎津は平成 16 年の夏以来、12 年振りの訪問となった。前回は車で立ち寄る程度で崎津教会のイメージしか残っていなかったが、今回は教会を中心とした漁村集落を散策した。羊角湾の穏やかで青緑色の海が印象的で、漁船が港に集い、町の中心部にゴシック様式の崎津教会がそびえている。肩を寄せ合うように建つ民家や路地、「トウヤ」と呼ばれる軒と軒の間にある路地が景観を特徴付けている。名物の「杉ようかん」のお店、寿司屋の他、最近ではカフェや資料館もオープンし、地域づくりを目指す人たちが町の魅力を伝えようと動き始めている。

集落の約 70%がキリシタンだった崎津集落は、禁教期にも信仰が密かに続いた小さな漁村であり、明治 6 年のキリスト教の禁教が解かれるまでの 250 年もの間の弾圧・潜伏・キリスト教復活に至る痕跡を見ることができる。平成 23 年に国の重要文化的景観に選定され、現在、崎津集落を含む「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」が、平成 30 年の世界文化遺産の登録を目指し、改めて推薦候補に選定されている。

外海集落や崎津集落を訪問することで、改めて地域の風土や歴史を活かしたまちづくりの重要性を痛感した。



崎津の集落景観

コラム4 建築の原点に戻る展覧会

平成29年8月～11月にかけて東京に行く機会を利用して次の4つの建築展を見てきた。

A展：日本の家－1945年以降の建築と暮らし－

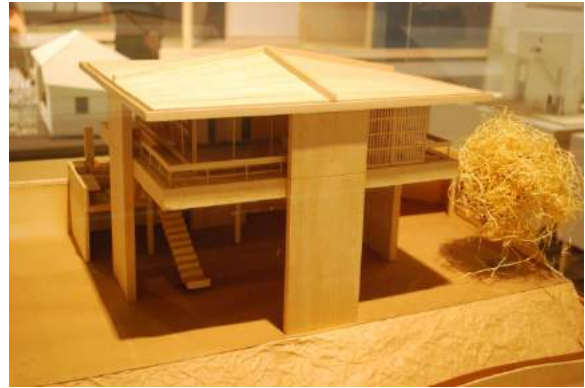
B展：ル・コルビュジェの芸術空間－国立西洋美術館の図面からたどる思考の軌跡－

C展：アジール・フロタン再生展

－浮かぶ避難船 ル・コルビュジェが見た争乱・難民・抵抗から－

D展：安藤忠雄展－挑戦－

A展は、日本の建築家が設計した1945年（昭和20年）以降の戸建住宅を紹介するもので、ローマとロンドンで開催された後に、東京国立近代美術館で巡回展示されたものである。丹下健三氏の「自邸」、清家清氏の「斎藤助教授の家」、篠原一男氏の「白の家」、東孝光氏の「塔の家」、白井晟一氏の「呉羽の舎」、黒川紀章氏の「中銀カプセルタワービル」など、筆者が大学時代に学んだ多くの作品の図面や模型を目の当たりにし、住宅設計の楽しさと面白さを改めて感じたところである。



日本の家－1945年以降の建築と暮らし－

B展は、2016年（平成28年）に世界文化遺産に登録された国立西洋美術館の本館を取り上げ、ル・コルビュジェがその設計の過程で描いた習作図面をもとにコルビュジェの本館構想のプロセスを紹介するものである。コルビュジェが提案した「ピロティ」「屋上庭園」「自由な平面」「水平連続窓」「自由なファサード」という近代建築の5原則や、所蔵品の増加とともに展示室を増築していくことを基本理念とするプロトタイプ「無限成長美術館」の考え方に触れることができた。



ル・コルビュジェの芸術空間－国立西洋美術館の図面からたどる思考の軌跡－

（次ページに続く）

C展の主演である「アジール・フロタン（浮かぶ避難所）」は、コルビュジェの知られざるプロジェクトであり、パリのセヌ川（ノートルダム大聖堂から約1kmの上流）に浮かんでいる。世界救世軍の依頼により設計し、船を改造したもので、第一次世界大戦の混乱によって生じた女性の難民を収容すべく、1929年（昭和4年）に完成したものである。もともとは石炭を運ぶコンクリート造の船だったが、箱型の船体に柱と屋根・水平窓を増築し、建築としてリノベーションされた。その後、老朽化により建築としての機能を失っていたが、2005年（平成17年）から修復工事が施され、2018年（平成30年）からギャラリー機能を持った建築として再生されることになっている。

この新しい船出を祝して、完成当時の資料、設計のスタディ、現在の写真・映像、模型等により紹介されたものである。ここでも、コルビュジェが提唱する近代建築の5原則が貫かれている。パリに行く機会を設けて、ぜひ実物を見てみたいものだ。



アジール・フロタン再生展 —浮かぶ避難船 ル・コルビュジェが見た争乱・難民・抵抗から—

D展は、建築家・安藤忠雄氏の半世紀に及ぶ設計活動の軌跡と未来への展望を「原点／住まい」「光」「余白の空間」「場所を読む」「あるものを生かしてないものをつくる」「育てる」という6つのセクションに分けて紹介したものである。建築の設計だけでなく、環境再生や震災復興といった社会活動にも果敢に取り組みされており、展覧会場を巡りながら安藤氏の歩んできた道程はもちろん、建築という文化の豊かさ、建築の無限の可能性を感じることができた。その中でも、「場所性」「新旧の対話」というキーワードは筆者が常々考えていることであり、その重要性を改めて認識できた。



安藤忠雄展 —挑戦—

4つの展覧会は、「地域づくりや建築の原点に戻る旅」を進めている筆者にとって、大変刺激的なものであり、タイムリーなものであった。社会人になって忘れかけていた「建築への想い」を新たにしたところであり、今後の人生を考える上で大いに参考にしていきたい。

(2) 熊本の復興の過程を巡る旅

筆者は熊本地震後、大学時代の思い出の多い熊本のことが気になり、積極的に熊本県内を訪問している。被害を受けている熊本の現状と復興の過程をしっかりと目に焼き付けておきたいからである。その中でも、熊本城、阿蘇神社、阿蘇大橋、そして益城町や南阿蘇村の被害はとても痛ましいものがあった。主要な観光地を結ぶ道路も閉鎖され、観光客も激減している。地震前とは違う光景が広がっていた。

熊本地震から1年経った平成29年4月上旬には満開の桜を見に熊本城を訪れたが、石垣と桜の美しさは熊本だけでなく、日本の誇りだと改めて感じた。多くの市民や観光客も訪れ、賑わいを見せており、復興の足音を強く感じた。また、5月下旬の訪問時には、天守閣再建に向けて一部解体工事が始められていた。



熊本地震から1年後の桜が満開の頃
(平成29年4月)



天守閣再建に向けて一部解体工事が始められた頃
(平成29年5月)

また、南阿蘇村の一心行の桜も地震前と同じように咲き誇り、黄色の菜の花や青い空とのコントラストが鮮やかであり、多くの来訪者で賑わっていた。落ちない石で有名な免の石は熊本地震で残念ながら落ちたが、地元の方々がそれを逆手に取り、石が落ちた後の空洞の姿を招き猫に例えPRしていた。倒壊した阿蘇神社も復興に向けて新たな歩みを始めていた。

このように熊本の復興の過程を巡る旅は、筆者にとっては人との出会いの旅であり、感動の旅である。筆者は、今後も復興の過程を見に定期的に熊本を訪問し、地域の方々と対話・交流することを楽しみにしていきたい。それが筆者流の熊本復興への支援である。



熊本地震から1年後の一心行の桜
(平成29年4月)



復興に向けて新たな歩みが始まった阿蘇神社
(平成29年4月)

熊本地震による被害の様子



熊本城(平成28年6月)



阿蘇神社(平成28年8月)



阿蘇大橋(平成28年8月)



南阿蘇村(平成28年8月)



熊本市新町地区(平成28年12月)

「参考資料 2 熊本の復興の過程を巡る旅」

コラム5 熊本市新町・古町地区の現状

熊本市の城下町である新町・古町地区は、明治10年の西南戦争の際に激戦地となり建物は消失したが、その後、町割りは復元され、多くの町家や寺院が残り、それらを活かした景観づくりの取り組みが地元の市民団体「新町・古町 町屋研究会」を中心に行われている。

しかし、都心部ということもあり、平成19年に430軒あった町家は、毎年約10軒ずつ減少し、平成28年には335軒となっていた。それに追い打ちをかけるように熊本地震で多くの町家が被害を受け、解体を余儀なくされている。平成30年には町家数は200軒近くまで減少すると考えられている。また、更地化も進み、マンションへの転用も進んでいくのではないかと危惧されている。こうした中で、城下町という地域性を活かしたまちづくりが模索されている。



熊本地震で傷ついた町屋 美術館へ

熊本地震で損壊した熊本市内の築130年になる町屋の一部が、美術館に移築される。修復への特別な公的補助がなく次々に姿を消しているが、地元有志が「伝統建築の姿を残したい」と計画。25日に移築部分の取り外しが始まった。

移築されるのは、中央区の新町地区にある森本襦袢材料店。1886(明治19)年の建築で店舗部分は約6畳四方だが、居間や中庭へと約50畳の奥行きがある「職住一体」だ。地震で傾き、応急危険度判定では「危険」と判定された。

解体は全額公費で賄えるが、伝統建築の修復には多額の費用

「被災記憶と伝統、伝える」



がかかるため、店主の森本多代さん(58)は解体を決めた。

地区住民らでつくる「新町・古町町屋研究会」の宮野桂輔さん(43)は「少しでも残せないか」と、知人を通じて私立島田美術館(熊本市西区)に相談。

緊急対応として、館内へ移築し公開をめざすことになった。美術館事務局長の清川真潮さん(44)は「展示できれば伝統文化と地震の記憶、両方を伝えられる」と話す。

移築するのは、店構え部分の

町屋の一部を移築するための作業。1階部分の店構えを美術館に移して展示する計画だ。25日、熊本市中央区

H29.5.26
朝日新聞

幅約6畳、奥行き約2畳。伝統的なくぐり戸や、商談や井戸端会議をする折りたたみ式の腰掛けなどを残す計画だ。森本さんは「少しでも、生まれ育った家の姿を残してもらえうれしい」と話す。

25日は研究会メンバーや大工らが移築部分の瓦や戸などを外した。作業に先立ち森本さんは四方に酒と塩を捧げ、家には「ありがとう。お疲れさま」と言葉をかけ、涙を流した。「あれだけの地震だったのに倒れず、一生懸命私を守ってくれた」

熊本城の城下町として形成された新町・古町地区では、地震前にあった町屋343棟のうち282棟が損壊。解体が進み、更地が目立つ。(立井良和)

デジタル版に動画

古町地区の町家に関する記事(平成29年5月26日)

左の4枚の写真はいずれも平成29年5月27日、筆者撮影

コラム6 南阿蘇村 免の石

免の石は、阿蘇南外輪山の岩山の空洞に挟まっていた巨大な石で、宙に浮いて何万年もここにどまってなかなか落ちない石であった。そのため、受験者や就職等の合格を祈願する人、また、岩と岩を繋いでいたため、縁結び等のご利益があるとされ、パワースポットとして多くの人を訪れていたが、平成28年4月の熊本地震で震度7の激震には耐えられず、落石した。

しかし、落ちた後の空洞は、まるで猫が遥か向こうに見える阿蘇五岳の根子岳を眺めている姿になり、落ちた石は砕けずに下方 50mの場所にどまっていた。地元の人々は、「受験生や就職祈願者の身代わりになって、石が落ちてくれた」と前向きに考え、石が落ちた後の空洞の姿を招き猫に例えてPRしていた。私は、逆転の発想に思わず猫のように「ニャッ（ニャー）」としてしまった。これこそ「ピンチをチャンスに」という前向き思考の考え方であろう。



落石前の免の石(yahoo画像より)



落石前の免の石
(現地の案内板の写真より)



落石後の免の石を招き猫に例えてPR
(南阿蘇村観光協会チラシより)

【参考】地域づくりや建築の原点に戻る旅&熊本の復興の過程を巡る旅

(平成28年3月～平成29年12月)

年 月	主な訪問先
平成28年3月	■南阿蘇村（思い出のペンション、阿蘇大橋） ■阿蘇（阿蘇神社、草千里）
4月	■南阿蘇村（一心行の桜、阿蘇大橋） ■熊本（熊本城） ※4/14、4/16 熊本地震（震度7）
5月	■東京（代官山、表参道、銀座） ※5/31 唐津街道姪浜まちづくり協議会を卒業
6月	■熊本（熊本城） ※6/18 熊本地震後の熊本城を訪問。これが「地域づくりや建築の原点に戻る旅&熊本の復興の過程を巡る旅」のきっかけとなる。
7月	■宇城（三角西港） ■長崎（外海集落と出津教会） ■天草（崎津集落と崎津教会）
8月	■波佐見（中尾山集落、モンネルギザムック） ■阿蘇（孤風院、阿蘇神社） ■益城町（地震被害） ■南阿蘇村（地震被害、思い出のペンション）
9月	■津屋崎（津屋崎千軒、新原・奴山古墳群）※まちなみフォーラム福岡
10月	■東京（浅草、上野）
12月	■熊本（熊本城、水前寺公園、夏目漱石内坪井旧居、新町・古町） ■唐津（旧高取邸、旧唐津銀行）
平成29年1月	■北九州（北九州市立中央図書館・文学館）
3月	■東京（神楽坂、六本木、銀座）
4月	■熊本（熊本城） ■益城町（地震被害） ■南阿蘇村（一心行の桜、思い出のペンション） ■阿蘇（阿蘇神社） ■有田（町並み）
5月	■国東（富貴寺、文殊仙寺、両子寺） ■熊本（熊本城、新町・古町）
6月	■人吉（肥薩線の旅）
8月	■東京（建築展……「日本の家 -1945年以降の建築と暮らし-」「国立西洋美術館の図面からたどる思考の軌跡」「アジール・フロタン再生展」）
9月	■八女（八女福島）※九州町並みゼミ&まちなみフォーラム福岡
11月	■熊本（熊本城、新町・古町、三角西港） ■東京（建築展……「安藤忠雄展 -挑戦-」） ■東京（谷中、すみだ北斎美術館、国立国会図書館 国際子ども図書館） ■朝倉（秋月、豪雨被害） ■広川（イチョウ並木）
12月	■熊本（熊本城、上乃裏通り）

※黒字：地域づくりや建築の原点に戻る旅 赤字：熊本の復興の過程を巡る旅

7 身近な地域資源を活かしたまちづくりの実践方策の提案

(1) 各地域のそれぞれの魅力資源を活かしたまちづくり

■地域の風土・歴史・文化の尊重

筆者の姪浜でのまちづくりの哲学は、「地域に埋もれている身近な魅力資源を掘り起こしていくことが、姪浜ならではの地域特性を活かしたまちづくり・景観づくりの土台となる」ということである。その背景には、全国どこに行っても同じような街並みの形成が進む中で、筆者には「姪浜を普通のまちにしたくない」という強い思いがある。これは、姪浜のまちづくりに関わってからのことではなく、大学時代の最初の住宅設計の時から「その場所の特性を最大限に活かし、そこでしかできない設計をする」という考え方を徹底的に身に付け始めたのである。

その後も現在まで、いろいろな地域や集落、建築物等の訪問を通じて、各地域固有の風土や歴史・文化から生まれた歴史的町並みや建造物への興味を持ち続けている。福岡市役所時代には、シーサイドももちの集合住宅「クリスタージュ」、御供所やシーサイドももちの「景観形成地区指定」、福岡都市科学研究所（現 福岡アジア都市研究所）での「広域連携」の研究等の業務の他、プライベートでも浮羽町の棚田オーナーになったり、地域に飛び出す公務員として姪浜のまちづくりに精力的に関わったりしてきた。その根底には、常に地域の風土・歴史・文化の尊重ということがある。筆者は建築やまちづくりに関わり続ける限り、この哲学を譲ることはできない。



地域性豊かな集落景観：エーゲ海に浮かぶイドラ島(左)とハイデルベルク(右)



歴史的な文脈を感じさせるパリのグラン・プロジェの例
(オルセー美術館)



浮羽町の棚田オーナーの体験
(美しい棚田の風景を守る活動にも一市民として参加)

■各地域の風土・歴史・文化を活かした町並みの維持継承

地域の風土や歴史、文化が息づく最たる例は、我が国固有の歴史的な町並みであろう。北海道から沖縄まで気候、風土、文化等が異なり、それに応じた個性豊かな町並みが形成されてきた。宿場町や門前町、武家屋敷や城下町、在郷町、社寺町等の多くの歴史的な町並みが、少子高齢化の進行、後継者不足等の様々な課題を乗り越えて、多くの人々の地域への誇りと努力、そして自治体や国の強い支援によって維持継承されている。そして、国内外から多くの来訪者が訪れ、地域の方々との交流を通じて、その魅力を体験体感している。

現在、全国には117(平成29年11月28日現在)の国の重要伝統的建造物群保存地区があるが、それ以外にも各地域に根づく町並みは多く存在する。町並みの維持継承には様々な課題があるが、今後も官民一体となって、各地域固有の風土や歴史を活かしたまちづくりを進めていってほしい。



重要伝統的建造物群保存地区：下郷町大内宿(左)と倉敷市倉敷川畔(右)



魅力的な集落景観：長崎市外海集落(左)と天草市崎津集落(右)

■身近な魅力資源を活かしたまちづくり

しかし、多くの地域で、地域の個性や特性が都市化に埋没して見えにくくなってきているのも事実であり、むしろそうした地域の方が圧倒的に多いのではないだろうか。そうした中、地域の人が見慣れて、当たり前だと見過ごしているものにスポットを当てていくことが、その地域ならではのまちづくりを進める上で重要になる。町並みとして連続していなくても、点在する身近な地域資源を発掘し、それを身近なまちづくりの中で活用していくことで、地域の方々にとっては地域への誇りや愛着につながっていくのである。

例えば、姪浜の場合を例にとると、伝統的な町家が連続しているわけではなく、ややもすると通

り過ぎてしまいそうな町並みであるが、じっくりと歩いてみると多彩な歴史、伝説・物語、数多くの寺社・町家、狭い路地、海、港、魚市場、美味しい魚等の多くの魅力資源が存在する。その中には、地域の方々によく聞いてみないとわからないような「身近なまちかど遺産」を発見することができる。そうした魅力資源を「かわら版」等で地域の方々にわかりやすく伝えていくことが重要である。それが地域への誇りや愛着につながっていくのである。筆者はこうした視点を大切にして姪浜での活動を展開してきたが、これは他の地域でも大いに応用できると考えている。



姪浜の多彩な魅力資源を紹介したまち歩きマップ(「唐津街道姪浜まちづくり協議会」発行)



姪浜の魅力資源集(唐津街道姪浜まちづくり協議会在籍中に筆者作成)



小戸公園の海岸に残るボタ。姪浜に炭鉱があったことを物語る数少ない証しである。



古くからの地場産業であった姪浜石を切り出すための採石場跡



漁や航海の安全を祈願して1年中かけられている注連縄(しめなわ)。漁業や廻船等を生業としていた姪浜浦の伝統が受け継がれている。



昭和 25 年に海豚(いるか)の群れが博多湾に迷い込んできたときに捕まえ、食料にしたことをわびて供養した碑

唐津街道姪浜まちづくり協議会のかかわりで紹介してきた「姪浜まちかど遺産」の例



姪浜の身近な魅力資源を伝える催しの例

※姪浜の魅力資源を活かしたまちづくりについては、第1章参照

(2) 地域に根ざしたまちづくり協議会

まちづくり協議会のあり方については様々な意見があると思うが、筆者の姪浜での経験や訪問してきた各地域の取り組み事例等を踏まえ、『地域に根ざしたまちづくり協議会のあり方』について、「組織の使命（ミッション）」「リーダー（役員）」「会員（ヒト）」「地域資源（モノ）」「ストーリー（コト、こだわり）」「ドーパミンの出るまちづくり」「巻き込み力」の7つの視点でまとめてみた。極めて基本的なことだと思うが、現実的には課題として浮き彫りになっている団体も多いのではないだろうか。各地域でまちづくりに取り組む団体の皆さま方に参考にしていただければ幸いである。

■組織の使命（ミッション）

地域の課題に真摯に取り組むこと＝まちづくり協議会の使命であり、楽しさ

- ・地域に根ざしたまちづくり協議会として、常に地域の課題を踏まえた活動を展開していく必要がある。
- ・まちづくりは決して楽しいものではない。いろいろな地域課題に取り組むことを楽しみながら、粘り強く活動を進めていく必要がある。達成感こそがまちづくりの楽しさである。そして、それが次第に地域に波及・浸透し、共感を得ていくのである。
- ・行政に頼らず、まずは地域で何ができるかを考え、実践することが大事である。地域がまず汗をかき、成果を示し、その上で行政との協働によるまちづくりを進めていく必要がある。

■リーダー（役員）

まちづくり協議会のリーダーに求められるのは、「地域課題の的確な把握」と「総合的な判断力」

- ・まちづくり協議会のリーダーは、地域の課題や協議会全体の動きを的確に把握し、いろいろな人々の意見を聴いて総合的に判断していく必要がある。
- ・リーダーは、地域の中ではいろいろな役職を兼ねることが多いが、協議会の独自色を出し、八方美人的な対応にならないようにするためには、専任または専任に近い形が望ましい。

■会員（ヒト）

まちづくり協議会の会員に求められるのは、「高い志」「前向き思考」「包容力」「相手への配慮」

- ・まちづくりは、志である。それぞれの会員が地域への強い思いを持ち、真摯な気持ちでまちづくり活動に関わることが重要である。
- ・「どうしたらできるのかを前向きに考えること」「他人の意見を傾聴すること」が、まちづくり協議会を運営する上でとても大事なことである。
- ・地域内部の人間だけで、地域に根ざしたまちづくりは到底できない。外部の人を含むいろいろな人（個性）や意見を受け入れる包容力と相手への配慮が必要である。

■地域資源（モノ）

今あるモノを活かすことが大事。新しいモノは要らない。

- ・「地域の魅力資源をどのように活用していくのか」をしっかりと考えていくことが、今もこれからも求められている。地域にある身近な宝（モノ、ヒト、コト）を探求し、しっかりと活用していくことにもっと目を向けるべきである。

- ・今あるモノを活かすことが大事で、新しいモノは要らない。地域にあるモノを見直して、何を加えたらいいのか考えることが重要である。



姪浜での地域資源活用ワークショップの様子

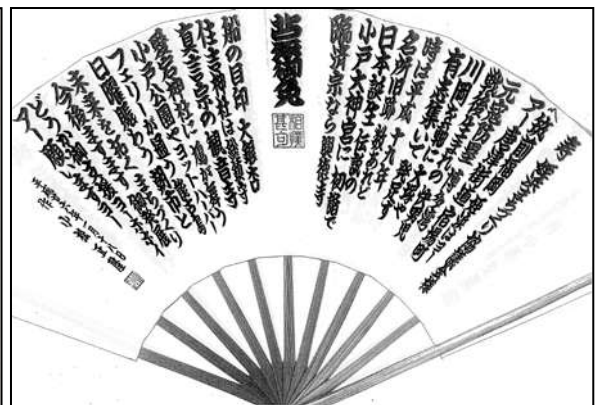
■ストーリー（コト、こだわり）

地域ブランドを構築するのは、「地域らしさ」「情報発信」「地道・粘り」「地域の共感」

- ・地域の個性を活かした地道な取り組みが、地域の魅力を地域内外に発信し、地域の共感を得て、地域ブランドの構築につながっていくのである。
- ・何を行うにしても「マスコミに記事にしてもらえる内容」を常に意識して活動を進めていく必要がある。マスコミを通じた地域への情報発信は、地域の方々の地域への誇りや愛着の醸成につながっていくのである。
- ・「一歩前進、一歩後退」「一歩後退、二歩前進」を繰り返しながら、長期的な目標を持って、ステップアップしながら、粘り強く活動を進めていく必要がある。



マスコミへの情報発信

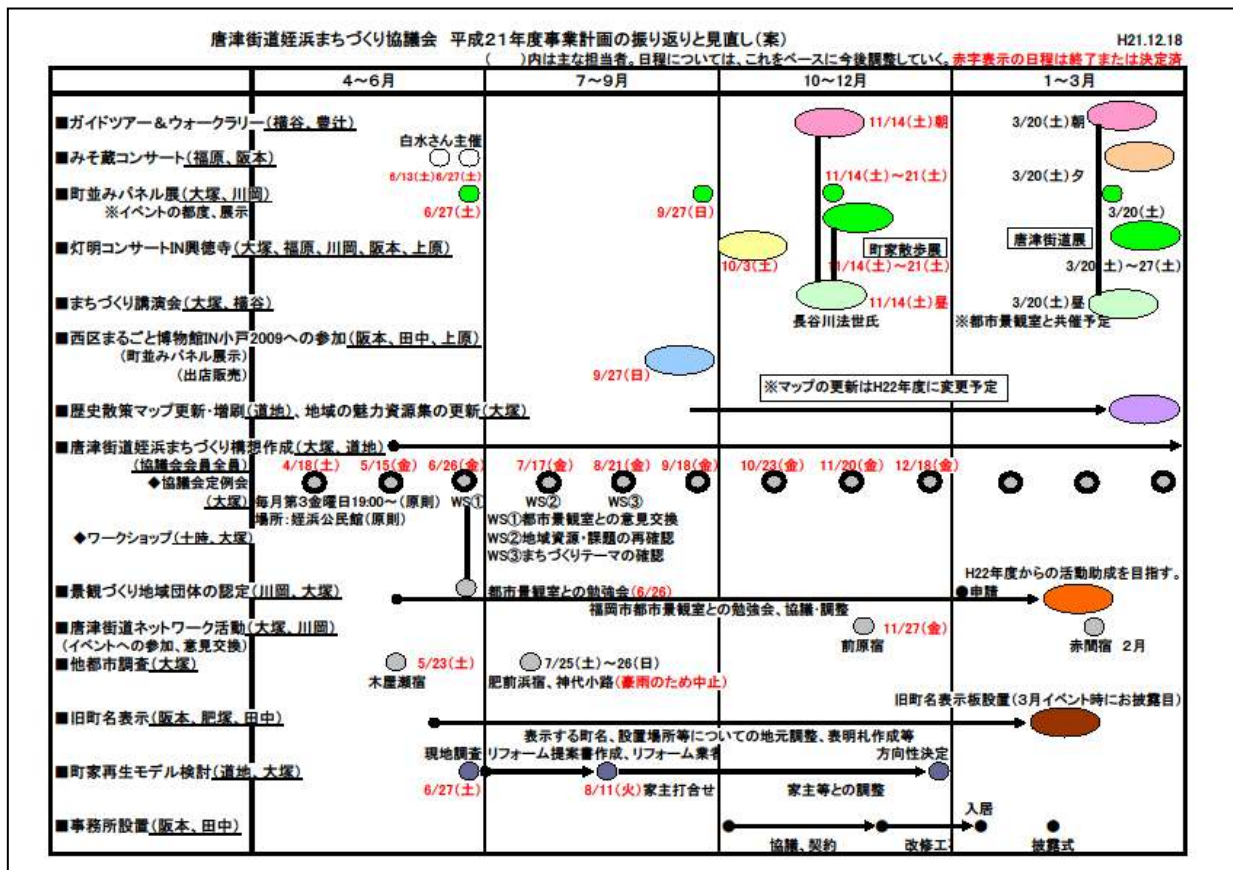


地域の共感例(地域からの相撲甚句の贈り物)

■ドーパミンの出るまちづくり

協議会活動を活性化するのは、「チャレンジ」と「自省」

- ・常に前向きにチャレンジしていくことで、協議会活動も活性化される。現状に満足しては、協議会活動は活性化しない。
- ・小さなチャレンジの連続が、楽しさを生み、協議会活動の活性化につながる。
- ・協議会活動を自省する（振り返る）時間を持つことが、活動が活性化するチャンスである。



唐津街道姪浜まちづくり協議会での小さなチャレンジの連続と活動の振り返り例

■巻き込み力

いろいろな地域課題に取り組みむことがまちづくりの楽しさ

⇒次第に地域に波及・浸透

⇒地域の共感

⇒いろいろな人や団体を巻き込んでいく力



地域の関係団体を巻き込んで進めてきた「唐津街道姪浜景観づくり委員会」

- ・地域の各団体は運命共同体である。自分の団体のことだけを考えていても、地域は活性化しない。相手のことをよく知り、自分の団体に置き換えて考え、相手の価値を認めて敬意を払

うこと（リスペクト）が大切である。地域愛を持って取り組むことが重要である。

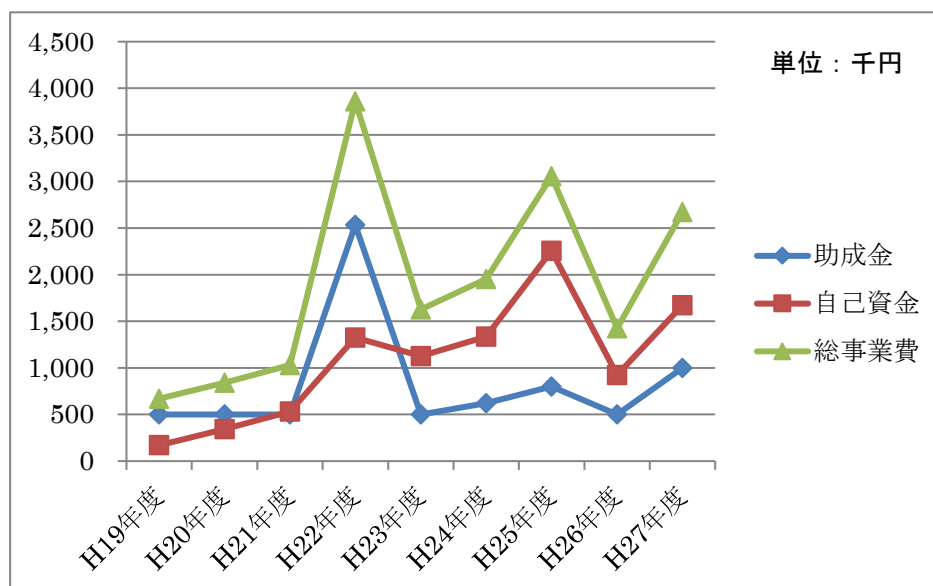
- ・内部の人間だけでは、地域や組織は活性化しない。多くの人を巻き込んでこそ成果が出てくるのである。

コラム7 事務局力

事務局力については、自分事になるのでこれまで敢えて触れてこなかったが、平成28年度作成の活動記録を読まれた方から「事務局力（事務局長力）」についていただいた言葉をいくつか紹介したい。

- 唐津街道姪浜まちづくり協議会のこれまでの活動を支えてきたのは、まさしく事務局力だと思います。
- 長年の姪浜での取り組み、ご苦勞様でした。資料もを見せていただき、改めて継続してこれだけの活動を行うことの意義と、だからこそ事務局長の負担の大きさを感じました。
- 活動されてきた事業のすべてに、想像を絶する事務局長の責任の重みが、ビシビシ伝わってきました。

筆者は他の会員には常々「まずは家庭、次が仕事、まちづくりのプライオリティは3番目で構いません」と伝えてきたが、筆者は事務局長という役柄、毎週末や帰宅後の多くの時間を協議会活動の企画立案やイベント等に費やしてきた。活動費も概ね右肩上がりであり、平均活動費は助成金を含め年間約190万円である。これだけの活動を地域の一団体が継続して行うには、事務局力が備わっていないと難しい。他の地域のまちづくり団体を見ても、しっかり機能し成果を上げている団体は、事務局力がしっかりしている。「組織力＝事務局力」と言っても過言ではない。

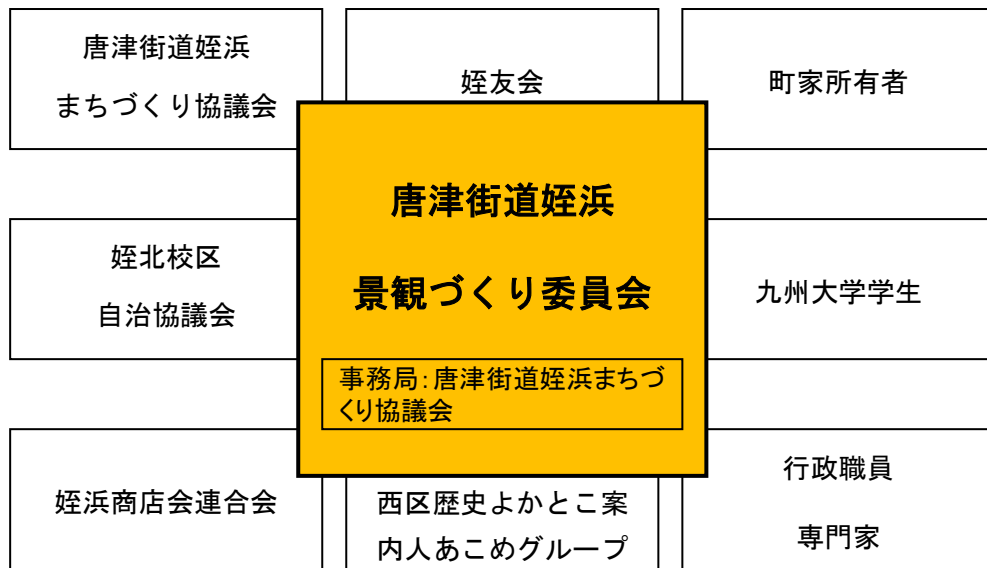


唐津街道姪浜まちづくり協議会における総事業費の変遷(平成19年度～27年度)

(3) 地域内の各団体の連携による活動の広がり

筆者が唐津街道姪浜まちづくり協議会在籍中から一番懸念していたのが、地域内の各団体の連携の希薄さである。自分の団体を運営していくのが精一杯であり、地域全体や他の団体のことを気にかける余裕もないのが実情であろう。

しかし、それでも筆者らは平成 23 年 10 月に「唐津街道姪浜景観づくり委員会」を立ち上げ、景観づくりの検討と合わせ、地域内の各団体との連携を模索してきた。メンバー構成としては、まちづくり協議会が主団体として事務局も担い、姪北校区自治協議会、姪浜商店会連合会、姪友会等の関係団体の他に、町家所有者、九州大学学生、行政職員等にも段階的に参加していただき、平成 26 年 3 月の「景観づくり計画 STEP 2」の策定までワークショップ形式を取り入れながら粘り強く検討を重ねてきた。また、まちづくり協議会の平成 25 年度～27 年度の事業も景観づくり委員会と共催で行うことが多く、地域内の各団体との連携強化に努めてきた。



筆者らが中心になって設置・運営してきた「唐津街道姪浜景観づくり委員会」の主な構成



まちづくり協議会と景観づくり委員会の共催事業の例

唐津街道姪浜景観づくり委員会の延長線上にあるのが「TEAM 姪浜ネクスト」であり、平成 27 年 3 月から準備を重ね、その 1 年後の 28 年 3 月に「姪浜ネクストまちづくり行動委員会」を立ち上げた。まちづくり協議会の設立（平成 19 年 3 月）からちょうど 10 年目である。この委員会では、『元気！姪浜計画』や『景観づくり計画』の実現に向け、地域内の各団体が緩やかに連携し、地域の方々と対話しながら、協働して姪浜地域固有の魅力資源を活かしたまちづくりを実践していくこととしていた。しかし、残念ながら、現在はその理念は大きく後退し、具体的な活動はほとんどできていないのが実情である。

筆者が目指していた姪浜ネクストまちづくり行動委員会の事業内容

- まちづくり実践計画書の策定及び実践
- 景観づくりの地域への普及及び実践
- 姪浜らしさを PR するまち旅プロジェクトの実践
- その他地域課題に対応した取り組み



地域の関係団体を巻き込んで進めてきた
「唐津街道姪浜景観づくり委員会」



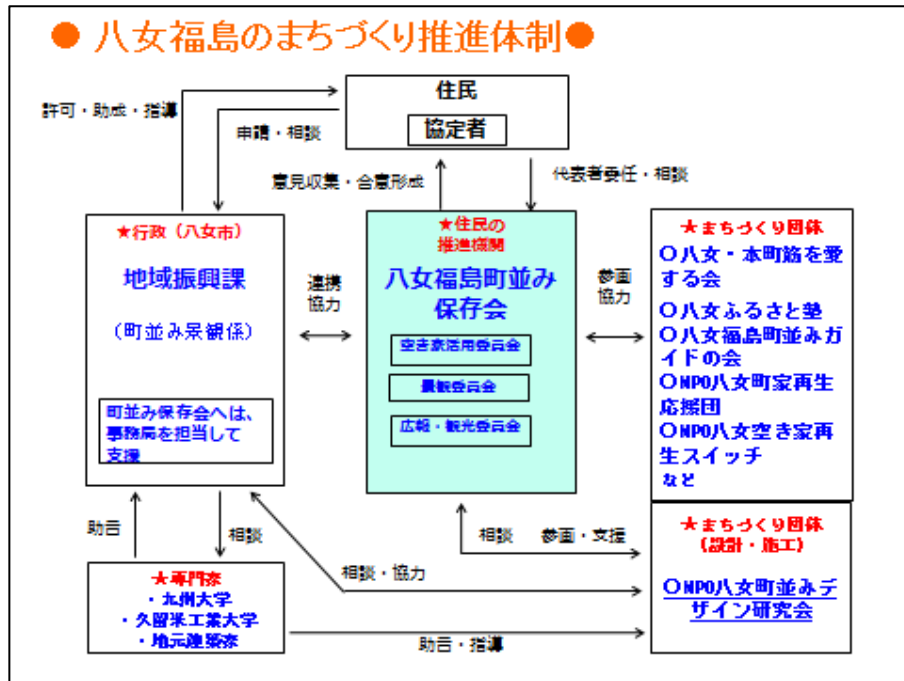
姪浜のまちづくりの次のステージに向けて立ち上げた
「姪浜ネクストまちづくり行動委員会」

先ほどの 7-（2）の「地域に根ざしたまちづくり協議会」で「地域の各団体は運命共同体である。相手のことをよく知り、自分の団体に置き換えて考え、相手の価値を認めて敬意を払うこと（リスペクト）が大切である。」「内部の人間だけでは、地域や組織は活性化しない。多くの人を巻き込んでこそ成果が出てくるのである。」と述べたが、現在の姪浜において地域に根ざしたまちづくりを進める上で『地域内の各団体の連携』が最大の課題であると思う。

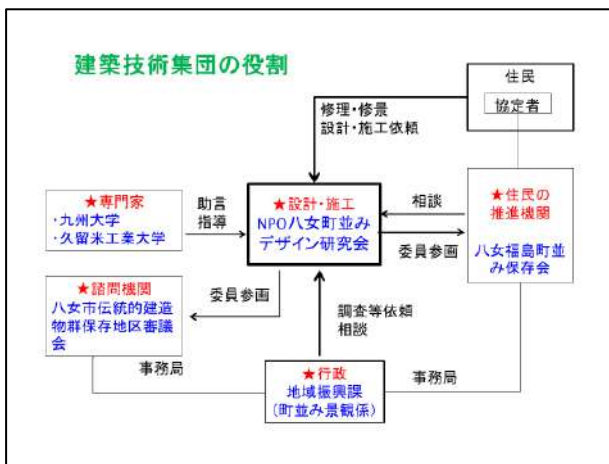
姪浜と対照的なのが八女福島である。第 2 章 6-（1）で述べたが、八女福島においては町並み保存会を中心に、住民、各まちづくり団体、専門家、行政が役割分担しながら連携を取り合っ
てまちづくりを進めている。特徴的なのは「町家の伝統様式や伝統構法を習得し継承していく活動を展開している団体」や「空き町家の保存活用を担う団体」が組織され、相互に連携して活動を展開していることである。様々な地域課題に対し、いろいろな団体を巻き込み、地域全体として取り組んでおり、それが地域全体に波及し、地域の共感を得、その好循環を繰り返しながら町並みの保全整備が進んでいる。八女福島と置かれている状況は異なるが、多くの地域でぜひ参考にしていきたいものである。



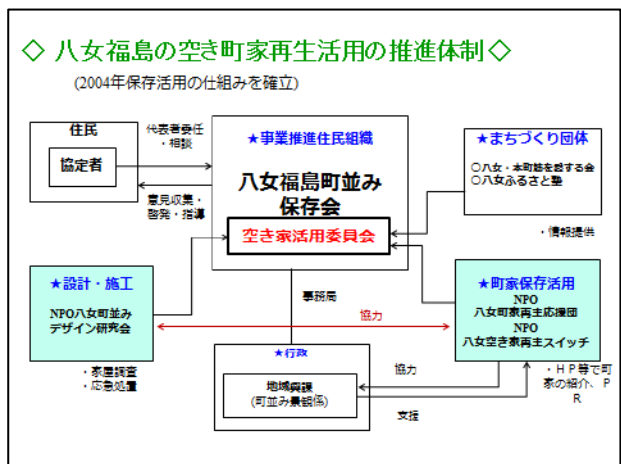
八女福島では多くの団体が協力連携してまちづくりに取り組んでいる。各地域で参考にさせていただきたい。



八女福島のまちづくり推進体制



NPO 法人八女町並みデザイン研究会の役割



八女福島の空き町家再生生活用の推進体制

(3つの表は「第5回九州・沖縄町並みゼミ八女福島大会&第5回まちなみフォーラム福岡 配布資料」より引用)

(4) まちづくりの課題や段階（ステージ）に対応した取り組み

第2章で紹介した地域では、各段階のまちづくりの課題に対応して段階的な取り組みを進めている。例えば、長野県小布施町では、「北斎」という小布施ゆかりの人物をきっかけに、「町並み修景」「花のまちづくり」を進めるなど、暮らしやすく面白いまちづくりを展開し、多くの人々が訪れる町になった。「面白い町をつくる」⇒「来訪者が多くなる」⇒「活気が生まれる」⇒「町はさらに面白くなる」、この好循環の繰り返しにより成功した事例である。これをまちづくりのステージに分けてみると、「北斎館会館」⇒「町並み修景事業と波及効果」⇒「新たな展開へ」と大別できる。

また、新潟県村上市では、道路拡幅を伴う大規模な近代化計画問題に端を発し「町屋を守れ」と始まった市民の取り組みは、地域活性化の起爆剤となり、村上市の進む方向を「歴史を活かしたまちづくり」へと大きく変えた。市民が我が町の文化に気づき、誇りを持ち始めたことが大きな収穫である。現在は、その誇りから、市民自らが町の景観づくりに取り組み始め、さらには空家問題にも取り組み、地域再生の大きな力になっている。

その他の地域でも、各段階の様々な課題に対し、地域内の各団体や行政と連携した粘り強い取り組みにより、多くの成果を上げている。

筆者が精力的に取り組んできた姪浜においても、それぞれの段階のまちづくりの課題や熟度に対応した目標を掲げ、「こだわり」「おもてなし」「多彩」「粘り強さ」「地道」をテーマにした10年間の精力的な活動により、姪浜の魅力及び協議会の活動を全国に発信してきた。現在も多くの課題を抱えており、それにどう対応していくかが問われているが、これについては第3章の8で示したい。

姪浜における各段階の地域課題と活動目標

段 階	地域課題	活動目標
1st ステージ (H19～21年度)	○地域住民自身の地域の魅力の認識不足	○地域の魅力の再認識と地域内外への発信
2nd ステージ (H22～25年度)	○地域のまちづくりの方向性が不明確 ○まちづくりの効果の具現化 (具体的に目に見える形で示す)	○地域協働のまちづくり計画の策定 ○景観まちづくりの実践
3rd ステージ (H26～27年度)	○景観づくりの実践に向けた意識高揚 ○地域の歴史的・景観的シンボルであるマイヅル味噌のみそ蔵の再生・活用 ○みそ蔵に代わる地域のシンボルとなる新たな魅力スポットや、姪浜らしさにこだわった多彩な事業の発掘・発信	○国の登録文化財のみそ蔵を中心とした姪浜のまちなみの個性の再構築 ○次のステージに向けた『姪浜ネクスト』の推進

P103～107は、「まちづくりの課題や段階（ステージ）に対応した姪浜での取り組み」の一覧と具体的な取り組み事例集（抜粋）である。

「参考資料3 まちづくりの課題や段階（ステージ）に対応した姪浜での取り組み事例集」

■まちづくりの課題や段階（ステージ）に対応した姪浜での取り組み一覧

まちづくりの課題 活動の目標		A 主に協議会会員を対象にした活動	B 主に地域内の方々を対象にした活動	C 主に地域外の方々を対象にした活動
まちづくりのステージ	1st ■課題 地域住民自身の地域の魅力の認識不足 ↓ ■活動目標 地域の魅力の再認識と地域内外への発信	協議会設立 1stステージの方針作成 ↓ 1. 定例会(A-1-1) 2. 地域の魅力資源調査(A-1-2) 3. 先進都市調査(A-1-3) 4. まちづくり活動拠点(まちなみの案内所)の開設・運営(A-1-4)	1. 地域の魅力資源集の作成(BC-1-1) 2. まち歩きマップの作成・発行(BC-1-2) 3. 景観歴史発掘ガイドツアー(BC-1-3) 4. 歴史的建造物での講演会・シンポジウム(BC-1-4) 5. 歴史的建造物でのコンサート(みそ蔵コンサート、灯明コンサート)(BC-1-5) 6. 各種展示会(まちなみパネル展、版画展、町家展)(BC-1-6) 7. マスコミへの情報発信(BC-1-7) 8. 地域の食材を使った料理でのおもてなし(BC-1-8)	
	2nd ■課題 ①地域のまちづくりの方向性が不明確 ②まちづくりの効果の具現化(具体的に目に見える形で示す) ↓ ■活動目標 ①地域協働のまちづくり計画の策定 ②景観まちづくりの実践	1stステージの振り返り 2ndステージの方針作成 ↓ 1. 景観づくり地域団体の認定(A-2-1) 2. 地域の状況を踏まえた効果的な助成金へのチャレンジ(A-2-2)	1. 地域との交流会・活動報告会(B-2-1) 2. かわら版の発行(B-2-2) 3. まちづくり計画の策定(ワークショップ形式)(B-2-3) 4. 景観づくり計画の策定(景観づくり委員会)(B-2-4) 5. 景観まちづくり宣言(B-2-5) 6. 「景観づくりの手引き」の作成(B-2-6) 7. 町家再生の実践(B-2-7) 8. 旧町名表示板の設置(B-2-8) 9. 「姪浜町家」の認定(B-2-9) 10. 地域のシンボル再生活動(B-2-10) 11. 子どもたちを対象にした景観づくり普及活動(B-2-11)	1. 地域づくりネットワーク活動(C-2-1) 2. 景観づくりネットワーク活動(C-2-2) 3. 大学との連携活動(C-2-3) 4. 展示会を主体としたウィークリー事業(C-2-4) 5. 町家活用イベント(C-2-5) 6. 着物でそぞろ歩キト(C-2-6) 7. 「姪浜ブランド」の認定&PR(C-2-7) 8. 全国区の賞へのチャレンジ(C-2-8) 9. 地域からの贈り物(C-2-9) 10. 様々な場面での姪浜のPR(C-2-10) 11. 視察受入&意見交換(C-2-11)
	3rd ■課題 ①景観づくりの実践に向けた意識高揚 ②新たな魅力スポットや、姪浜らしさにこだわった多彩な事業の発掘・発信 ↓ ■活動目標 ①姪浜のまちなみの個性の再構築 ②次のステージに向けた取り組みの推進	2ndステージの振り返り 3rdステージの方針作成 ↓ 地域を取り巻く新たな課題や動向 ①各種受賞を次のステージにつなげる。 ②姪浜の歴史的・景観的シンボルの消失 ③歴史的景観保護に向けた福岡市の取り組みとの連携 ④空き店舗の増加によるシャッター商店街化、空家、駐車場、ワンルームアパートの増加による町並みの個性の喪失 ⑤まちづくりの体制づくりと地域内の各団体の連携 ⑥「今あるモノを活かす」という視点での地域の魅力の再発掘	1. 地域内の各団体の連携によるまちづくりの推進(B-3-1) 2. 空き店舗活用のモデル的实践(B-3-2)	1. 新たなまち旅プロジェクトの開発(C-3-1) 2. win-win-win-win方式によるまち歩きマップの作成・発行(C-3-2) 3. 「まち旅プロジェクト計画」の策定(C-3-3)

■まちづくりの課題や段階（ステージ）に対応した姪浜での取り組み事例集（抜粋）

A-1-2 地域の魅力資源調査



最初の取り組みとして、地域にどのような魅力資源があるのか、地域の特徴である寺社、町家、路地、塀、お堂、地蔵、石碑、緑等を調査した。協議会で実施したものもあるが、筆者が個人的に調査したものが圧倒的に多い。地域内をくまなく、そして何回も歩いた。歩く度に新しい発見もあり、同じ場所でも季節によって違った表情を見せてくれた。通りかかった地域の方々も声をかけてくれた。こうした地域の方々との出会いも調査の楽しみであった。こうした調査をもとに、「まち歩きマップ」や「地域の魅力資源集」を作成したり、身近なまちかど遺産を「姪浜まちかど遺産」として評価・紹介してきた。

B C-1-5 歴史的建造物でのコンサート②（灯明コンサート）



多くの寺社があることも姪浜の大きな特徴であるが、地域の方々には意外とその歴史や魅力を知らない。灯明コンサートは、音楽だけでなく、普段味わうことのできない幻想的な雰囲気と魅力的な夜間景観を演出し、参加者に姪浜の魅力を伝えていくことを目的に行うものである。平成21年10月に第1回目を開催して以来、これまで5回実施してきた（興徳寺3回、姪浜住吉神社2回）。毎回180～250人が参加。姪浜ならではの空間と時間の中で、至福のひとつときを過ごしていただいている。

B-2-9 「姪浜町家」の認定



姪浜には、江戸から昭和初期にかけて建てられた約 100 軒の町家が残っているが、老朽化や後継者不足等の理由で取り壊される家が増えている中で、当協議会が独自に「姪浜町家」に認定することで、価値を再認識していただくきっかけになればと考え、こうした取り組みを始めた。選定に当たっては、当協議会のメンバーが平成 23 年秋から現地調査や所有者へのヒアリングを行い、保存状態や町並みへの貢献度等を総合的に判断し、姪浜町家として認定した。認定した町家の所有者には、当協議会から手作りの認定プレートを贈呈させていただいた。筆者が協議会に在籍中 26 軒の町家を認定した。

B-2-11 子どもたちを対象にした景観づくり普及活動①



次の世代を担う子どもたちにも姪浜の魅力を伝えていきたいと考え、子どもたちを対象にした事業にも取り組んできた。「子どもまちなみ探検隊」では、歴史ある寺社、昔ながらの町家、迷路のような路地、そして蒲鉾や削り節の試食といった姪浜ならではの内容に、参加した子どもたちは興味津々で大満足の様であった。まち歩き後に俳句を詠んでもらい、子どもたちの感性の高さに驚かされたこともある。また、景観回遊路に面した、落書きの酷かったお寺の塀を子どもたちに手伝ってもらい、きれいに修景(塗装)したこともある。

C-2-3 大学との連携活動



これは、九州大学の大学院生や建築学科3年生を対象にしたワークショップである。「今の学生は社会との接点が少なく、何でもできると思込んでいる」ということで、地域に出かけ、実際にまちづくり団体がどのような取り組みをしているのかを学ぶため、企画しているとのことである。一人でも多くの学生に、姪浜というまちに関心を持っていただけたらと思う。社会人になってからも、それぞれの地域のためにまちづくり活動に尽力している人々がいることを認識していただくとともに、こうしたフィールドワークの体験を今後の仕事に活かしてほしいと思う。

C-3-3 「まち旅プロジェクト計画」の策定

<p>姪浜まち旅プロジェクト計画</p> <p>【まち旅を盛りだくさん】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 姪浜まち旅プロジェクトの開催に向けた準備 2 姪浜まち旅プロジェクトの開催のための準備 3 まちの案内の整備 <p>【姪浜まち旅プロジェクト計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 多岐にわたる多岐の開催 2 多岐にわたる多岐の開催 3 多岐にわたる多岐の開催 4 多岐にわたる多岐の開催 <p>2016年5月 産学連携まちづくり協議会</p>	<p>【まち旅プロジェクトの開催に向けた準備】</p> <p>【姪浜まち旅プロジェクトの開催のための準備】</p>	<p>【まち旅プロジェクトの開催のための準備】</p> <p>【まち旅プロジェクトの開催のための準備】</p>	<p>【まち旅プロジェクトの開催のための準備】</p> <p>【まち旅プロジェクトの開催のための準備】</p>
--	---	---	---

『みそ蔵に代わる地域のシンボルとなる新たな魅力スポットや姪浜らしさにこだわった多彩な事業の発掘・発信』という課題を踏まえ、姪浜のまちづくりの次のステージ「姪浜ネクスト」の一環として、地域内の各団体と協働で、姪浜の多彩なよかとこを再発掘・活用する「姪浜まち旅プロジェクト計画」に取り組んできた。これは、姪浜の魅力を地域内外に発信し、身の丈にあった観光スタイル(着地型観光)の定着を目指していくとともに、コミュニティ交流や商店街活性化、地域に対する誇りや愛着の醸成につなげていくものである。

(5) 身近な地域資源を活かしたまちづくりの実践に向けて

これまで、身近な地域資源を活かしたまちづくりの実践に当たり、「各地域のそれぞれの魅力資源を活かしたまちづくり」「地域に根ざしたまちづくり協議会」「地域内の各団体の連携による活動の広がり」「まちづくりの課題や段階（ステージ）に対応した取り組み」の4つの視点で述べてきた。

要約すれば、「モノ（地域資源）」「ヒト（人、組織）」「ストーリー（コト、こだわり）」「継続（続ける）」「変化への対応（新たな課題や動向への対応）」であり、まちづくりで成功している地域では共通していることだと思う。

身近な地域資源を活かしたまちづくりの実践に向けて

◆各地域のそれぞれの魅力資源を活かしたまちづくり

- ・地域の風土・歴史・文化の尊重
- ・各地域の風土・歴史・文化を活かした町並みの維持継承
- ・身近な魅力資源を活かしたまちづくり

◆地域に根ざしたまちづくり協議会

- ・組織の使命（ミッション）
- ・リーダー（役員）
- ・会員（ヒト）
- ・地域資源（モノ）
- ・ストーリー（コト、こだわり）
- ・ドーパミンの出るまちづくり
- ・巻き込み力



◆地域内の各団体の連携による活動の広がり

- ・各団体の垣根を越えた地域全体としての取り組み

◆まちづくりの課題や段階（ステージ）に対応した取り組み

- ・各段階の地域課題⇒目標設定⇒活動の推進⇒振り返り
⇒新たな課題や動向への対応⇒新たな目標設定⇒活動の推進⇒振り返り

※この好循環の繰り返し



◆モノ（地域資源）

◆ヒト（人、組織）

◆ストーリー（コト、こだわり）

◆継続（続ける）

◆変化への対応（新たな課題や動向への対応）

また、筆者が唐津街道姪浜まちづくり協議会の事務局長を務めた期間（平成19年3月～28年5月）は、こうした視点を念頭に置いて活動を推進してきた。活動に当たり事務局長として工夫したことは次の点であり、一定の成果を上げてきた（詳細は第1章2-（1）、2-（2）参照）。

姪浜では町並み形成という点ではあまり成果を上げていないが、「身近な地域資源を活かした継続的で多彩な活動」という点では大きな成果を上げてきており、今後、いろいろな地域で参考にしていれば幸いである。

姪浜でのまちづくり活動のポイント（事務局長として工夫したこと）

- ①各段階の地域課題に対応した長期的展望に立った多彩なまちづくり活動の推進
- ②地域に埋もれている身近な魅力資源の掘り起こし
- ③ヨソモン（地域外の人間）、ワカモン（若者）の視点の活用
- ④計画策定における住民参加、地域との対話や双方向性の確保
- ⑤関係団体、住民、商店、寺社、大学、行政等との協働関係の構築
- ⑥姪浜らしさにこだわった多彩な事業の推進
- ⑦マスコミへの情報発信
- ⑧協議会に参加している地域内外の人々の多様なノウハウ・スキルの活用
- ⑨全国区の助成金へのチャレンジ
- ⑩各種賞の受賞による情報発信



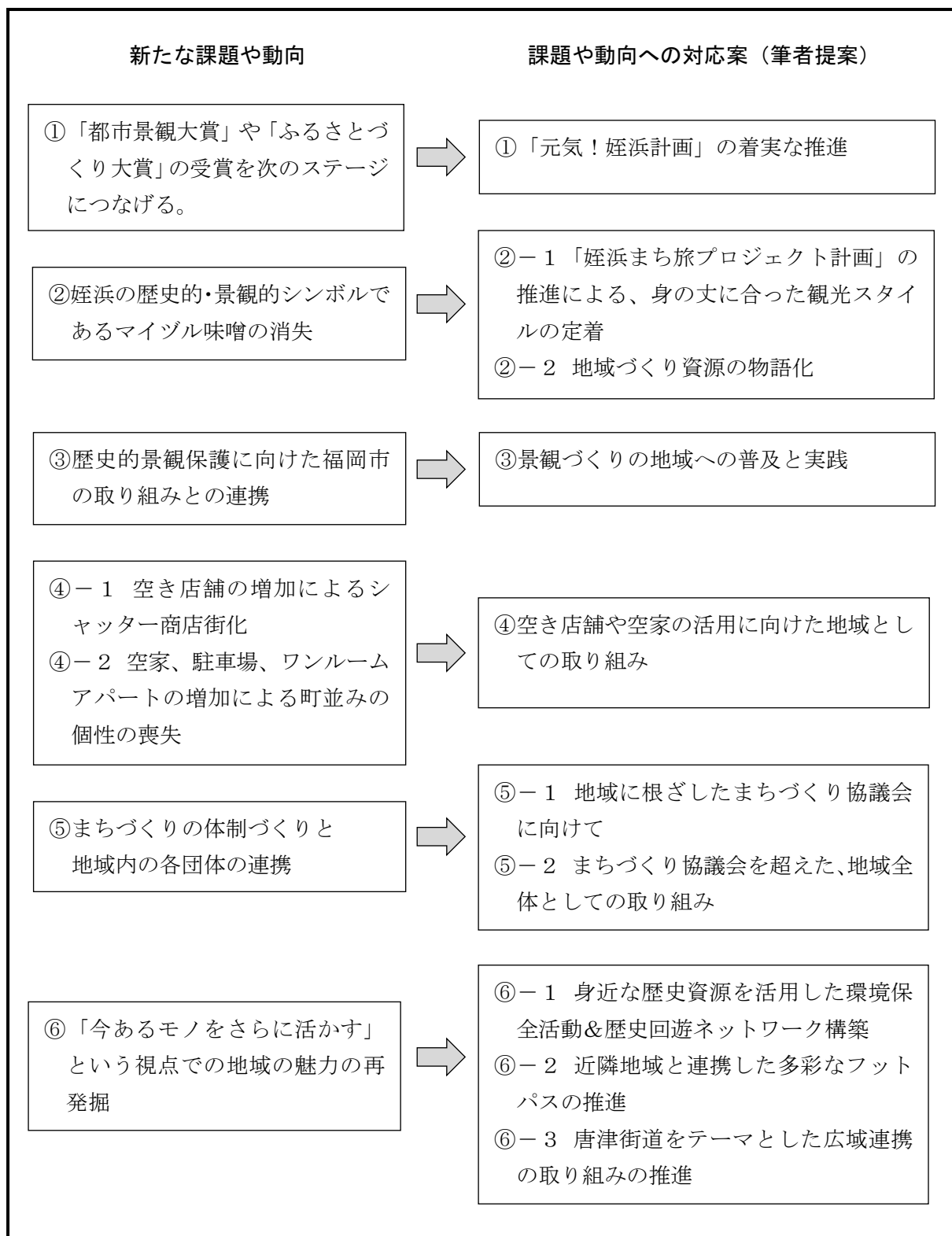
継続的で多彩なまちづくり活動の成果

- ①地域住民の地域への誇りや愛着の創出
- ②活動の広がり
- ③地域の歴史・文化・暮らしを踏まえたまちづくりや景観づくりの方向性の共有
- ④まちづくりの効果を具体的に目に見える形で地域に示す（まちづくりの効果の具現化）。
- ⑤地域資源の保全・活用に向けた意識醸成と双方向のまちづくりへの展開
- ⑥全国的な評価及び姪浜の魅力の全国へのPR、地域への情報発信
- ⑦身近な地域資源を活かしたまちづくりの他地域への波及効果（今後期待）

8 新たな課題や動向を踏まえた、今後の姪浜のまちづくりの展開方策の提案

(1) 姪浜を取り巻く新たな課題・動向と筆者の提案（一覧）

姪浜においては、この10年間の活動で多くの成果を上げたが、その一方で新たな課題や動向も出てきている。以下は、筆者が唐津街道姪浜まちづくり協議会に在籍中に示したものである。また、それに対する対応案も提案している（平成28年度作成の活動記録を一部修正・追加）。

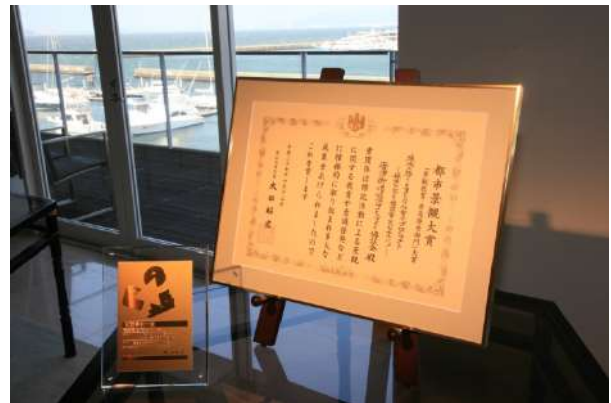


(2) 具体的な課題・動向と対応案

課題・動向①：「都市景観大賞」や「ふるさとづくり大賞」の受賞を次のステージにつなげる。

「都市景観大賞」や「ふるさとづくり大賞」等の全国的な賞の受賞は、次のステージのスタートである。これは、姪浜という素晴らしい地域があってこそその受賞であり、これを励みとして姪浜地域全体として、姪浜ならではのまちづくりに向けて、各団体の垣根を超えて取り組んでいく必要がある。

平成27年6月の都市景観大賞受賞祝賀会での「地域の総力を挙げて、姪浜ならではのまちづくりを推進していきましょう」という気持ちを忘れずに、地域全体として真摯に地域のまちづくり課題に取り組んでいく必要がある。



「都市景観大賞」受賞

対応案①「元気！姪浜計画」の着実な推進

筆者がまちづくり協議会在籍時に精力的に取り組んだ内容については、平成23年2月に作成した「元気！姪浜計画」に基づくものもあるし、既に先行していた事業をこの計画に取り込んだものもある。現在の地域の状況を踏まえ、「元気！姪浜計画」を見直す必要があるが、基本的にはこの計画に基づいて具体的な実践計画を立て、事業を進めていくことが望ましい。

元気！姪浜計画&地域魅力資源集
～「住んでよし、訪れてよし」のまちづくりを目指して～

平成23年2月
唐津街道経済まちづくり協議会

『元気！姪浜計画』（平成23年2月策定）における実践計画の実施状況

『元気！姪浜計画』の基本方針と実践計画	実践計画の実施状況
基本方針（1） 地域課題ネットワークづくり	
① 地域課題ネットワークの構築	・E23年度に協議会発足 ・E24年度に協議会発足 ・E25年度に協議会発足
② 「まち歩きマップ」の制作・配布	・E23年度に協議会発足 ・E24年度に協議会発足 ・E25年度に協議会発足
③ 協議会ネットワーク構築のための実践活動 ・協議会ネットワークを形成するためのまち歩き活動 ・経済の活性化で「地産地消」のつながり ・イベントでもまち歩きの実施	・E23年度から協議会発足 ・E24年度から協議会発足 ・E25年度から協議会発足
④ 経済活性化や観光とつながりの連携 ・観光や観光客の誘致などの連携計画の策定・推進	・E23年度から協議会発足 ・E24年度から協議会発足 ・E25年度から協議会発足
⑤ 名産品・名産品の振興	・E23年度から協議会発足 ・E24年度から協議会発足 ・E25年度から協議会発足
⑥ レンタルサイクルの導入の検討	・E23年度から協議会発足 ・E24年度から協議会発足 ・E25年度から協議会発足
基本方針（2） 観光のまちの個性の再発見（住まひびきり・町並み）	
① 町並み保存・再生の推進	・E23年度から協議会発足 ・E24年度から協議会発足 ・E25年度から協議会発足
② 自然の自まじりや自然の再生・再評価	・E23年度から協議会発足 ・E24年度から協議会発足 ・E25年度から協議会発足
③ 町並み再生計画の策定・推進	・E23年度から協議会発足 ・E24年度から協議会発足 ・E25年度から協議会発足
基本方針（3） 商店街の賑わいづくり	
① 商店街の賑わいづくり	・E23年度から協議会発足 ・E24年度から協議会発足 ・E25年度から協議会発足
② 古い時代と地域住民との交流の場づくり	・E23年度から協議会発足 ・E24年度から協議会発足 ・E25年度から協議会発足
③ 商店街での小さな体験コーナーづくり	・E23年度から協議会発足 ・E24年度から協議会発足 ・E25年度から協議会発足
④ 商店街での体験活動の推進	・E23年度から協議会発足 ・E24年度から協議会発足 ・E25年度から協議会発足
⑤ 商店街での体験活動の推進	・E23年度から協議会発足 ・E24年度から協議会発足 ・E25年度から協議会発足
基本方針（4） 観光プランづくり	
① 観光プランづくり	・E23年度から協議会発足 ・E24年度から協議会発足 ・E25年度から協議会発足
基本方針（5） 観光のまちの個性の再発見（住まひびきり・町並み）	
① 町並み保存・再生の推進	・E23年度から協議会発足 ・E24年度から協議会発足 ・E25年度から協議会発足
② 自然の自まじりや自然の再生・再評価	・E23年度から協議会発足 ・E24年度から協議会発足 ・E25年度から協議会発足
③ 町並み再生計画の策定・推進	・E23年度から協議会発足 ・E24年度から協議会発足 ・E25年度から協議会発足
基本方針（6） 商店街の賑わいづくり	
① 商店街の賑わいづくり	・E23年度から協議会発足 ・E24年度から協議会発足 ・E25年度から協議会発足
② 古い時代と地域住民との交流の場づくり	・E23年度から協議会発足 ・E24年度から協議会発足 ・E25年度から協議会発足
③ 商店街での小さな体験コーナーづくり	・E23年度から協議会発足 ・E24年度から協議会発足 ・E25年度から協議会発足
④ 商店街での体験活動の推進	・E23年度から協議会発足 ・E24年度から協議会発足 ・E25年度から協議会発足
⑤ 商店街での体験活動の推進	・E23年度から協議会発足 ・E24年度から協議会発足 ・E25年度から協議会発足

「元気！姪浜計画」の着実な推進

『元気!姪浜計画』（平成 23 年 2 月策定）における実現化方策の実施状況

『元気!姪浜計画』の基本方針と実現化方策		実現化方策の実施状況
基本方針（1）広域回遊ネットワークづくり		
実現化方策①	広域回遊ネットワークの設定	・ H22 年度に設定完了
②	「まち歩きマップ」の制作・配布	・ H22 年度に改訂版制作 ・ H25 年度に現在のまちマップ制作
③	広域回遊ネットワーク普及のための実践活動 ・ 回遊ネットワークを取り入れたまち歩きの実施 ・ 姪浜の個性である「海や港とまちのつながり」をアピールするまち歩きの実施	・ H23 年度から広域コースでのまち歩きも実施（小戸公園までを含むエリア） ・ H26 年度に「遊覧船で巡る福岡の歴史とまちなみ」を実施
④	姪浜と能古島や小呂島とのつながりの活用	・ 未実施
⑤	案内板や標識などの改善計画の提案・推進	・ H23 年度から現況調査 ⇒ 景観づくり計画に反映
⑥	名柄川人道橋整備計画の推進	・ H22 年度に計画作成、行政に働きかけ
⑦	レンタサイクルの導入の検討	・ 未実施
基本方針（2）姪浜のまちの個性の再構築（住まいづくり・町並み景観づくり）		
実現化方策①	町家保存・再生の推進	・ H21 年度からアドバイス開始 ・ H24 年度から「姪浜町家」認定事業開始
②	良好な住まいや町並みの再発見・再評価	・ H22 年度から実施
③	町並み景観計画の提案・推進	・ H23 年度に景観づくり委員会を組織し、段階的に「景観づくり計画」策定 ・ H26 年度に「景観づくりの手引き」作成
基本方針（3）商店街の賑わいづくり		
実現化方策①	若年層やファミリー層などへの「まち歩きマップ」の配布	・ H23 年度から実施
②	若い世代と地域住民との交流の場づくり	・ H22 年度から九大生を対象に実施
③	商店街での小さな休憩コーナーづくり	・ H23 年度から実施
④	近隣農家や漁協などと連携した「市」の開催	・ 未実施
⑤	空き店舗を活用したチャレンジショップの導入	・ 未実施
基本方針（4）姪浜ブランドづくり		
実現化方策①	今ある名産品や優良な店舗の「姪浜ブランド」認定	・ H23 年度から実施
②	新たな「姪浜ブランド」づくり	・ 未実施
基本方針（5）地域を知る場・機会づくり		
実現化方策①	「姪浜学」講座の開催や「姪浜ものがたり」の発掘・継承	・ H24 年度から実施
基本方針（6）環境にやさしいまちづくり		
実現化方策①	地産地消の推進	・ 未実施
②	身近な水辺環境の再認識と保全・改善 ・ 広域回遊ネットワークの普及による水辺への関心や保全・改善意識の醸成 ・ 「港の歴史」や「博多湾の自然環境」を学ぶ「姪浜学」講座の実施	・ H23 年度から関係機関に協力する形で実施（松の植栽、博多湾調査） ・ H26 年度に「遊覧船で巡る福岡の歴史とまちなみ」を開催
③	車に頼らないで暮らせるまちづくりの推進 ・ 広域回遊ネットワークを活用した「環境にやさしいまちづくり」	・ 未実施

※実現化方策の実施状況は平成 27 年9月現在

姪浜ブランドを活用した町並みとコミュニティの再生

～震災を経験した地域の「町並み・コミュニティ再生物語」～

できることから始める地域主体の「景観まちづくり」の実践活動

地域の再生プロジェクト

- 町家の姪浜ブランド認定
- 「姪浜風」の開催
- 姪浜学講座の開催
- 町家コンサートの開催



町並みをつなぐデザインプロジェクト

- 暖簾による景観
- ブロック塀の板張り化



地域コミュニティ再生プロジェクト

- 「みそ蔵」や商店街での交流の場づくり
- 「みそ蔵カフェ」の開催、青空市実施
- ベンチの設置



まちづくり互換による広報

地域の再生プロジェクト



姪浜の町家



姪浜ブランド認定プレート



「姪浜風」

町並みをつなぐデザインプロジェクト



暖簾による景観



ブロック塀の板張り化 (対象地)



ブロック塀の板張り化 (新潟県村上市の事例)

地域コミュニティ再生プロジェクト



みそ蔵カフェ



青空市実施



ベンチの設置

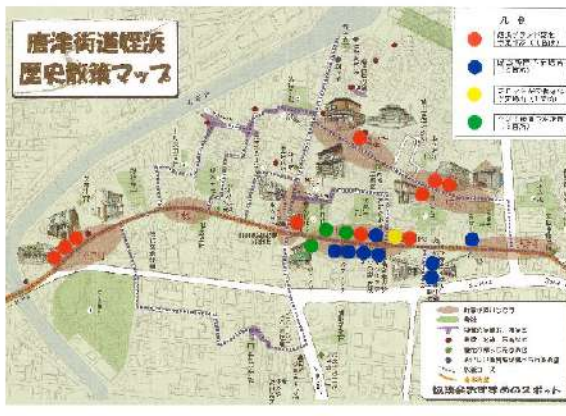
まちづくり互換による広報



※各写真はイメージです。







人のつながりとまちの元気を育む「日だまり」づくり 福岡市西区・唐津街道姪浜地区／唐津街道姪浜まちづくり協議会

協議会の活動地域(旧姪浜地区)の概要

◆**姪浜地区と旧姪浜地区**

- ・姪浜地区(福岡市西区)は福岡市の都心天神の西約6~8kmにあり、臨海部の埋め立て地は住宅地や商業ゾーンとして発展している。
- ・旧姪浜地区は姪浜地区の中心部(住吉神社から半径約500mの範囲)にあり、江戸時代には「姪浜千軒」と呼ばれ、現在も倉庫街、寺町、浜町、廻船町の面影を留めている。

◆**旧姪浜地区の現状**

- ・高岸部の地立で、開発と観光の発展の影響による唐津街道周辺の商店街の活性化
- ・都市化と福岡県西方沖地震による町家の減少、マンションの増加などの町並みの変化

◆**協議会の活動**

- ・旧姪浜地区を中心に、町家、寺社、港、食などを活かした景観づくり、賑わいづくり、地域交流などの活動を推進中である。

姪浜地区全体図

◆協議会の主な活動地域(住吉神社から約半径500m内の旧姪浜地区)



「日だまり」づくりの前提となる計画

◆**「元気！姪浜計画」**

- ・旧姪浜地区や唐津街道を中心とした「住んでよし、訪れて楽し」のまちづくりの実現
- ・平成22年度「住まい・まちづくり担い手事業」により協議会が設立

◆**「景観景観づくり計画(ステップ1)」**

- ・姪浜景観づくり委員会による景観づくりの提案
- ・ステップ1委員会(協議会委員+地域住民十九人)大学卒業生(2011年10月~2012年3月)
- ・ステップ2委員会(2013年2月~(予定))

◆**計画の基本的な考え方(抜粋)**

- ・地域の宝(町家、町並み、寺社、樹木など)を落とす、活かす、町の魅力アップにつなげる
- ・商店街や神社をコミュニティの核(コミュニティの「日だまり」)にする
- ・計画を先導する区域の設定
- ・モデル区域の中心部で集中的に先行事例をつくる「景観づくり重点区域」

「日だまり」づくり

◆**基本的な考え方**

「日だまり」づくりの目的
町並み景観のポイントであり地域交流の核となる空間を美化・継承・活用すること...

- 「人と人のつながり」を生み出す思いの場をつくる。
- 「町並み景観の向上」に対する住民の気づきや実践を促す。
- 「商店街活性化」を目指す。

◆**活動のメンバー**

活動主体→まちづくり協議会会員
協力者→商店会、商協、自治会、「日だまり」所有者など

◆**「日だまり」の位置と現状**



◆**「日だまり」づくりの期待活動内容**

- ～まちなかの3つの「日だまり」～
- ①**買物広場(福岡市所有)**
・北と南による美化、フェンスの修繕、清掃
・地域交流・商店街活性化を支援するイベントの開催(姪浜ブランド市・町並みフェスティバル)
- ②**「みそ蔵」・「みそ蔵」(一部:協議会所有管理)**
・地域を学ぶ・伝えるイベントの開催(姪浜学講座など)
- ③**住吉神社**
・地域を学ぶ・伝える歴史シンポジウムの開催
～水辺の「日だまり」～
- ④**日だまり(魚市場跡)**
・土地を一段の整備
・海・港・食の拠点づくりの実験(仮設の休憩コーナーの設置)

～「日だまり」を補完し合い～

- ・沿道の美化・モデル修葺(ブロック塀の板張りや緑化など)
- ・「日だまり」を結ぶイベントの開催(ベジ・ドライブスなど)

◆**協議会の主な活動実績**



「元気！姪浜計画」に基づく活動計画の例(上:平成24年1月作成、下:平成25年1月作成)。当時の太田景観づくり委員会委員長と筆者が作成。今後も地域課題に対応した具体的な取り組みを進めていく必要がある。

課題・動向②：姪浜の歴史的・景観的シンボルであるマイヅル味噌の消失

姪浜の歴史的・景観的シンボルであるマイヅル味噌の消失を現実と受け止め、次のステージに向けて、地域内の各団体と協働で姪浜の多彩なよかところを再発掘・活用する「姪浜まち旅プロジェクト計画」に取り組み、姪浜の魅力を地域内外に発信し、身の丈にあった観光スタイル（着地型観光）の定着を目指していく必要がある。また、この計画に取り組みることにより、コミュニティ交流や商店街活性化、地域に対する誇りや愛着の醸成につなげていく必要がある。



地域の歴史的・景観的シンボルであるマイヅル味噌の消失

対応案②ー1：「姪浜まち旅プロジェクト計画」の推進による、身の丈に合った観光スタイルの定着

筆者が、まちづくり協議会在籍中に精力的に取り組んできた「姪浜まち旅プロジェクト計画」には、多くの楽しいアイデアやヒントを盛り込んでいる。久留米市や柳川市では市単位で実施しているが、姪浜だけでも多くのプロジェクトが可能である。この計画をブラッシュアップするとともに、地域全体で取り組んでいただきたい。それが身の丈に合った観光スタイルの定着につながるし、地域の暮らしや人との出会いにもつながっていくものと確信している。

<p>姪浜まち旅プロジェクト計画</p> <p>【まち旅を進めていく背景】……………1</p> <p>【まち旅プロジェクトの実施に向けたモデル的試行】……………3</p> <p>【まち旅プロジェクト推進のための情報発信ツールの整備】……………6</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域住民による多層マップの作成・印刷 2. まちの案内所の整備 <p>【姪浜まち旅プロジェクト計画】……………7</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 誰もが歩きやすい多層マップ 2. 今後考えられるプログラム 3. 今後の課題 4. 実施に向けて <p>2016年3月 唐津街道姪浜まちづくり協議会</p>	<p>【まち旅プロジェクト推進のための情報発信ツールの整備】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域住民による多層マップの作成・印刷 ○参加者の反応やワークショップ、関係団体のヒアリング等を踏まえ、地域発掘まち歩きマップを作成・印刷した。 ・経路の長さ・コース設定（歴史、まちのみち、食、祭り、お薦めのお店等） ・モデル的なまち歩きコース 等 <ol style="list-style-type: none"> 2. まちの案内所の整備 ○平成25年12月に空き店舗を借りて開設した案内所を、地域の情報発信、コミュニティの場となるよう運営するとともに、ここを拠点として様々な多層な観光活動を展開したまちづくり活動を実施している。 	<p>(3) 季節イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歴史散歩と桜の商店街ツアー（春） ○歴史散歩とお祭りツアー（秋） ○散歩でまち歩き（夏、秋） ○遊覧船から見る至大大会（夏） <p>(4) 講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ○寺社講座（唐津や宮町の歴史と観光地） <p>(6) コンサート</p> <ul style="list-style-type: none"> ○唐津コンサート（唐津港、佐世神社） ○町家コンサート（唐津港、石蔵跡） ○町家コンサートと唐津高アクリル料理（唐津）
---	---	---

姪浜まち旅プロジェクト計画（唐津街道姪浜まちづくり協議会在籍中に筆者作成）

「参考資料4 姪浜まち旅プロジェクト計画（概要版）」

対応案②-2：地域づくり資源の物語化

姪浜には多くの歴史や魅力資源がある。こうしたことを「姪浜読本」として作成・発行して、地域の方々や子どもたちにわかりやすく伝えていくことを提案する。目に見える特徴が失われつつある姪浜において、読み物としてわかりやすく伝えていくことは、大変意義のあることだと思う。その参考になるのが小布施や耳納地域の地域読本である。



小布施の魅力やまちづくりを紹介した「遊学する小布施」(ア・ラ・小布施発行)



浮羽、吉井、田主丸、久留米耳納の伝承や昔話を集めた「みのうの豆本」(みのう悠々交流連絡協議会発行)



その河童族を引き継ぐのが、子河童族(第二世代河童族)です。河童を語りながら田主丸町を活性化させるこの会は、「なんでんかんでん尻のかっぱ」がモットーで義務や強制はいっさいなし。「五分も采てくれた」「こうもしてくれた」の「も」の精神で、なにより自分たちが楽しむことが原点というのは若竹屋十三代目の林田伝兵衛さん。毎年8月8日には「河童大明神」大祭として河童族による「かっぱ祭り」が行われます。子どもたちが河童みこしをかついで町中を練り歩き、鯉の放流、川の中でのバーベキューや花火など、河童になったつもりで楽しむ祭りです。田主丸小学校に子河童クラブができてからは、親河童族、河童族、子河童族の三代そろいぶみ。河童族の遊びの精神と飄々たる夢は、50年たった今も町の中に生きています。



葡萄畑に立つ越智通重。大井上博士の栄養周期説は、あらゆる植物は発芽から枯れるまで同じ育ち方をするのではない、つまり枝が伸び葉が増える春から夏、枝が硬くなり果実が熟する夏から秋と、その段階に応じた手入れや施肥をするという今となっては当たり前のものだった。しかし、在野の学者であったがゆえにその説は日の目を見ず、誕生した巨峰も博士と愛弟子の越智が細々と育てているにすぎなかった。

「みのうの豆本」の抜粋(NPO 法人シニアネット久留米「デジタル・アーカイブ」より引用)

【参考】筆者の提案する姪浜読本のイメージ

※各項目について写真や図表を用いて、わかりやすく解説

◆姪浜の歴史

- ・ 古 代：神功皇后伝説、大陸や南海諸島との交流（中国製、半島製、南海産の出土品）
- ・ 平安時代：唐房（南宋からの渡来人の居住地……旧町名に「当方」）
- ・ 鎌倉時代：元寇、元寇防塁、九州探題（現在の愛宕山あたり）
- ・ 江戸時代：唐津街道宿場町、廻船業、漁業、製塩業等
- ・ 大正時代～昭和 30 年代：早良炭鉱設立～閉山
- ・ 現 在：ベッドタウン、臨海部の大型商業施設（埋立地等）

【補足】姪浜年表

◆姪浜に古くから伝わる物語・伝承

- ・ 白うさぎ伝説（興徳寺関係）
- ・ 武内宿禰伝説（真根子神社関係）
- ・ 探題塚伝説
（鎌倉幕府が元軍の来襲に備えて探題を置いた場所）



◆姪浜のお宝（魅力資源）

- ・ 寺社
- ・ 町家町並み
- ・ 路地、道の形、お堂、祠（ほこら）、塀、姪浜石
- ・ 四季の変化（緑、花）
- ・ まちかど遺産
- ・ 地元で獲れる新鮮な魚
- ・ 地元で作って売るお店
- ・ 美味しい魚料理を提供してくれるお店
- ・ 町家を活用して若い人が始めるお店
- ・ 周辺の魅力スポット

【補足】姪浜が舞台となった映画、小説等



◆これまでのまちづくり活動の振り返り

- ・ 活動のきっかけ
- ・ まちづくりの課題や熟度に対応した多彩な活動
- ・ 活動のポイント
- ・ 活動の成果

【補足】まちづくり年表



◆多彩な魅力資源を活かしたまちづくりに向けて

- ・ 新たな課題と動向
- ・ 課題への対応策
- ・ 地域内の各団体の連携によるまちづくり

【補足】姪浜まち旅プロジェクト計画



課題・動向③：歴史的景観保護に向けた福岡市の取り組みとの連携

福岡市では歴史的景観を保護していくため、「御供所・冷泉地区」「舞鶴・大濠公園地区」など市内の5つの区域を歴史的資源周辺区域として指定し、平成28年10月からこれらの区域で景観づくりの取り組みを強化（届出対象建築物の拡大）している。そのうちの1つが唐津街道姪浜地区であり、筆者らのこれまでの取り組みの大きな成果である。

行政側の届出対象建築物の拡大だけでなく、これを機会に地域としても景観づくりの取り組みを進めていく必要がある。筆者がまちづくり協議会在籍時に積極的に取り組んできた「姪浜景観づくり計画（景観づくりの手引き）」「姪浜景観まちづくり宣言」を地域にいかにか普及・浸透させていくのか、また行政と協働して具体的な景観づくりのルールをどのように策定していくのか、地域としてしっかり取り組んでいかないと、本当に個性のない普通のまちになってしまうであろう。姪浜の地域力が今こそ試されているのである。



福岡市内の5つの歴史的資源周辺区域
(H27.9.1西日本新聞)



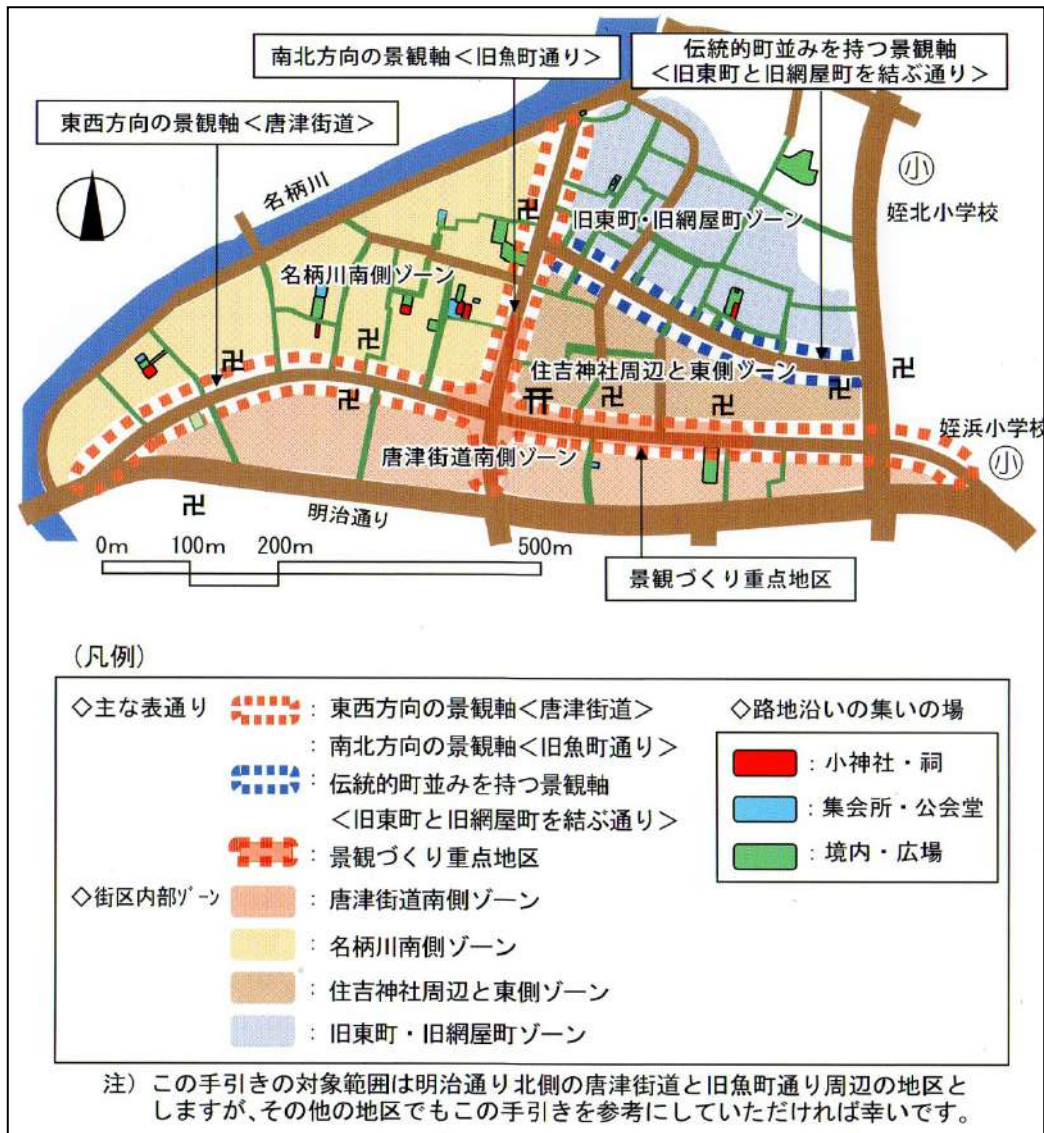
景観形成への配慮が求められる高層マンション群

対応案③：景観づくりの地域への普及と実践

「元気！姪浜計画」の中で重点事業と位置付けている景観づくりの取り組みについては、「姪浜景観づくり計画STEP1、2」及びそれを踏まえた「姪浜景観づくりの手引き」を作成したが、地域への普及活動はほとんど進んでいないのが現状である。この手引きをしっかりと活用して、地域を巻き込んだ取り組みを進めていく必要がある。



姪浜景観づくりの手引き(「唐津街道姪浜まちづくり協議会・唐津街道姪浜景観づくり委員会」発行)



景観づくりの区域の考え方(「姪浜景観づくりの手引き」より引用)

そのためには、まずは唐津街道姪浜まちづくり協議会の会員にもっと景観づくりに関心を持っていただきたい。例えば、いろいろな地域に出かけ、それぞれの地域の魅力を感じ、その地域の方々と交流・対話することも必要だと思う。姪浜とは置かれている状況は異なるが、それぞれの地域の取り組みを参考にしながら「姪浜の魅力資源をどのように活用していくのか」についてしっかり考えていくことが必要である。その地域や場所でしか体験できないことを体感し、考えることが、次の地域づくり・景観づくりにつながるのである。

身近な例としては、福岡県内の歴史的町並みなど地域遺産の保存継承や活用を目的としてまちづくりを進めている「まちなみネットワーク福岡」に所属する団体の取り組みが、景観形成だけでなく、関係団体との連携等の面で大いに参考になると思う。

そして、忘れてはいけないことは、唐津街道姪浜まちづくり協議会は、博多部の御供所まちづくり協議会に続き、福岡市内で2番目に福岡市都市景観条例に基づく「景観づくり地域団体」に認定されていることである。福岡市では歴史的景観を保護していくため、唐津街道姪浜地区を歴

史的資源周辺区域として指定し、平成28年10月から景観づくりの取り組みを強化（届出対象建築物の拡大）している。これと連携した取り組みをまちづくり協議会が主体となり、地域を巻き込んで進めていく必要がある。その際、景観づくり地域団体として先輩にあたる御供所まちづくり協議会との意見交換会や交流活動も有効だと思う。

また、筆者が平成23年度に提案し、27年度の街なか再生助成金（区画整理促進機構）の採択により、ようやく実現した暖簾設置事業についても、一時的な取り組みではなく、景観形成の取り組みが求められる重点地区（唐津街道、旧魚町通り）から継続的に進めていく仕組みを作り、地域に波及させていく必要がある。



景観に関する勉強会



先進都市視察



まちなみネットワーク福岡が毎年開催している「まちなみフォーラム福岡」



景観づくり地域団体の認定(平成22年3月)
 (「福岡市都市景観室」提供)



暖簾設置事業(京都市西陣大黒町の事例)

課題・動向④：空き店舗の増加によるシャッター商店街化

空家、駐車場、ワンルームアパートの増加による町並みの個性の喪失

空き店舗の増加によるシャッター商店街化は、姪浜に限らず全国的な課題である。空家も少しずつ増えてきており、管理不全空家等になる前に活用するなどの検討が望まれる。また、最近では駐車場やワンルームアパートの進出も著しく、町並みの連続性が損なわれ、個性のない町並みになりつつある。こうした課題に対して、まちづくり協議会が中心となり自治協議会、商店会等と連携して、地域として危機感を持って取り組んでいく必要がある。



空き店舗の増加



空家の増加



駐車場の増加



狭い路地沿いにもワンルームアパートの進出

対応案④：空き店舗や空家の活用に向けた地域としての取り組み

空き店舗や空家の活用について、まず、まちづくり協議会や地域で取り組むことは、空き店舗や空家の存在が、姪浜のまちづくりにとって何が問題なのかを認識する必要がある。問題点や課題を把握した後は、空き店舗や空家の実態調査を行うことが望ましい。最初は詳細な調査ではなく、まち歩きをして、それを地図に落とし込むぐらいの全体把握程度の調査で構わない。

筆者は市役所の業務（空家対策）の一環で、平成28～29年度に福岡県や(公社)福岡県建築士会の協力を得て、姪浜に建築士を派遣しワークショップをしてもらったが、こういう機会をきっかけに空家への関心を高めていただきたい。



空家の実態調査(イメージ)

また、まちづくり協議会が空家活用のコーディネーター的役割を担い、空家所有者や空家活用希望者から相談があった場合に、貸したい人と借りたい人の中に入り、活用方法等について具体的に提案していくことや、そうした人材を育てることも今後のまちづくり協議会の役割であると思う。空家活用プロジェクトもその一例である。



①リフォーム前



②リフォーム中



③リフォーム後



④活用風景

空家活用プロジェクト(空き店舗をまちづくり協議会の案内所として改修・活用)

課題・動向⑤：まちづくりの体制づくりと地域内の各団体の連携

上記のような新たな課題や動向に対応した施策を進めていくためには、地域としての体制づくりと各団体の連携が重要である。

まず、中心的な役割を果たすべき唐津街道姪浜まちづくり協議会においては、まちづくり団体としての活動内容が平成28年度以降大幅に縮小し、活動の方向性が見えない状況であると筆者は感じている。筆者が代表を務める「まちなみネットワーク福岡」に所属する他の団体の取り組みと比較すると、「まちづくりへの意欲」「地域課題の認識と対応」「地域の共感」「地域の巻き込み力」等で大きな差が出てきているのではないだろうか。

また、姪浜にはいろいろな団体があるが、それぞれの枠組みの中でしか活動できていないと思う。各団体を運営するだけでも大変なことはわかるが、地域全体の課題はそれぞれの団体の枠を超えて取り組む必要があるのではないだろうか。各団体でできることは限られており、姪浜全体の次のステージを見据えながら、各団体が枠を超えて、ゆるやかに連携して地域の課題に取り組んでいく必要がある。今がその時期なのである。

対応案⑤-1：地域に根ざしたまちづくり協議会に向けて

これは、第3章7-(2)の再掲である。唐津街道姪浜まちづくり協議会においては、一つひとつの言葉の持つ意味をしっかりと考え、高い志を持って姪浜のまちづくり課題に取り組んでいただきたい。この中で筆者が特に伝えたいことは、「いろいろな地域課題に取り組むことを楽しみながら、粘り強く活動を進めていただきたい。達成感こそがまちづくりの楽しさであり、それが次第に地域に波及・浸透し、共感を得ていくのである。」ということである。

地域に根ざしたまちづくり協議会に向けて（概要）

■組織の使命（ミッション）

地域の課題に真摯に取り組むことが、まちづくり協議会の使命であり、楽しさである。

■リーダー（役員）

まちづくり協議会のリーダーに求められるのは、「地域課題の的確な把握」と「総合的な判断力」である。

■会員（ヒト）

まちづくり協議会の会員に求められるのは、「高い志」「前向き思考」「包容力」「相手への配慮」である。

■地域資源（モノ）

今あるモノを活かすことが大事。新しいモノは要らない。

■ストーリー（コト、こだわり）

地域ブランドを構築するのは、「地域らしさ」「情報発信」「地道・粘り」「地域の共感」である。

■ドーパミンの出るまちづくり

協議会活動を活性化するのは、「チャレンジ」と「自省」である。

■巻き込み力

いろいろな地域課題に取り組むことが、まちづくりの楽しさである。それが、次第に地域に波及・浸透し、共感を得、いろいろな人や団体を巻き込んでいく力になるのである。

対応案⑤-2：まちづくり協議会を超えた、地域全体としての取り組み

地域は運命共存体である。これからは各団体の枠を超えて、地域全体としてまちづくり課題に取り組む視点が重要である。

- ・地域全体の課題に対して、姪浜全体の次のステージを見据えながら、各団体が枠を超えて、幅広い視点でまちづくりに取り組んでいく必要がある。
- ・自分の団体のことだけを考えていても地域は活性化しない。相手のことをよく知り、自分の団体に置き換えて考え、相手の価値を認めて敬意を払うこと（リスペクト）が大切である。地域愛を持って取り組むことが重要である。
- ・みそ蔵の消失を無駄にせず、これを機会に地域の総力を挙げて、姪浜ならではのまちづくりを進めていく必要がある。
- ・今後は町並みとして目に見える形で成果を出していく必要がある。そのためには、地域の住民や関係者の今まで以上の「姪浜への想い」と、それを実現化するための熱意と実行力が不可欠である。



多くの関係者の協力を得て行われる「まちなみフォーラム福岡」の活動。筆者は大川、内野宿、津屋崎、八女福島フォーラムに参加したが、受け入れ先となる地域の各団体がしっかり連携して取り組んでいた。姪浜でも大いに参考にしていきたい。

次ページは、姪浜を取り巻く新たな課題や動向に対応していくため、筆者が「TEAM 姪浜ネクスト」としての今後の取り組みの考え方を示したものである（平成28年3月）。「まちづくり協議会を超えた、地域全体としての取り組み」が今こそ求められているのである。

⑤ 新たな課題や動向、そして次のステージに向けて各団体でどう取り組んでいくのか？

- 人（企画できる人、汗をかく人、時間を提供する人）？
- 活動資金？
- 実践力（行動力）、事務局力？
- 後継者？
- 地域の現状に対する問題意識や危機感？
- 活動目標をしっかりと持っていますか？
- 軽浜をどういうまちにしたいのですか？
- 自分たちの組織でできること & いろいろな組織と連携することができることについて考えたことがありますか？

⇒ 「地域を元気にしたい」ということは共通目標
⇒ 地域内の各団体の協働・緩やかな連携へ

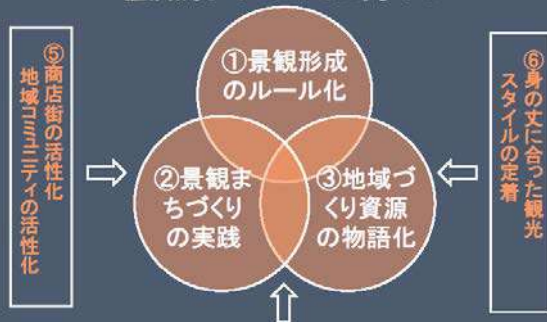
1

8. 『TEAM 軽浜ネクスト』としての今後の取り組み(案)

- ① 景観形成の基準づくり
(景観条例に基づく「景観協定」「景観形成地区」等)
- ② 歴史的な環境を活かした景観まちづくりの実践
(町並み修理・修景事業、町家再生事業等)
- ③ 地域づくり資源の物語化
(地域の歴史や景観的魅力を「軽浜読本」等により、わかりやすく伝える。)
- ④ こだわりとおもてなしの町並みイベントの継続・充実
(軽浜まち旅プロジェクトの推進)
- ⑤ 商店街の活性化、地域コミュニティ活性化に向けた活動
(空き家活用事業等)
- ⑥ 身の丈に合った観光スタイルの定着
(多彩な魅力資源の活用、地域の暮らしや人との出会い)

2

軽浜流まちづくりに向けて



④ こだわりとおもてなしの町並みイベントの継続・充実

3

【例1】 軽浜を築立つすべての子どもたちを対象にした景観普及活動の実施を目指します。



4

【例2】 みぞ蔵に依存しない、新たな「軽浜まち旅プロジェクト」に取り組みます。



5

【例3】 地域の総力を結集して軽浜の多彩なよかところを活かしたまちづくりを推進していきます。



6

【例4】 「地域との対話と具体的な実践」をテーマに、空き店舗を再生・拠点とした軽浜ネクスト推進事業を実施します。



7

【例4】 空き店舗を再生・拠点とした軽浜ネクスト推進事業（予定）

- 空き店舗を再生・活用したまちの案内所の運営
 - ・ 空き店舗活用モデル事業として地域へのPR
(空き店舗活用地域内への波及)
 - ・ 情報発信、コミュニティの場としての活用

- 軽浜ネクスト・まちづくり行動委員会（TEAM 軽浜ネクスト）の運営
 - ・ まちづくり実践計画策定
 - ・ まちづくり実践計画を踏まえたモデル事業の実施
(案内所周辺の店舗への暖簾設置によるまちなみ修景)

- 地域への活動報告
 - ・ かわら版に代わる季刊ニュースレターの発行

8

筆者が提案した「TEAM 軽浜ネクスト」としての平成 28 年度からの取り組み方針案(平成 28 年3月)

課題・動向⑥：「今あるモノをさらに活かす」という視点での地域の魅力の再発掘

前記⑤の「地域内連携」と関連するが、「今あるモノをさらに活かす（地域の魅力資源の再発掘と活用）」という視点で、地域としていろいろなアイデアを考えていく必要がある。筆者がまちづくり協議会在籍中に構想していた「環境保全」「広域連携」の視点を踏まえた案を3つ紹介したい。

対応案⑥ー1：身近な歴史資源を活用した環境保全活動&歴史回遊ネットワーク構築

姪浜周辺を広域的に見ると「福岡タワー」「愛宕神社」「能古島」「博多湾」という4つの眺望ポイントが存在する。こうした視点場から見る福岡市のコントラストのある景観は魅力的であり、福岡市の都市形成の歴史を垣間見ることができる。



能古島からシーサイドももち方面を見る



福岡タワーから姪浜方面を見る



愛宕神社から能古島方面を見る

愛宕神社からシーサイドももち方面を見る

これを姪浜地域内で見てみると、鎌倉時代からの歴史のある3つの丘（探題塚、興徳寺山、丸隈山）がある。このうち、興徳寺山はお寺で整備中であり、丸隈山はボランティアの皆さまが草刈りや清掃をしている。しかし、探題塚は全国に誇る歴史資源でありながら、この存在を知る人はほとんどいない。また、境内は手入れされているが、その奥は姪浜や博多湾を一望できる場所にありながら、やぶ山のようになっており、足の踏み場もなく、極めて閉鎖的な状況である。

そのため、身近にある探題塚という歴史資源にスポットを当て、子どもたちや地域住民の環境学習や歴史学習の場として活用させていただき、地域に開かれた開放的な空間づくりを通して、地域への誇りや愛着を醸成していくものである。歴史的物語を有する興徳寺山、丸隈山と合わせて、将来的には3つの丘による新たな歴史回遊ネットワークを構築できる。

3つの丘(探題塚、興徳寺山、丸隈山)の位置



【探題塚】

【興徳寺山】

【丸隈山】



西福岡マリナタウンより



山門付近より



対岸の姪浜魚市場付近より



万正寺付近より



名柄川付近より



途中の散策路



探題塚



整備中の境内



頂上付近(毘沙門天)

3つの丘(探題塚、興徳寺山、丸隈山)の位置とそれぞれの現況
(上の図は「元気！姪浜計画」をもとに筆者作成)

探題塚

探題塚は鎌倉幕府が元軍の来襲に備えて探題を置いた場所であり、鷲尾城（現在の愛宕山）や防塁を築造したり、点検報告を各守護にさせていた。初代探題が北条時定であり、弘安5年（1282年）以降姪浜浦山館（万正寺山）でその任務に当たった。その後、足利一族が探題となり、幕府の任命する最後の探題・渋川堯頭は、ここ万正寺山で戦死した（1534年頃）。この堯頭を葬ったのが探題塚である。即ち250年の長きにわたって防塁を構築し、外敵の侵攻から日本の国土を護ってきたものであり、姪浜は日本の国防の第一線であった。



探題塚のある万正寺山

【探題塚の現況】



探題塚に行く階段



探題塚(ここまでは手入れされている) 探題塚の一角にある埴安神社



探題塚の奥。やぶ山のようになっており、足の踏み場もない状況である。



枝を剪定すると、姪浜の市街地や博多湾が一望できる。



盃状穴のある大きな石も存在する。古くから信仰の場所であったと思われる。

【活動イメージ】



探題塚に関する調査、ワークショップ



樹木の伐採※



枝の剪定※



草刈り※



散策路整備※



桜の苗木植栽※



感謝状・記念品贈呈※



環境学習を終えて、参加者で記念撮影※



探題塚 PR イベント(まち歩きイベント、お花見コンサート※) (※※の写真は yahoo 画像等より引用)



【活動後のイメージ】



境内と一体となった見通しのきく開放的な空間へ※

【将来イメージ】



姪浜の桜の名所へ※



姪浜の市街地や博多湾を一望できる展望空間へ



姪浜の市街地や博多湾を一望できる展望空間へ※（※※の写真は yahoo 画像等より引用）

また、姪浜には鎌倉時代に限っても、探題塚だけでなく、元寇防塁跡、元寇の時代からの歴史のある興徳寺など、全国に誇れる身近な歴史資源が数多くあるが、こうした活動がきっかけとなり、歴史資源のネットワーク形成及び歴史まちづくりの推進に大きく寄与できるのではないかと考えている。

※探題塚は現在、安全上の問題もあり、探題神社保存会や姪浜校区自治協議会等により、境内の奥に行けないようフェンスが設けられている。毎年の探題様まつりや史跡案内等を通じて地域の皆さんの関心を深め、探題塚への誇りや愛着を高めることで、開放される空間が少しずつ広がっていくことを期待したい。

対応案⑥ー２：近隣地域と連携した多彩なフットパスの推進

「フットパス」とは、イギリスを発祥とする『森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと【Foot】ができる小径（こみち）【Path】』のことである。本場イギリスではフットパスが国土を網の目のように縫い、国民は積極的に歩くことを楽しんでいる。近年、日本においても様々な地域において、各々の特徴を活かした魅力的なフットパスが整備されてきている（日本フットパス協会 HP より）。



フットパスの事例（「日本フットパス協会 HP」より引用）



筆者が体験した福津市津屋崎での古墳群を巡るフットパスウォーク

都市化の進んだ姪浜やその近郊においては、こうした定義通りのフットパスは難しいかもしれないが、多彩な魅力資源（自然的資源、歴史的資源、都市的資源）を歩いて巡るコースの設定は可能であり、福岡型の新たなフットパスの実現も可能である。以下に筆者の私案を紹介したい。

【都市・歴史・自然の風景を楽しむトライアングルフットパス構想】

対象エリアは「シーサイドももち」「姪浜」「能古島」の3つのエリアと「博多湾」である。シーサイドももちには新しい都市景観、姪浜は多彩な歴史、能古島は歴史と自然が特徴であり、各エリアで特徴的な緑道、海浜公園、路地、自然の探勝路等があり、多彩な魅力を体感できる。また、前述したとおり「福岡タワー」「愛宕神社」「能古島」「博多湾」という4つの眺望ポイントがあり、福岡市のコントラストのある景観や都市形成の歴史を感じることができる。

ルートとしては、各エリア内、2つのエリア、3つのエリアといった組み合わせが可能であり、広域的で変化に富んだまち歩きを楽しむことができる。健康ブームの中、多くの市民がウォーキングを楽しまれており、各エリアの多彩な魅力資源を巡るいろいろなコース設定をすることで、

地域の魅力を体感体験しながらまち歩きを楽しむことができる。

各エリアの特徴等

	シーサイドももち	姪浜	能古島	博多湾
魅力資源	都市景観 景観に配慮された建築物	歴史 寺社 町家町並み 路地 元寇防塁跡	自然 歴史 アイランドパーク	海（博多湾） 周囲の自然景観 （海、山、緑）
眺望ポイント	福岡タワー	愛宕神社	島の至る所（アイランドパーク、自然探勝路等）	フェリー
考えられるルート	東西南北の緑道 河川沿いの緑道 海浜公園	愛宕神社参道 唐津街道 狭い路地 海浜公園 海沿いの遊歩道 松林の中の散策路	自然探勝路	能古渡船場～能古島（フェリー、海上タクシー）
推進体制	各エリアのまち歩きのガイド団体・グループ・人 まちづくり団体・グループ・人			
必要なツール	お薦めのコースを紹介した全体のマップ 各エリアの魅力資源を紹介するマップ			

全国で進められつつあるフットパスは、地域の魅力を再発見し、ウォーキングを中心にした現地での体験・交流の中で、その魅力を来訪者に感じていただくことで、地域への誇りや愛着の向上、ひいては地域の活性化につながると考えられている。

筆者は、フットパスは自然の風景の中だけでなく、成り立つのではないかと考えている。シーサイドももちは埋立地であり、近代的な都市景観や建築物が特徴であるが、東西南北の緑道、河川沿いの緑道、海浜公園等の公共空間の他、民有地においても緑豊かな景観づくりが進められており、都市的な環境の中にも豊かな自然環境が形成されている。また、姪浜においても愛宕神社参道、海浜公園、小戸から生の松原にかけての海沿いの遊歩道や松林の中の散策路（元寇防塁等の史跡もある）等がルートとして考えられ、その中で地域の歴史や文化等を感じてもらうことができる。大上段に考えることなく、地域や個人でできることから取り組んだらいいのではないだろうか。

「シーサイドももち」「姪浜」「能古島」、そして「博多湾」の組み合わせによる『都市・歴史・自然の風景を楽しむトライアングルフットパス構想』については、今後、筆者自身が取り組んでみたいテーマでもある。

【能古島】



【シーサイドもち】



【自然、歴史】

能古島

博多湾

シーサイドもち

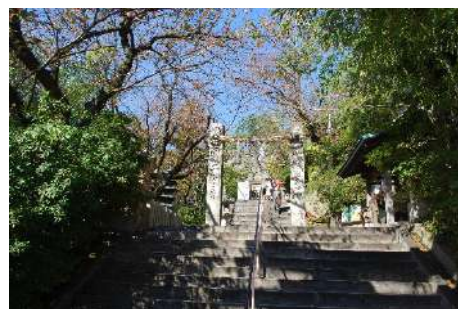
【都市景観】



姪浜

【歴史】

【姪浜】



都市・歴史・自然の風景を楽しむトライアングルフットパスのイメージ

対応案⑥-3：唐津街道をテーマとした広域連携の取り組みの推進

■現状と課題

唐津街道に関するネットワークとしては、平成 20 年に発足した「唐津街道サミット」がある。この団体は、唐津街道沿線の宿場町のまちづくり団体等を中心に構成されており、毎年 1 回程度、各団体が持ち回りでまち歩きや情報交換会を行い、それぞれの地域の抱える課題や取り組み事例等について話し合いを行っている。筆者も前原宿、西新高取、姪浜宿（主催）、深江宿、箱崎宿のサミットに参加した。



筆者が参加したサミットの様子(左:前原宿、右:西新高取)



筆者らが主催した姪浜でのサミットの様子。懇親会では姪浜の食材を使った手作りの料理で参加者に変喜ばれた。

発足した当時は、前原宿（前原名店街）や赤間宿（赤間地区コミュニティ運営協議会）の関係者が中心となって精力的に活動し、毎年 1 回の情報交換会の他に、高取商店街や西新プラリバで各地域お薦めの商品を販売したり、赤間宿のイベントで各地域のパネル展示やマップ配布を行ったこともある。また、前原宿の有志が中心となって、唐津から北九州までを歩く「歩く唐津街道の旅」を数年間にわたり実施し、唐津街道を盛り上げようと活動していた。

しかし、各団体内の諸事情もあり、当初の“唐津夢街道「宿場通り」ネットワーク協議会宣言（案）”に示されていた理念はあまり浸透せず、現在は情報交換の場にとどまっているのが実情である。平成 30 年に唐津街道サミット設立 10 年を迎えるが、当初の「唐津夢街道宣言」を再認識し、具体的な展開につなげていく必要があるのではないだろうか。



西新での姪浜ブランド商品の販売の様子(唐津街道物産展 IN 西新プラリバ)



「歩く唐津街道の旅」で姪浜に立ち寄りもらった時の様子

唐津夢街道「宿場通り」ネットワーク協議会宣言（案）

私たちが暮らす唐津街道は、江戸の昔より宿場町として栄え、明治・大正・昭和の時代になっても地域の人々が集い交流する活気あふれる元気な場所であり、経済・文化・交通などの各分野において地域の中心地でした。しかし、近年は鉄道や道路の整備が進み、大都市や郊外に人の流れが集まるようになり、かつての賑わいが失われつつあることを感じます。

われわれ唐津夢街道「宿場通り」ネットワーク協議会は、悠久の時を超え、先人が残してくれた街並み・景観・文化を活かし、守るべきものは守り、そこに暮らす人たちが豊かさを実感し、訪れる人たちが楽しさと魅力を感じられる街になるよう、兄弟のごとく助け、励ましあうために集うものであります。

由緒ある「宿場通り」に再び活気を呼び戻し、ひいては生まれ育った地域に愛着を持ち、この街を子どもたちの世代に引き継ぐことを目的に以下のとおり宣言する。

1. 私たちは、それぞれの地域において宿場通りの風情を活かした街並み再生に取り組み、再び街に活気を呼び戻し、さらなる発展を目指します。
2. 私たちは、それぞれの持つ地域資源（歴史・文化・食・祭り・農水産物など）を守りながら有効的に結びつけ、宿場通りのみならず町全体のイメージアップと活性化を図る事を目的とします。
3. 私たちは、お互いに情報交換を行い助け合い、知恵と汗を出し合い一致協力する事で、唐津夢街道全体の活性化を推進していく事を目的とします。

平成 20 年 11 月 22 日

■筆者の提案

1) 地域へのフィードバックと活動の広がり

- ・各地域の置かれている状況や抱えている課題は様々であり、サミットで得た情報や知識をそのまま活用することは難しいかもしれないが、各地域の取り組みの中にちょっとしたヒントは多くあり、サミットに参加した会員がそれを自分の所属する地域に持ち帰って、関係者と協議・実践していくことで、活動内容を広げていくことが重要である。
- ・県内には、この他にも「地域づくり」や「景観づくり」「町並み保全・活用」等に関するネットワーク組織があるが、こうしたネットワーク組織で重要なことは、参加した関係者が自分の所属する地域へきちんとフィードバックし、各地域のまちづくりの推進に役立てていくことである。

2) 具体的な実践へ

- ・筆者が唐津街道姪浜まちづくり協議会在籍中に、「唐津街道」をテーマに取り組んだことは、数回にわたる「唐津街道版画展」である。これは、宗像市在住の版画家・二川秀臣氏の協力を得て、姪浜のマイヅル味噌、福岡市赤煉瓦文化館、福岡市役所、御供所の承天寺等で展示させていただいたものであるが、「広域的視点から唐津街道の町並みを考えるきっかけづくり」を意図したものであった。また、「唐津街道」をテーマにした講演会やまち歩き、福岡市若手職員による研究発表会も実施した。



版画で歩く唐津街道展



唐津街道に関する講演会



着物で唐津街道の町並みをそぞろ歩き



福岡市若手職員による唐津街道に関する研究発表会

筆者が取り組んできた「唐津街道」をテーマにした催し

- ・各地域でこうした展示会や講演会等により地道に唐津街道を PR していくとともに、サミット全体として組織化を行い、予算を確保し、具体的な実践に移していくことが必要だと思う。そういう時期に差しかかっているのではないだろうか。

(例) 各地域で作成している歴史散策マップへの唐津街道のルート表示⇒唐津街道の PR
各地域の商店等の協力を得ての「唐津街道カレンダー」の作成

【筆者が歩いた唐津街道の各地域の町並み】

宗像市赤間	福津市畦町	福岡市箱崎
		
福岡市博多	福岡市天神	福岡市福岡城跡
		
福岡市唐人町	福岡市西新高取	福岡市姪浜
		
糸島市前原	糸島市深江	唐津市唐津
		

- ・毎年1回のサミットについても、構成団体の関係者だけでなく、広く一般市民や地域住民、商店街の方々などにも関心を持ってもらえるようオープンな催しにしていくべきであり、内容ももっと工夫していく必要がある。そうしないと、各団体の活動も活性化しないし、地域

内外への展開にもつながらない。

その参考になるのが、筆者が代表を務めている「まちなみネットワーク福岡」(平成 25 年 8 月発足)の活動である。この団体も毎年 1 回の「まちなみフォーラム(町並み見学会～講演会、パネルディスカッション、分科会～情報交流交換会)」が主な事業であるが、開催都市の住民の皆さまや行政関係者にも多く参加してもらうことで、町並みの保全・活用への理解と協力につながっている。「行政に依存しない自律的なネットワーク組織」「地域間の緩やかな連携」「行政や地域の各団体との連携」など、参考になることは多いと思う。



まちなみネットワーク福岡が実施する「まちなみフォーラム」の様子。毎回多くの市民も参加している。

- ・広域連携といっても、あくまでベースになるのは、各地域の個性を活かしたまちづくりの取り組みである。その上で、何を連携していくのか考えていくことが必要である。テーマとしては、「食」「祭り」「唐津街道の PR 方法」といったわかりやすいものもあるし、各地域共通の課題である「まちなみ形成」「空家対策」「地域コミュニティ」等が考えられる。唐津街道の PR とともに、各地域の抱える課題の両面から取り組んでいくことが必要だと思う。



唐津街道のルート(アクロス福岡文化誌編集委員会編「街道と宿場町」より引用)

最後に、「広域交流」について夢のある話を紹介したい。下記のコラムは、筆者が平成 25 年 8 月に秋田県横手市増田の町並みと内蔵を訪問した時の想いを書いた紀行文（抜粋）であり、北前船や五ヶ浦廻船を通じて縁があったかも知れない姪浜と増田の今後の交流について記したものである。地域づくりには現実的な課題への対応とともに、こうした夢も必要であり、その夢の実現に向けて活動していくのが「地域づくり活動」ではないかと筆者は考えている。

コラム 8 日本海を隔てた広域交流の提案

「内陸部のまち・横手市増田と海辺のまち・福岡市姪浜～日本海を隔てて 1100 km離れた地域の新たな交流の芽生え～」(2013 年 第 9 回 JTB 交流文化賞応募作品) より抜粋

増田の内蔵との出会い

平成 25 年 8 月 30 日、公務員の傍ら、福岡市姪浜で地域活動のリーダーをしている私は秋田県横手市増田にいました。仕事で出張した時の最後の視察地が増田でした。観光物産センター「蔵の駅」で説明を受け、中の蔵を見せていただきましたが、雪国ならではの独特の構法と重厚な造りに圧倒されました。視察はその蔵の見学と 10 分程度の町並み散策だけでしたが、もう少し居残って見てみたいと思い、視察のバスが他のメンバーを乗せ秋田駅に向かう中、私は帰りの飛行機の時間が許す限り、他の蔵を見ることにしました。

(中略)

福岡市・姪浜の蔵と町並み

一方、私が暮らし、まちづくり活動を実践している福岡市の姪浜にも、時代時代の状況に応じて様々な使い方をされてきた蔵があります。築 180 年以上になる江戸時代後期の建物で、戦前までは酒蔵、戦時中は飛行機の部品工場、戦後は味噌の製造・販売、現在はパンの製造・販売及びまちの案内所（地域のまちづくり活動の拠点）として使われ、今でもオーナーが住み続けておられます。また、時にはコンサートや講演会、展示会等のイベント会場になるなど、地域のシンボリック空間となっています。増田の内蔵とは造られた背景、歴史、構造はかなり異なりますが、「蔵」の持つ不思議な縁を感じました。



増田の蔵



姪浜の蔵

(次ページに続く)

(中略)

北前船で関係する増田と姪浜

ある蔵で説明を受けている中で、増田は北前船とも関わりがあることを知りました。なぜ、内陸部の増田が北前船と関係あるのか、詳しく話を聞いてみました。

昔、北前船が秋田の港に寄港し様々な物資を降ろしました。増田は雄物川支流の成瀬川と皆瀬川の合流に位置し、秋田の港に着いた物資は、これらの川を使って増田にも運ばれたそうです。当時は食品保存が未熟なため、新鮮な魚は横手のような内陸部には流通が困難でした。しかも秋田は冬が長いため、食品を加工し保存食として冬を越しました。そこで当時の人々は保存食をより美味しく、来客にもてなしたいという思いから、昆布に代表される保存食の加工技術に磨きがかかったということです。

姪浜も江戸時代には廻船業で栄え、五ヶ浦廻船や北前船とも関わりがあります。製塩業や漁業で栄え、藩米を廻送する千石船で賑わったほか、全盛期には江戸、大阪はもちろん東北、北海道にまで船足を伸ばし、江戸幕府や他藩の米、民間の材木、海産物の物流をも担いました。海辺のまち・姪浜と内陸部のまち・増田は 1100 km も離れており、一見関わりがないように見えますが、「姪浜の塩や海産物が増田で消費されていたかもしれない」「増田の昆布を姪浜の人にも食べていたかもしれない」など、何らかの交流があったことを想像すると、とてもわくわくしてきます。



江戸時代の交通路(安藤達朗著「いっきに学び直す日本史」に筆者が姪浜と増田の位置を記載)

● 姪浜 ● 増田

今後の交流に向けて（増田の皆さんへのメッセージ）

急遽決断した4時間足らずの増田滞在でしたが、とても有意義な時間でした。「蔵」や「北前船」が取り持つ縁、これは決して偶然ではないと思います。私を増田に引き寄せたもの、それは「増田にはこれからの日本の社会、そして姪浜の地域づくりを考えるヒントがたくさんある」ということを私に伝えたかったのではないのでしょうか。こうした縁を大切に、日本海を隔てて遠く 1100 km も離れた増田と姪浜で「地域づくり」や「町並み」「観光」をテーマに新たな交流が生まれればよいと感じています。

最後になりますが、丁寧に説明していただいた増田の皆さん、本当にありがとうございました。福岡市の姪浜から厚くお礼申し上げます。これを機会に「日本海を隔てた広域交流」を始めましょう。

【提言に代えて（筆者からのメッセージ）】

筆者は、公務員（福岡市職員）でもあり、建築士でもある。これまでの業務やボランティア活動で得た知識と経験を活かし、業務の枠を超えて地域づくりや景観づくりに取り組んできた。皆さま方の参考になるかどうかかわからないが、公務員や建築士の地域のまちづくりへの関わり方等について、これまでの執筆文をメッセージとしたい。

（１）公務員の皆さま方へ ～自治体職員よ、地域に出よう！スキルを活かそう！～

これは、月刊「地方自治職員研修」（2015年1月号）の「進行形！景観まちづくり」というコーナーでの筆者の執筆文である（平成28年度作成「活動記録」参考資料の再掲）。

進行形！景観まちづくり ～歴史的資源を活かした町並みづくりと賑わいづくり～

姪浜と私

平成17年3月の福岡県西方沖地震、それが私の人生の大きな転機となりました。私の住む姪浜でも多くの町家や寺社が被害を受けました。被害を受けて改めて気付くというのは残念ですが、しかし、「姪浜にはこんなに素晴らしい歴史的資源が残っていたのか。まだ遅くはない。歴史的な環境を活かしたまちづくりを進める上で、これが最初で最後のチャンスだ。」と前向きに考え、地域の関係者に声をかけ、2年後にまちづくり協議会を立ち上げました。私が49歳の時です。

それまで福岡市職員として長く景観行政に携わっていながら、自分が住む地域のことにはあまり関心がありませんでした。それからは今までの20年間を取り戻すかのように『姪浜の宝を福岡市民の宝に！』を目標に精力的に活動を続け、地域から感謝状もいただきました。

30歳代後半までは、職場でも「セブンイレブン（朝7時から夜11時まで）」と言われるぐらいに働きましたが、今後は、はやりの二刀流ではありませんが、地域への恩返しを込めて、「人生は二刀流、二毛作」をテーマに息長く、そして仲間とともに楽しく地域活動に関わっていきたいと思います。

本稿で紹介するのは、福岡市職員でもある私が景観行政の知識と経験を活かし、業務の枠を超えて地域の景観づくりに取り組んでいる事例です。まちづくり事例としてだけでなく、読者の皆さま方の今後の役所生活の参考にもなれば幸いです。

宝のまち・姪浜～姪浜の歴史と魅力～

姪浜は、人口150万人都市・福岡市の西区の中心的地域です。地下鉄の終点駅なので、名前を聞かれたことがあるかもしれません。ややもすると通り過ぎてしまいそうな姪浜の町並みですが、じっくりと歩いてみると、町並みのそこそこにたくさんの「よかところ」を発見することができます。その中には私たちの先人たちから受け継いできたものもあり、また、その上に新たに加えられたもの、生み出されたものもあります。

先人たちから受け継いできたものの代表は、日本誕生の神話や神功皇后伝説、奈良時代や鎌倉時代からの歴史を持つ神社やお寺の数々、元寇防塁、小戸から生の松原にかけての白砂青松、江戸時代に栄えた唐津街道の町並み、港の風景などたくさんあります。一方、姪浜駅周辺や海沿い

の現代的な商業施設や高層マンションなどは、姪浜の環境の良さや便利さが生み出した新たな風景です。

このように姪浜は新しいものと古いものが共存するまちですが、区画整理によって新しく生まれ変わった姪浜駅周辺と、海辺のマリノアシティの間であって、ぽつんと取り残されたように歴史的な環境が残っている地域があります。ここが私たちの主な活動地域で、宿場町、商人町、漁師町、寺町の4つの顔を備えた全国的にも珍しいまちです。その中央を東西に走る唐津街道を中心に、数多くの寺社や古い町家、路地などが残り、今でも街道の名残を感じさせる町並みが継承されています（写真1）。



写真1 街道の名残を感じさせる姪浜の町並み

活動のきっかけとねらい、協議会の体制

姪浜では、平成17年の福岡県西方沖地震の影響や都市化の進展等による町家の減少、マンションや駐車場の増加等により、地域固有の歴史的景観が次第に失われつつあります。このような状況の中で、歴史的な環境を活かしたまちづくりを進める上で今が正念場であると考え、危機感を持って立ち上がった私を含む福岡市職員が中心となって、平成19年3月に「唐津街道姪浜まちづくり協議会」を立ち上げました。

当初は地域外のメンバーを中心に十数名のメンバーでスタートしましたが、今では協力会員を含め46名がメンバーとなっており、建築士、コンサルタント、地方史研究者、写真家、大学生、地域住民等の多様な構成が特徴です。年齢的には40～60歳代の男性が中心ですが、なかには、仕事や家庭の都合で一度姪浜を離れた人や定年後に姪浜に戻ってきた人が、われわれの活動に刺激を受けて活動に関わりだした例もあります。こうしたメンバーが「ばか者、よそ者、若者」の視点を大切にして、『姪浜の宝を福岡市民の宝に！』を目標に、姪浜ならではの多彩な魅力資源を活かした地域協働のまちづくりを精力的に推進しています。

ちなみに、立ち上げ当初の中心メンバーであった市役所職員のうち、現在まで続いているのは私だけです（途中から参加しているメンバーには市役所職員が2名います）。歴史や町並みに興味があるだけでは目標を持ち続けるのが難しく、また、何かメリットを感じられないと地域活動は

続かないのかな、と思っています。

唐津街道姪浜まちづくり協議会の活動内容

協議会は平成 19 年の立ち上げ以降、以下のようにステップアップしながら活動を展開しています。

◆ 1st ステージ（主に平成 19 年度～）

『地域の魅力の再認識と地域内外への発信』を目標に、「まち歩きマップや瓦版の発行」「まちづくり活動拠点の設置」等による姪浜の見どころ・活動の情報提供や、「景観歴史発掘ガイドツアー」「国の登録有形文化財でのみそ蔵コンサート」「歴史ある寺社での灯明コンサート」等の多彩な町並みイベントを実施しています。

◆ 2nd ステージ（主に平成 22 年度～）

『地域協働のまちづくり計画の策定』を目標に、住民参加のワークショップも取り入れながら「元気！姪浜計画や景観づくり計画の策定」を行っています。また、『景観まちづくりの実践と姪浜ブランドの構築』を目標に、「町家再生の実践」「旧町名表示板の設置」「姪浜ブランドや姪浜町家の認定」等の具体的な活動を展開し、目に見える形でまちづくりの効果を伝えています。

最近では、「子どもまちなみ探検隊」「子ども落書き消し隊（写真 2）」等の次の世代を担う子どもたちを対象にした景観教育にも取り組んでいます。

◆ 3rd ステージ（平成 26 年度～）

『国の登録文化財のみそ蔵を中心とした姪浜のまちなみの個性の再構築』を目標に、「景観づくりの手引き」を発行し地域への普及活動を行うとともに、平成 25 年末に味噌の製造場としての約 1 世紀の役割を終えて閉店した旧マイヅル味噌のみそ蔵（姪浜の歴史的・景観的シンボル）の再生・継続的活用に向けた活動を展開中です。



写真2 次代の子どもたちを育てる景観教育

取り組みのポイント～人を活かす、資源を活かす～

このようにまちづくりの各段階に対応した多彩な活動を、協議会に参加している地域内外の

人々の多様なノウハウ・スキルをフルに活用しながら、また関係団体、九州大学、行政、NPO等と協働で進めています。私も、福岡市職員として培った専門性と企画力、人的ネットワーク等を存分に活用し、会の事務局長として力を発揮しています。特に公務員が長じるスキルである「各段階の課題に対応して段階的・長期的視点で取り組むこと」「職業・性格・意見の異なる十人十色の会員をまとめること」はまちづくりの現場で活かされています。

また、全国どこに行っても同じような町並みの形成が進む中で、「何これ!」と思うような地域に埋もれている身近な魅力資源を掘り起こすことが、姪浜ならではのまちづくり・景観づくりにつながると考えており、景観行政の経験を存分に発揮できる場面でもあります。

地域内外からの反応・反響

こうした活動による地域住民の反応ですが、「地域への誇りや愛着の創出」「活動の広がり」「地域の歴史・文化・暮らしを踏まえた、まちづくりや景観づくりの方向性の共有」「地域資源の保全・活用に向けた意識醸成」「双方向のまちづくりへの展開」につながっています。それを裏付けるものとして、例えば、地域住民から姪浜の魅力を「相撲甚句」や「史跡巡りの歌」にさせていただいたり、また、古民家の再生事例や自主的に景観形成に配慮した建築物等の事例が着実に増えています（写真3）。

一方、対外的な反響ですが、全国的な賞をいくつも受賞することで、「姪浜の魅力の全国へのPR」にもつながっており、視察や研修のフィールドとして姪浜を選んでいただくことも多くなりました。今後は、「身近な魅力資源を活かしたまちづくりの他地域への波及効果」も大いに期待できると考えています。



写真3 自主的に景観に配慮した建築物も

自治体職員よ、地域に出よう！スキルを活かそう！

私はこの活動に業務として関わっているわけではありませんが、地域の皆さま方に喜んでいただき、地域から感謝状までいただけるのはこの上なく公務員冥利に尽きます。

私のような一職員が地域に飛び出すだけでも地域は大きく変わります。読者の皆さま方も仕事

や家庭の事情もあると思いますが、それぞれの経験を活かして地域づくりに関わることで地域力は大きく向上しますし、それを自分自身にフィードバックすることで公務員生活や定年後の生活にも役立つと確信しています。

今後の展望

姪浜では、まちづくりの進展の一方で、いろいろな課題も出てきていますが、課題に取り組むことがまちづくりの楽しさでもあります。

今後も『姪浜の宝を福岡市民の宝に！』を目標に、地元の人にとっては「住みやすさ・暮らしやすさ」のあるまち、訪れる人にとっては「楽しさ」のあるまちの実現を目標として、新旧の多彩な「よかところ」を姪浜の個性として活かすことができるような「まちづくり・町並み景観づくり」を地域、九州大学、福岡市等と協働で進めていきます。そして、子どもたちに誇りをもって手渡すことのできる景観づくりにつなげていきたいと考えています。

今後の活動予定

- ① 景観形成のルール化（景観条例に基づく景観協定の締結等）
- ② 歴史的な環境を活かした景観づくりの実践（町家再生事業等）
- ③ 地域づくり資源（姪浜の歴史や景観的魅力）の物語化
- ④ こだわりとおもてなしの町並みイベントの継続・充実
- ⑤ 商店街や地域コミュニティ活性化に向けた活動（空き家活用事業等）
- ⑥ 身の丈に合った観光スタイルの定着（多彩な魅力資源の活用、地域の暮らしや人との出会い）

（月刊「地方自治職員研修」2015年1月号）

(2) 建築士の皆さま方へ ～建築士よ、地域に出よう！スキルを活かそう！～

これは、(公社)日本建築士会連合会の会誌「建築士」(2015年3月号)の「建築士会まちづくり賞受賞」のコーナーでの筆者の執筆文である(平成28年度作成「活動記録」参考資料の再掲)。

地域の誇り&まちなみ育てプロジェクト ～姪浜の宝を福岡市民の宝に！～

宝のまち・姪浜～姪浜の歴史と魅力～

姪浜は、福岡市西区の中心的な地域です。地下鉄の終点駅なので、名前を聞かれたことがあるかもしれません。ややもすると通り過ぎてしまいそうな姪浜の町並みですが、じっくりと歩いてみると、町並みのそこそこに新旧の多彩な「よかところ」を発見することができます。

先人たちから受け継いできたものの代表は、日本誕生の神話や神功皇后伝説、奈良時代や鎌倉時代からの歴史を持つ神社やお寺の数々、元寇防塁、小戸から生の松原にかけての白砂青松、江戸時代に栄えた唐津街道の町並み、港の風景などたくさんあります。一方、姪浜駅周辺や海沿いの現代的な商業施設や高層マンションなどは、姪浜の環境のよさや便利さが生みだした新たな風景です。

このように姪浜は新しいものと古いもののが共存するまちですが、その魅力が地域住民にほとんど認識されていませんでした。また、平成17(2005)年の福岡県西方沖地震の影響や都市化の進展による町家の減少、マンションや駐車場の増加などにより、地域固有の歴史的景観が失われつつあります。

このような状況の中で、歴史的な環境を活かしたまちづくりを進める上で今が正念場であると考え、危機感を持って立ち上がったよそ者の建築士が中心となって、平成19年3月に「唐津街道姪浜まちづくり協議会」を立ち上げました。当初は10名程度のメンバーでスタートしましたが、今では協会員を含め46名のメンバーで「ばか者、よそ者、若者」の視点を大切にして、『姪浜の宝を福岡市民の宝に！』を目標に、姪浜ならではの多彩な魅力資源を活かした地域協働のまちづくりを精力的に推進しています。

継続的で多彩な活動内容

協議会は平成19年の立ち上げ以降、ステップアップしながら活動を展開しています。

◆1st ステージ(主に平成19年度～)

「地域の魅力の再認識と地域内外への発信」を目標に、まち歩きマップや瓦版の発行、まちづくり活動拠点の設置等による姪浜の見どころ・活動の情報提供や、景観歴史発掘ガイドツアー、国の登録有形文化財でのみそ蔵コンサート、歴史ある寺社での灯明コンサートなどの多彩な町並みイベントを実施しています(写真1)。

◆2nd ステージ(主に平成22年度～)

「地域協働のまちづくり計画の策定」を目標に、住民参加のワークショップも取り入れながら「元気！姪浜計画や景観づくり計画の策定」を行っています。また、「景観まちづくりの実践と姪浜ブランドの構築」を目標に、町家再生の実践、旧町名表示板の設置、姪浜ブランドや姪浜町家の認定(写真2)などの活動を展開し、目に見える形でまちづくりの効果を伝えています。

最近では、子どもまちなみ探検隊、子ども落書き消し隊など次の世代を担う子どもたちを対象にした景観教育にも取り組んでいます（写真3）。



写真1 みそ蔵コンサート



写真2 姪浜町家の認定



写真3 子ども落書き消し隊

◆3rd ステージ（平成26年度～）

「国の登録文化財のみそ蔵を中心とした姪浜のまちなみの個性の再構築」を目標に、「景観づくりの手引き」を発行し地域への普及活動を行うとともに（写真4）、平成25年末に味噌の製造場としての約1世紀の役割を終えて閉店した旧マイヅル味噌のみそ蔵（姪浜の歴史的・景観的シンボル）の再生・継続的活用に向けた活動を展開中です（写真5）。

このように、まちづくりの各段階に応じた多彩な活動を牽引しているのが、私をはじめとした数名の建築士です。全国どこに行っても同じような町並みの形成が進む中で、地域に埋もれている身近な魅力資源を掘り起こすことが、姪浜ならではのまちづくり・景観づくりにつながると考

えており、建築士としての専門性を存分に発揮できる場面です。「それぞれの地域の歴史や空間特性をしっかりと把握し、ここでしかできないことを形にしていく」、このこだわりが建築に携わる者としての原点であり、私たち建築士の使命だと思います。



写真4 景観づくりの手引き発行



写真5 登録文化財みそ蔵特別公開

地域内外からの反応・反響

こうした活動による地域住民の反応ですが、たとえば、姪浜の魅力や相撲甚句や史跡巡りの歌にしていただいたり、また、古民家の再生や自主的に景観形成に配慮した建築物の事例が着実に増えています（写真6）。これは、地域への誇りや愛着の創出、地域の歴史・文化・暮らしを踏まえたまちづくりや景観づくりの方向性の共有、地域資源の保全・活用に向けた意識醸成、双方のまちづくりへの展開につながっている証だと考えています。



写真6 自主的に景観に配慮した町家

一方、対外的な反響ですが、全国的な賞をいくつも受賞することで、姪浜の魅力の全国へのPR

にもつながっており、視察や研修のフィールドとして姪浜を選んでいただくことも多くなりました。今後は、身近な魅力資源を活かしたまちづくりの他地域への波及効果も大いに期待できると考えています。

私はこの活動に建築士や福岡市職員の業務として関わっているわけではありませんが、地域の皆さま方に喜んでいただき、地域から感謝状までいただけるのはこの上なく建築士や公務員冥利に尽きます。

私のような一建築士や一公務員が地域に飛び出すだけでも地域は大きく変わります。建築士として様々な形で建築に向き合っている読者の皆さま方も、それぞれの経験を活かして地域づくりに関わることで地域力は大きく向上し、それを自分自身にフィードバックすることで今後の業務や定年後の生活にも役立つと確信しています。

今後の展望

姪浜では、まちづくりの進展の一方で、いろいろな課題も出てきていますが、課題に取り組むことがまちづくりの楽しさでもあります。

今後も『姪浜の宝を福岡市民の宝に！』を目標に、地元の人にとっては「住みやすさ・暮らしやすさ」のあるまち、訪れる人にとっては「楽しさ」のあるまちの実現を目標として、新旧の多彩な「よかところ」を姪浜の個性として活かすことができるような「まちづくり・町並み景観づくり」を地域、九州大学、福岡市等と協働で進めていきます。そして、子どもたちに誇りをもって手渡すことのできる景観づくりにつなげていきたいと考えています。

姪浜流まちづくりに向けて

- ① 景観形成のルール化（景観条例に基づく景観協定の締結等）
- ② 歴史的な環境を活かした景観づくりの実践（町家再生事業等）
- ③ 地域づくり資源（姪浜の歴史や景観的魅力）の物語化
- ④ こだわりとおもてなしの町並みイベントの継続・充実
- ⑤ 商店街や地域コミュニティ活性化に向けた活動（空き家活用事業等）
- ⑥ 身の丈に合った観光スタイルの定着（多彩な魅力資源の活用、地域の暮らしや人との出会い）

((公社)日本建築士会連合会 会誌「建築士」2015年3月号。

同会主催 第8回まちづくり賞「まちづくり優秀賞」受賞)

(3) 地域づくりに携わる皆さま方へ ～小さなまち旅の薦め～

これは、第13回JTB交流文化賞(2017年)に応募した筆者の執筆文である(内容一部修正)。熊本地震で大きな被害を受けた熊本城の訪問を機会に、二毛作目の人生に向けて始めた筆者の二つの小さなまち旅をエッセイにしたものである(※手記(1)、(2)と一部重複)。

二毛作目の人生の始まりは、被災後の熊本城訪問から

二つの激震と私の決断

私は、福岡市西区姪浜で活動しているまちづくり協議会の初代事務局長の役を担った(平成19年3月～28年5月)。平成19年3月に自ら協議会を立ち上げて以来、『姪浜の宝を福岡市民の宝に!』を目標に、地域固有の歴史・文化資源を活かしたまちづくりを牽引してきた。姪浜への熱い想いを込めた10年間の活動は、全国レベルのまちづくり賞を多数受賞するなど姪浜の魅力や協議会の活動を全国に発信することができた。

私は、今後も「姪浜のまちづくりの次のステージ」に向けて、地域の関係団体を巻き込みながら、さらに活動をステップアップさせていく予定であった。しかし、平成28年4月、まちづくりの進め方や協議会の運営方針などに対する他の会員との考え方の違いが表面化し、私は10年という節目を機会に断腸の想いで協議会卒業を決断した。地域のために精力的にまちづくり活動を推進してきた私にとっては、予期せぬ激震であり、大きな決断であった。



まちづくり協議会での私の活動のひとつ

また、協議会卒業を決断しかけた4月中旬、熊本で震度7の大地震が発生し、甚大な被害をもたらした。信じられない光景がテレビに映し出された。私は建築物の耐震関係の仕事をしている

こともあり、また、建築を学ぶため学生時代を熊本で過ごしたこともあり、今回の熊本地震はとも考えさせられるものがあった。

ちょうど熊本地震前の3月中旬～4月上旬にかけて2回、熊本や阿蘇に出かけ、熊本城や阿蘇神社、阿蘇大橋、南阿蘇村などを見てきたばかりだった。訪問した先々の場所が大きな被害を受け、様変わりしてしまった。それはまさに『建築物の耐震化は重要な仕事である。大学時代の恩返しをしよう。地域づくりの原点に戻ろう。』と私に伝えているようだった。姪浜という狭いフィールド、協議会という小さな組織を離れ、もっと大きな視点で世界を見てみようというメッセージだったのだろう。そして、私は5月下旬の定期総会で協議会卒業の意志を伝え、思い出の多い事務所を後にした。



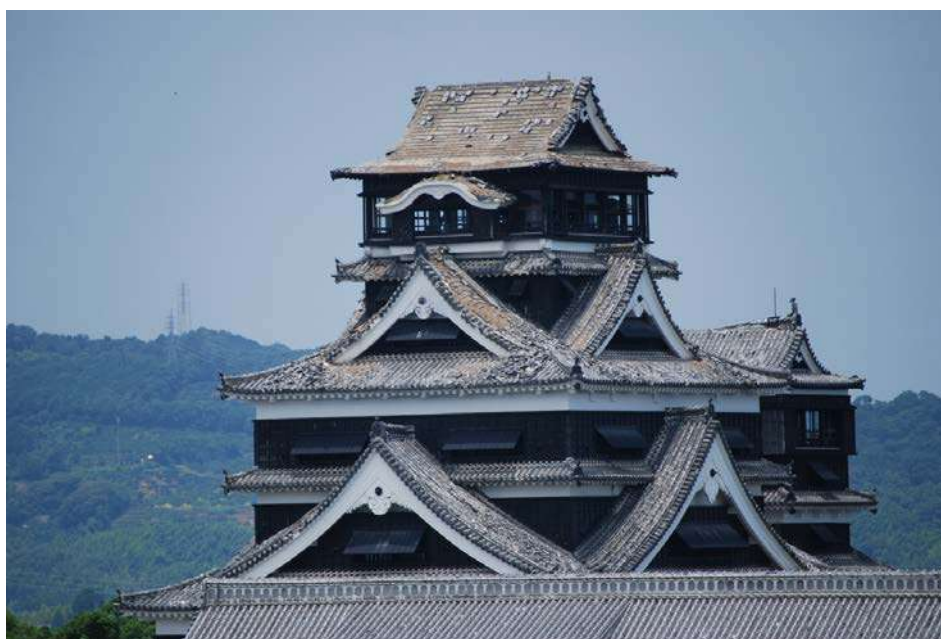
阿蘇大橋の崩落現場

被災後の熊本城訪問～失意のどん底からの立ち直り～

協議会卒業後、まちづくり活動というライフワークを失った私は、失意のどん底にあり途方に暮れていたが、平成28年6月中旬、気になっていた被災後の熊本城を訪れた。傷ついた熊本城の姿に自分の姿を重ね合わせていたのかもしれない。熊本地震以降、熊本城の被害状況はテレビや新聞で大きく報道されていたが、実際に見るとその被害の大きさに言葉を失った。石垣は大きく崩れ、天守閣は鯪を含め多くの瓦が落下するなど、無残な姿をさらけ出していた。

しかし、甚大な被害を受けながらも勇壮に佇んでいる姿はまさしく熊本のシンボルであり、私はとても勇気づけられた。飯田丸五階櫓や戌亥櫓は周囲の石垣が崩壊し、コーナーの石垣一本で辛うじて櫓を支えているだけであるが、この懸命な姿にも感動した。また、傷ついても勇壮に佇む熊本城を誇りに思い、来訪者に熊本城の魅力や地震後の状況を丁寧に説明しているボランティアガイドの皆さまの熱心な姿にも感銘を受けた。熊本城はこれまでも戦、地震、火災にも負けずに何度も復活してきた歴史があり、彼らは今回の大地震やそれによる甚大な被害も、今までの400年そしてこれからも長く続くであろう歴史のひとつとして大変前向きに考えているのだなと実感した。そう考えれば、私の姪浜での10年も長い人生のひとつまでであり、これからの二毛作

目の人生もより充実したものにできるのではないかと、私も前向きに考えることにした。



熊本地震で大きな被害を受けた熊本城。天守閣(上)と飯田丸五階櫓(下)

地域づくりや建築の原点に戻る旅

被災後の熊本城訪問で勇気とエネルギーをもらった私は、少し息を吹き返した。まず、始めたことは「地域づくりや建築の原点に戻る旅」である。これは、姪浜での10年間のまちづくり活動を振り返る旅であり、次の二毛作目の人生に向かって自分を見つめ直す旅でもある。初めての場所もあるし、思い出の場所もある。大学の卒業研究で関わった場所もあるし、建築を志した時に訪れた場所もある。テーマは地域づくりや建築の勉強でもいいし、人との出会いでもいい。何か感じ取ることができれば、それで十分なのである。そして、私が地域づくりや建築の原点に戻る

旅のスタートとして選んだのは、大学の卒業研究のフィールドであった「三角西港」と、建築を志した時に感銘を受けた「孤風院」という洋風建築である。

三角西港は、明治政府の殖産興業の政策に基づき、お雇い外国人のオランダ人水理工師ムルドルによる設計で明治 20 年（1887 年）に完成した。当時の最新の技術が盛り込まれた三角西港は、近代国家の威信を懸けた明治三大築港の一つであり、三角町は熊本県の海の玄関港として、また、人や物資が行き交う海上交通の要地として繁栄した。その後、港としての機能は三角港（東港）に移ったこともあり、756 メートルにも及ぶ石積みの埠頭や水路、橋などは築港後 130 年の歴史を持ちながら、当時の佇まいを見せている。



現在の三角西港

私は、大学を卒業して 36 年後の平成 28 年 7 月上旬に久しぶりに三角西港を訪問した。石積みの埠頭や水路は当時とほとんど変わらないが、昭和 62 年の築港 100 周年を機に、当時の建築物の復元や周辺の公園整備も行われ、観光地としても賑わいを見せていた。復元された小説家・小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）ゆかりの旅館・浦島屋、倉庫を改修したカフェなど明治の面影を残す建築物が印象的であった。大学時代にはだれ一人として観光に訪れる者はいなかったが、突然の雷雨にも関わらず多くの観光客が訪れていた。当時をよく知る私にとっては、想像もできないことであった。

大学時代に私が始めた研究が一つのきっかけとなり、重要文化財の指定や世界文化遺産の登録が行われ、多くの観光客が訪れる港町になったことを本当に嬉しく思う。そして、三角西港の魅力をここまで高めていただいたすべての関係者の皆さまに感謝の気持ちでいっぱいである。エピソードになるが、長年使っている腕時計の針が三角西港を訪れた時に突然止まった。まるで大学時代にタイムスリップしたかのように。それは、私に「地域づくりの原点に戻ろう」と示唆しているかのようだった。



現在の三角西港

次は孤風院である。孤風院は、明治41年（1908年）、熊本高等工業学校の講堂として建てられた熊本を代表する洋風木造建築であった。しかし、昭和51年（1976年）、老朽化による解体決定に伴い、当時熊本大学助教授であった木島安史先生が買い取り、現在の地（阿蘇）へ移築し、住居として平成3年（1991年）まで利用されていた。移築後は住みながら改修を続けられ、平成4年に木島先生が亡くなられてからは木島家の別荘としてのほか、「孤風院の会」によってメンテナンスを含めた建築教育活動の場として利用されている。大学の講堂としての役割を終えた建築物を自ら買い取り、改修し、住居として蘇らせ、明治～大正～昭和～平成の4つの時代にわたり活用されていった。

こうした建築への想いと行動力のある木島先生に大学時代に少しでも教わったことを今でも大変誇りに思っている。私は熊本地震から4ヶ月後の8月中旬に孤風院を訪問したが、外から見る限りは大きな損傷はなかったようだ。一安心である。木島先生の想いを受け継いだ建築物を訪問することで、建築への想いを新たにした。同行した長男は建築を学ぶ大学生であるが、私は木島先生の建築に込める想いを長男に伝えたかったのである。私にとっては、これこそ「建築の原点に戻る旅」であり、「親から子へメッセージを伝える旅」でもある。

私は、三角西港や孤風院訪問をきっかけとして、それぞれの風土や身近な歴史・文化を活かしたまちづくりを進めている地域や集落、各地に残る歴史的建造物などを訪問している。それぞれの地域の取り組みを学び、地域の方々と出会い、対話することで、地域づくりや建築への想いを新たにしている。



現在の孤風院

熊本の復興の過程を巡る旅

また、私は熊本地震後、大学時代の思い出の多い熊本のことが気になり、積極的に熊本県内を訪問している。被害を受けている熊本の状況をしっかり目に焼き付けておきたいからである。その中でも、熊本城、阿蘇神社、阿蘇大橋、そして益城町や南阿蘇村の被害はとても痛ましいものがあつた。主要な観光地を結ぶ道路も閉鎖され、観光客も激減している。地震前とは違う光景が広がっていた。

折しも平成 28 年 8 月上旬、熊本地震前に制作された映画「うつくしいひと」の上映会が福岡市内であった。熊本城、夏目漱石旧居、江津湖、菊池溪谷、草千里、通潤橋といった熊本の名所の地震前の姿が映し出された。私は、こうした名所がまた元の姿に戻るよう願わずにはいられなかった。と同時に、これから長い時間をかけて進められていく復興の過程を見に定期的に熊本を訪問することとした。熊本城の復興には 20 年かかると言われている。私は現在 59 歳であり、熊本城が復興される頃には 80 歳近くになっているが、復興の過程を見に何度も訪問したいと考え、実践を続けている。

熊本地震から 1 年経った平成 29 年 4 月上旬には満開の桜を見に訪れたが、石垣と桜の美しさは熊本だけでなく、日本の誇りだと改めて感じた。多くの市民や観光客も訪れ、賑わいを見せており、復興の足音を強く感じた。また、5 月下旬の訪問時には、天守閣再建に向けて一部解体工事が始められていた。城内にある加藤神社では、復興工事の様子をバックに結婚式の記念写真の撮影が行われていた。新郎新婦も熊本城の復興とともに今後の人生を歩んでいくのだろう。「いつまでもお幸せに」と祈りつつ、私も思わず記念写真撮影のシャッターを切っていた。



熊本地震から1年後の桜が満開の頃の熊本城



天守閣再建に向けて一部解体工事が始められた頃の熊本城

また、南阿蘇村の一心行の桜も地震前と同じように咲き誇り、黄色の菜の花や青い空とのコントラストが鮮やかであり、多くの来訪者で賑わっていた。落ちない石で有名な免の石は熊本地震で残念ながら落ちたが、地元の方々がそれを逆手に取り、石が落ちた後の空洞の姿を招き猫に例えPRしていた。私は、逆転の発想に思わず猫のように「ニャッ（ニャー）」としてしまった。「ピンチをチャンスに」という前向き思考の考え方に私は勇気づけられた。倒壊した阿蘇神社も復興に向けて新たな歩みを始めていた。毎年のように訪問している南阿蘇村のペンションも地震後は一時休館していたが、3ヶ月後に再開。オーナー夫婦とも再会し、喜びを分かち合うことができた。

このように熊本の復興の過程を巡る旅は、私にとっては人との出会いの旅であり、感動の旅である。私は、今後も復興の過程を見に定期的に熊本を訪問し、地域の方々と対話・交流することを楽しみにしていきたい。それが私流の熊本復興への支援である。



熊本地震から1年後の一心行の桜



毎年訪れる南阿蘇村のペンション。熊本地震から3ヶ月後に再開

今後の二毛作目の人生に向けて

この10年間は姪浜でのまちづくり活動にどっぷりと浸っていた私であるが、「地域づくりや建築の原点に戻る旅」や「熊本の復興の過程を巡る旅」を通して、多くの人と出会い、いろいろな

ことを感じ、学んでいる。まちづくりに関わる人間は、外の風や空気に触れ、いろいろな地域の方々と対話・交流することが必要だと改めて痛感している。

被災後の熊本城訪問をきっかけに始めた二つの旅は、今までの姪浜でのまちづくり活動を振り返るとともに、今後何らかの形で地域活動や定年後の生活に役立てていきたいという趣旨もある。私がまちづくり協議会を卒業する時に、ある知人が「市役所でのいろいろな経験、そして10年にわたる姪浜での地域づくりの経験を活かして、姪浜という狭いフィールドではなく、もっと広いフィールドで活躍してほしい」ということを話してくれた。実践を始めた二つの旅を通して、熊本城の復興と重ね合わせた今後の二毛作目の人生を大いに楽しみたいと考えている。

(平成29年9月応募の「第13回JTB交流文化賞応募作品」を一部修正)

【追記】



平成29年12月末現在の熊本城(熊本地震から1年8ヶ月後)

筆者の執筆は、唐津街道姪浜まちづくり協議会卒業直後の熊本城訪問(平成28年6月)から始まった。今後も熊本城の復興の歩みと自分自身を重ね合わせながら、次のステージに向けて活動を進めていきたい。

おわりに

今回の研究の終盤となる平成 29 年 11 月 23 日に広川町のイチョウ並木を訪れた。ここは、農業を営む丸山元運（もとゆき）さんが 20 年前に奥様が亡くなられた後に、長年ブドウ栽培で使っていた畑の一部をイチョウに植え替えた場所である。植えた当初は高さ 30～40 cm だった苗木も今では 7～8 m まで成長し、約 80 本の並木として、今では多くの人々が訪れる「紅葉の名所」となっている。奥様が亡くなられる直前まで 2 人で紅葉狩りに行くのを楽しみにしていたとのこと、丸山さんと亡き奥様の想いが込められている。

また、平成 29 年 8 月 14 日と 12 月 25 日に NHK の「にっぽん紀行」で放送された番組を見てぜひお会いしたいと思っていた熊本市上及裏通りの「トタン屋根のケーキ屋 ア・ラモート」の店主・新本高志さんに 12 月 28 日にお会いすることができた。新本さんは 30 年以上自転車のペダルをこいで、丹精込めて作られたパウンドケーキだけでなく、地域の方々に元気をお届けしている。熊本市内だけでなく、益城町や阿蘇、八代、天草、そして福岡県内にも配達することもあるそうだ。夢の実現に向けて頑張っている姿や、人と人との出会いやつながり、笑顔を大切にされている新本さんから、筆者も次のステージに向けて元気とエネルギーをもらったような気がする。

丸山さんや新本さんのような一つひとつのストーリーの積み重ねや人と人とのつながりが、地域づくりにつながっていくのだと確信した。今回の研究の締めくくりとなる「地域づくりを巡る小さなまち旅」は、感動の旅となった。



広川町のイチョウ並木



トタン屋根のケーキ屋 ア・ラモート(熊本市)

さて、今回の研究は、平成 28 年度に作成した「身近な地域資源を活かしたまちづくり活動記録～姪浜での 10 年の実践活動を中心とした、建築と地域づくりへの想い～」をブラッシュアップするとともに、今まで訪問してきた地域の中から特に印象に残る取り組みを振り返り、「身近な地域資源を活かしたまちづくりの実践方策に関する研究」として執筆を進めてきたものである。

筆者のまちづくりの哲学は、これまで何回も述べてきたとおり「それぞれの地域の風土・歴史・文化の尊重であり、それらを活かしたまちづくりの推進」である。例えば、重要伝統的建造物群保存地区等の歴史的町並みを有する地域や、豊かな自然や緑を有する地域、賑わいや風格を有する都市の中心部等は、地域の個性が明確であり、それを活かした街並みの形成が進められている。しかし、国内の大半の地域は、都市化に埋没し、全国同じような街並みが形成され、地域の個性

や特徴が見えにくくなっているのが実情である。

そうした地域において、地域の方々に地域への誇りや愛着を感じていただくためには、地域の隠れた魅力資源を掘り起こし、まちづくりに活かしていく視点が重要となる。各時代の歴史が上書きされ続けてきた姪浜は、その代表的な例であり、筆者らの取り組みはいろいろな地域への応用が可能であり、身近なまちづくりの推進に大いに参考になるものと考えている。

また、まちづくり協議会のあり方やまちづくりの進め方には様々な考え方があり、これが正解だと言い切れるものはない。ただ、筆者が唐津街道まちづくり協議会の事務局長として重要だと感じていた「ヒト」「モノ」「ストーリー」「巻き込み力」等については、今まで訪問してきた地域の取り組み事例においても共通していることを改めて認識することができた。それらの地域では「地道に」「粘り強く」「地域の共感」等を基本として、多くの団体が連携しながら様々な地域課題に取り組み、多くの成果を上げている。

そうした視点を含めて、「地域に根ざしたまちづくり協議会」や「新たな課題や動向を踏まえた、今後の姪浜のまちづくりの展開方策」についても提案させていただいた。決して新しい提案ではないが、姪浜でのまちづくりの実践を踏まえた筆者の率直な提案である。姪浜だけでなく、各地域でまちづくりに関わる方々に参考にしていただければ幸いである。

特に、筆者が10年間在籍した唐津街道姪浜まちづくり協議会においては、今までの活動内容と成果、まちづくりの考え方、組織のあり方等を自ら振り返り、姪浜を取り巻く新たな課題に真摯に取り組み、地域の共感を得ながら活動を推進していったほしい。まちづくり協議会に与えられた使命は大きいのである。

この他、公務員（福岡市職員）でもあり、建築士でもある筆者が業務の枠を超えて地域づくりや景観づくりに取り組んできた経験を踏まえ、公務員や建築士の皆さま方へ伝えたいことをメッセージという形で添えさせていただいた。

さらに、人生100年時代に筆者ができる身近な取り組みとして「小さなまち旅の薦め」をエッセイとして紹介させていただいた。インターネットの発達した現在においては、その地域や場所に行かなくてもいろいろな情報を入手できるが、時間をかけてその地域や場所に行く移動の過程でいろいろなことを想像し、思考を深めることができる。また、実物を見て空間を体験し地域の方々と対話することで、新たな考えが生まれ、地域づくりのヒントを得ることができる。近代建築の教科書と呼ばれる「空間 時間 建築」（ジークフリード・ギーディオ著）のタイトルを引用するわけではないが、情報化時代の地域づくりにおいてこそ「空間 時間 旅」の視点が求められているのではないだろうか。

今回は、平成28年度作成の活動記録の要点整理や、筆者が実際に訪問した地域の取り組みを踏まえた提案という形にとどまったが、今後、「地域づくりを巡る小さなまち旅」の訪問地の情報や感想を加えながら、機会を見つけて「まちづくり読本」としてわかりやすく編集していきたいと考えている。

筆者は平成30年3月末で福岡市役所を退職するが、これまでの32年にわたる市役所での業務経験（景観づくり、広域連携、空家対策、耐震対策等）や姪浜での10年間の精力的なまちづくり

活動、そして学生時代から続けている小さなまち旅の実践等を踏まえ、今後も執筆活動や講演活動等を通して、いろいろな地域の「身近な地域資源を活かしたまちづくり」を支援していきたいと考えている。筆者が伝えていきたいことは、「それぞれの地域の風土・歴史・文化を活かしたまちづくり」「こだわり、おもてなし、本物志向の地域づくり」、そして「それを進める地域内の各団体の協働・連携のあり方」である。

最後になりますが、今回の研究に当たりましては、まちなみネットワーク福岡に所属する団体の皆さま、筆者が訪問した際にご教示いただいた団体や役所の皆さま、姪浜という素晴らしいフィールドと活動の機会を与えていただいた姪浜の関係者の皆さま、これまでの活動を支援していただいた福岡市役所関係部局の皆さま、そしてお世話になったすべての方々にこの場をお借りして感謝の意を表します。

また、平成 28 年度に引き続き、今回も筆者のとりとめのない研究を会員研究として認めていただき、ご支援いただきました(公財)福岡アジア都市研究所の皆さまに謝意を表します。

平成 29 年 1 2 月

参考文献等

■参考文献、引用文献

【姪浜関係】

○(公財)福岡アジア都市研究所

会員研究(平成28年度) 「身近な地域資源を活かしたまちづくり活動記録～姪浜での10年の実践活動を中心とした、建築と地域づくりへの想い」

<http://urc.or.jp/kaiin>

○唐津街道姪浜まちづくり協議会

・「歴史散策マップ」(平成20年3月発行)

・「海恋のまち・姪浜 まち歩きマップ」

(平成23年1月発行、平成25年4月改訂、平成28年3月改訂)

・「唐津街道姪浜 地域の魅力資源集(本編及び概要版)」(平成20年3月作成)

・姪浜の魅力資源&まちづくり活動紹介資料「地域の誇り&まちなみ育てプロジェクト～姪浜の宝を福岡市民の宝に！」(平成28年3月)

・「かわら版」

創刊号(平成22年9月発行)～第9号(平成27年11月発行)、号外(平成25年10月発行)

・「元気!姪浜計画」(平成23年2月策定)

・「姪浜まち旅プロジェクト計画」(平成28年3月策定)

・第20回「住まいとコミュニティづくり活動助成(一般助成)」申請書(平成24年1月作成)

テーマ:姪浜ブランドを活用した町並みとコミュニティの再生

・第21回「住まいとコミュニティづくり活動助成(一般助成)」申請書(平成25年1月作成)

テーマ:人のつながりとまちの元気を育む「日だまり」づくり

○唐津街道姪浜まちづくり協議会・唐津街道姪浜景観づくり委員会

・「姪浜景観づくり計画」ステップ1(平成24年6月策定)

・「姪浜景観づくり計画」ステップ2(平成26年3月策定)

・「姪浜景観まちづくり宣言～姪浜の宝を福岡市民の宝に!～」(平成26年3月策定)

・「姪浜景観づくりの手引き」(平成26年10月策定)

・平成27年度ふくおか地域貢献活動サポート事業 協働助成事業(テーマ型)企画提案書
(平成27年4月、関係団体協議用として作成)

テーマ:全国に誇る身近な歴史資源「探題塚」を活用した環境保全活動

【事例紹介関係等】

○福岡市

・「福岡市都市景観情報誌 彩都」No.4(平成11年2月発行)

・「御供所都市景観形成地区 景観形成ガイドライン」(平成11年3月発行)

・「御供所地区 都市景観形成地区での取り組み」(平成20年11月作成)

○福岡都市科学研究所「URC」Vol.50(2001冬号)

・「こだわり、もてなしのまちづくり～小布施町と長野市の地域づくりを巡る旅～」

- 村上のまちづくり 案内人 国交省認定 観光カリスマ 吉川真嗣HP
<http://www.k-shinji.info/index.html>
- (公社)都市住宅学会「都市住宅学92号 2016winter」地域短信“行政に頼らない、村上市民の地域活性化への挑戦～町おこしイベントから景観づくり、空家再生まで～”
- 村上町屋商人会「城下町村上 町屋の人形さま・町屋の屏風まつり」(平成15年9月発行)
- 横手市HP「奥ゆかしき商家の町並み ますだ」
<http://www.city.yokote.lg.jp/tokusetsu/masuda/>
- 増田「蔵の会」発行「写真集 増田の蔵」(平成24年10月発行)
- 八女市 HP「八女福島の町並み(歴史と保存の取り組み)」
<http://www.city.yame.fukuoka.jp/shisei/10/1457320333336.html>
- 八女町家ねっと HP「八女町家と八女町家ねっとについて」
http://yame-machiya.net/about_machiya.html
- 第5回九州町並みゼミ八女福島大会&第5回まちなみフォーラム福岡 配布資料(平成29年9月)
- (一社)日本建築学会 2017年日本建築学会文化賞 選考経過
「町家の再生と活用を通じた町並み保存と地域活性化の継続的活動」
https://www.aij.or.jp/images/prize/2017/pdf/8_award_001.pdf
- NPO 法人小保・榎津藩境のまち保存会「小保・榎津藩境のまち保存会 活動のあゆみ」
(平成29年9月)
- 津屋崎千軒海とまちなみの会 提供資料(平成29年10月)
- (一社)内野地区活性化協議会 提供資料(平成29年12月)
- 第3回まちなみフォーラム福岡 in 内野宿 配布資料(平成27年11月)
- 長崎市 HP「長崎市外海の石積集落景観」
<http://www.city.nagasaki.lg.jp/shimin/190001/192001/p026965.html>
- 天草地域観光推進協議会「Dive into AMAKUSA」
天草五橋・雲仙天草国立公園・崎津集落 記念号(平成28年夏発行)
- (株)新建築社「日本の家 1945年以降の建築と暮らし」(平成29年7月発行)
- 国立西洋美術館「ル・コルビュジェの芸術空間 ー国立西洋美術館の図面からたどる思考の軌跡」
(平成29年6月発行)
- アジール・フロタタン再生展実行委員会「アジール・フロタタン再生展 ー浮かぶ避難船 ル・コルビュジェが見た争乱・難民・抵抗からー」(平成29年8月発行)
- 安藤忠雄建築展実行委員会「安藤忠雄展 ー挑戦ー」(平成29年9月発行)
- 荻谷勇雅・西村幸夫編著「歴史文化遺産 日本の町並み(上巻)」(平成28年1月発行)
- 荻谷勇雅・西村幸夫編著「歴史文化遺産 日本の町並み(下巻)」(平成28年3月発行)
- 文化庁「重要伝統的建造物群保存地区一覧」
http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/hozonchiku/judenken_ichiran.html
- ア・ラ・小布施著「遊学する小布施 信州・小布施コンセプト&ガイド」(平成9年4月発行)
- みのう悠々交流連絡協議会「みのうの豆本 うきは・吉井・たぬしまる・久留米市耳納北麓地区観光ボランティアガイド」(平成13年発行)
- NPO 法人シニアネット久留米 デジタル・アーカイブ 「みのうの豆本」
- 日本フットパス協会 HP「フットパスとは？」
<http://japan-footpath.jp/aboutfp/>

- (仮) 唐津夢街道「宿場通り」ネットワーク協議会
唐津夢街道「宿場通り」ネットワーク協議会宣言(案)(平成20年11月)
- アクロス福岡文化誌編集委員会「街道と宿場町」(平成19年1月発行)
- 安藤達朗著「いっきに学び直す日本史 古代・中世・近世 教養編」(平成28年3月発行)
- 月刊「地方自治職員研修」2015年1月号
- (公社)日本建築士会連合会 会誌「建築士」2015年3月号
- NHK ドキュメンタリーにっぽん紀行「ペダルを踏んで届ける元気～熊本 自転車販売のケーキ職人～」(平成29年8月14日及び平成29年12月25日放送)
- 東浩紀著「弱いつながら 検索ワードを探す旅」(平成28年4月発行)

■新聞記事

- 西日本新聞
 - ・「九州の街歩き隊 福岡市西区姪浜 唐津街道の歴史巡る」(平成21年11月22日)
 - ・「宿場町の歴史伝え日本一」(平成25年10月23日)
 - ・「風」よそもん視点生かす(平成25年11月18日)
 - ・「まちづくり優秀賞に」(平成26年12月10日)
 - ・「景観保護へ建築届け出厳格化」(平成27年9月1日)
 - ・「亡き妻重ねるイチョウ並木 広川町の丸山さん 植樹20年、名所に育つ」
(平成29年11月16日)
- 朝日新聞
 - ・「灯明空間 響く音色」(平成21年9月3日)
 - ・「熊本地震で傷ついた町屋 美術館へ」(平成29年5月26日)
- 毎日新聞
 - ・「古い町並み 地域の財産に」(平成26年1月31日)
- 読売新聞
 - ・福岡西かわらばん「姪浜大好き落書き消し隊」(平成26年4月5日)
 - ・福岡西かわらばん「世界回るヨットマン定住の夢」(平成26年11月29日)
 - ・「魅力発信に都市景観大賞」(平成27年6月2日)

■掲載写真

※特記なき限り「本報告書の写真はすべて筆者撮影(筆者が唐津街道姪浜まちづくり協議会在籍中に協議会関係者から提供してもらった写真も一部含む)」である。

(公財)福岡アジア都市研究所 会員研究員 (福岡市職員)
唐津街道姪浜まちづくり協議会 初代事務局長
大塚政徳

【連絡先】

〒819-0013

福岡県福岡市西区愛宕浜 2 - 3 - 2 - 6 0 1

TEL & FAX : 092-882-3831

携帯 : 090-7929-7758

e-mail : la-mound.m.63@iwk.bbiq.jp

参考資料

参考資料1 筆者がまちづくり協議会活動期間中及び卒業後に訪れた主な地域・集落等

- (1) 伝統的町並み
- (2) 集落等
- (3) 路地等
- (4) 唐津街道ことりっぶ
- (5) 歴史的建造物
- (6) 現代建築
- (7) 印象に残るヒト、モノ、コト（ストーリー）

参考資料2 熊本の復興の過程を巡る旅

- (1) 熊本城
- (2) 阿蘇神社及び門前町
- (3) 阿蘇大橋及びその周辺、益城町
- (4) 熊本市新町・古町
- (5) 印象に残るヒト、モノ、コト（ストーリー）

参考資料3 まちづくりの課題や段階（ステージ）に対応した姪浜での取り組み事例集

- (1) 取り組み一覧
- (2) 取り組み事例集

参考資料4 姪浜まち旅プロジェクト計画（概要版）

- 【まち旅を進めていく背景】
- 【まち旅プロジェクトの実施に向けたモデル的試行】
- 【まち旅プロジェクト推進のための情報発信ツールの整備】
- 【姪浜まち旅プロジェクト計画】

(公財) 福岡アジア都市研究所 会員研究員 (福岡市職員)
唐津街道姪浜まちづくり協議会 初代事務局長
大塚政徳

(1) 伝統的町並み①

仙北市角館（重要伝統的建造物群保存地区）



横手市増田（重要伝統的建造物群保存地区）



会津若松市七日町通り



喜多方市喜多方



下郷町大内宿（重要伝統的建造物群保存地区）



川越市川越（重要伝統的建造物群保存地区）



(1) 伝統的町並み②

長岡市



摂田屋（せったや）の町並み



谷内（やち）の町並み

村上市黒塀通り（安善小路）



倉敷市倉敷川畔（重要伝統的建造物群保存地区）



高梁市旧城下



北九州市木屋瀬



福津市津屋崎



(1) 伝統的町並み③

飯塚市内野



うきは市筑後吉井（重要伝統的建造物群保存地区）



八女市八女福島（重要伝統的建造物群保存地区）



大川市小保・榎津



鹿島市浜中町八本木宿（重要伝統的建造物群保存地区）



鹿島市浜庄津町浜金屋町（重要伝統的建造物群保存地区）



(1) 伝統的町並み④

嬉野市塩田津（重要伝統的建造物群保存地区）



有田町有田内山（重要伝統的建造物群保存地区）



島原市森岳商店街



雲仙市神代小路（重要伝統的建造物群保存地区）



杵築市北台南台（重要伝統的建造物群保存地区）



臼杵市臼杵



(1) 伝統的町並み⑤

豊後高田市昭和の町



山鹿市山鹿



熊本市新町・古町



南小国町黒川温泉



那覇市首里金城町



那覇市壺屋



(2) 集落等

軍艦島 (産業遺産)



波佐見市波佐見集落



長崎市外海集落 (重要文化的景観)



天草市崎津集落 (重要文化的景観)



宇城市三角西港 (港・都市計画) (世界文化遺産、重要文化財)



(3) 路地等

台東区谷中



新宿区神楽坂



福岡市御供所



(4) 唐津街道ことりっぷ① (宗像市赤間～福岡市福岡城跡)

宗像市赤間



福津市畦町



福岡市箱崎



福岡市博多



福岡市天神



福岡市福岡城跡



(4) 唐津街道ことりっぷ② (福岡市唐人町～唐津市唐津)

福岡市唐人町



福岡市西新高取



福岡市姪浜



糸島市前原










糸島市深江






唐津市唐津



(5) 歴史的建造物

<p>会津さざえ堂</p>	<p>富貴寺</p>	<p>東京駅</p>	<p>八千代座</p>
			
<p>大浦天主堂</p>	<p>出津教会</p>	<p>大江教会</p>	<p>崎津教会</p>
			
<p>旧岩崎久彌邸</p>	<p>旧朝倉邸</p>	<p>旧高取邸</p>	<p>旧グラバー住宅</p>
			

(6) 現代建築

<p>国立西洋美術館</p>	<p>東京文化会館</p>	<p>代官山ヒルサイドテラス</p>	<p>フロム・ファーストビル</p>
			
<p>アオーレ長岡</p>	<p>浅草文化観光センター</p>	<p>根津美術館</p>	<p>長崎県立美術館</p>
			
<p>表参道ヒルズ</p>	<p>国立新美術館</p>	<p>すみだ北斎美術館</p>	<p>大分県立美術館</p>
			

(7) 印象に残るヒト、モノ、コト (ストーリー)

国東半島の旅 (モノ、コト)



肥薩線の旅 (モノ、コト)



秋月の旅 (モノ) ※歴史を活かしたまちづくり等により多くの観光客で賑わう一方、高齢化対策、空家対策が深刻な課題と感じた。



広川町のイチョウ並木 (ヒト、コト)



熊本市上之裏通りの「トタン屋根のケーキ屋 ア・ラモート」(ヒト、コト)



(1) 熊本城① (熊本地震前)

平成 27 年 5 月 8 日



平成 27 年 5 月 8 日



平成 28 年 4 月 2 日



(1) 熊本城② (熊本地震後)

平成 28 年 6 月 18 日 (地震から 2 ヶ月後)



平成 28 年 12 月 18 日 (地震から 8 ヶ月後)



平成 29 年 4 月 9 日 (地震から 1 年後)



(1) 熊本城③ (熊本地震後)

平成 29 年 5 月 27 日 (地震から 1 年 1 ヶ月後)



平成 29 年 11 月 4 日 (地震から 1 年 7 ヶ月後)



平成 29 年 12 月 28 日 (地震から 1 年 8 ヶ月後)



(1) 熊本城④ (石垣)

平成 28 年 6 月 18 日 (地震から 2 ヶ月後)



平成 28 年 12 月 18 日 (地震から 8 ヶ月後)



平成 29 年 11 月 4 日 (地震から 1 年 7 ヶ月後)



(2) 阿蘇神社及び門前町

平成 28 年 3 月 21 日 (熊本地震前)



平成 28 年 8 月 16 日 (地震から 4 ヶ月後)



平成 29 年 4 月 23 日 (地震から 1 年後)



(3) 阿蘇大橋及びその周辺、益城町

阿蘇大橋及びその周辺 (平成 28 年 8 月 15 日、地震から 4 ヶ月後)



阿蘇大橋及びその周辺 (平成 29 年 4 月 23 日、地震から 1 年後)



益城町 (平成 28 年 8 月 15 日、地震から 4 ヶ月後)

益城町 (平成 29 年 4 月 22 日、地震から 1 年後)



(4) 熊本市新町・古町①

熊本市新町（平成 28 年 12 月 18 日、地震から 8 ヶ月後）



熊本市新町（平成 29 年 5 月 27 日、地震から 1 年 1 ヶ月後）



熊本市新町（平成 29 年 11 月 4 日、地震から 1 年 7 ヶ月後）



(4) 熊本市新町・古町②

熊本市古町（平成 28 年 12 月 18 日、地震から 8 ヶ月後）






熊本市古町（平成 29 年 5 月 27 日、地震から 1 年 1 ヶ月後）



熊本市古町（平成 29 年 11 月 4 日、地震から 1 年 7 ヶ月後）



(5) 印象に残るヒト、モノ、コト (ストーリー)

<p>孤風院 (平成 28 年 8 月 16 日、地震後) (阿蘇市)</p> 	<p>夏目漱石内坪井旧居 (平成 28 年 12 月 18 日、地震後) (熊本市)</p> 	<p>草千里 (平成 28 年 3 月 21 日、地震前) (阿蘇市)</p> 	<p>通潤橋 (平成 26 年 3 月 21 日、地震前) (山都町)</p> 
<p>一心行の桜 (南阿蘇村) (平成 28 年 4 月 2 日、地震前)</p> 	<p>一心行の桜 (南阿蘇村) (平成 29 年 4 月 15 日、地震後)</p> 	<p>免の石 (南阿蘇村) (平成 28 年 3 月 21 日、地震前)</p>  <p>現地の案内板の写真より</p>	<p>免の石 (南阿蘇村) (平成 29 年 4 月 23 日、地震後)</p>  <p>南阿蘇村観光協会チラシより</p>
<p>熊本城の桜 (熊本市) (平成 28 年 4 月 2 日、地震前)</p> 	<p>熊本城の桜 (熊本市) (平成 29 年 4 月 9 日、地震後)</p> 		

(1) 取り組み一覧

まちづくりの課題 活動の目標		A 主に協議会会員を対象にした活動	B 主に地域内の方々を対象にした活動	C 主に地域外の方々を対象にした活動
まちづくりのステージ	1st ステージ ■課題 地域住民自身の地域の魅力の認識不足 ↓ ■活動目標 地域の魅力の再認識と地域内外への発信	協議会設立 1st ステージの方針作成 ↓ 1. 定例会(A-1-1) 2. 地域の魅力資源調査(A-1-2) 3. 先進都市調査(A-1-3) 4. まちづくり活動拠点(まちなみの案内所)の開設・運営(A-1-4)	1. 地域の魅力資源集の作成(BC-1-1) 2. まち歩きマップの作成・発行(BC-1-2) 3. 景観歴史発掘ガイドツアー(BC-1-3) 4. 歴史的建造物での講演会・シンポジウム(BC-1-4) 5. 歴史的建造物でのコンサート(みそ蔵コンサート、灯明コンサート)(BC-1-5) 6. 各種展示会(まちなみパネル展、版画展、町家展)(BC-1-6) 7. マスコミへの情報発信(BC-1-7) 8. 地域の食材を使った料理でのおもてなし(BC-1-8)	
	2nd ステージ ■課題 ①地域のまちづくりの方向性が不明確 ②まちづくりの効果の具現化(具体的に目に見える形で示す) ↓ ■活動目標 ①地域協働のまちづくり計画の策定 ②景観まちづくりの実践	1st ステージの振り返り 2nd ステージの方針作成 ↓ 1. 景観づくり地域団体の認定(A-2-1) 2. 地域の状況を踏まえた効果的な助成金へのチャレンジ(A-2-2)	1. 地域との交流会・活動報告会(B-2-1) 2. かわら版の発行(B-2-2) 3. まちづくり計画の策定(ワークショップ形式)(B-2-3) 4. 景観づくり計画の策定(景観づくり委員会)(B-2-4) 5. 景観まちづくり宣言(B-2-5) 6. 「景観づくりの手引き」の作成(B-2-6) 7. 町家再生の実践(B-2-7) 8. 旧町名表示板の設置(B-2-8) 9. 「姪浜町家」の認定(B-2-9) 10. 地域のシンボル再生活動(B-2-10) 11. 子どもたちを対象にした景観づくり普及活動(B-2-11)	1. 地域づくりネットワーク活動(C-2-1) 2. 景観づくりネットワーク活動(C-2-2) 3. 大学との連携活動(C-2-3) 4. 展示会を主体としたウィークリー事業(C-2-4) 5. 町家活用イベント(C-2-5) 6. 着物でそぞろ歩き(C-2-6) 7. 「姪浜ブランド」の認定&PR(C-2-7) 8. 全国区の賞へのチャレンジ(C-2-8) 9. 地域からの贈り物(C-2-9) 10. 様々な場面での姪浜のPR(C-2-10) 11. 視察受入&意見交換(C-2-11)
	3rd ステージ ■課題 ①景観づくりの実践に向けた意識高揚 ②新たな魅力スポットや、姪浜らしさにこだわった多彩な事業の発掘・発信 ↓ ■活動目標 ①姪浜のまちなみの個性の再構築 ②次のステージに向けた取り組みの推進	2nd ステージの振り返り 3rd ステージの方針作成 ↓ 地域を取り巻く新たな課題や動向 ①各種受賞を次のステージにつなげる。 ②姪浜の歴史的・景観的シンボルの消失 ③歴史的景観保護に向けた福岡市の取り組みとの連携 ④空き店舗の増加によるシャッター商店街化、空家、駐車場、ワンルームアパートの増加による町並みの個性の喪失 ⑤まちづくりの体制づくりと地域内の各団体の連携 ⑥「今あるモノを活かす」という視点での地域の魅力の再発掘	1. 地域内の各団体の連携によるまちづくりの推進(B-3-1) 2. 空き店舗活用のモデル的实践(B-3-2)	1. 新たなまち旅プロジェクトの開発(C-3-1) 2. win-win-win-win方式によるまち歩きマップの作成・発行(C-3-2) 3. 「まち旅プロジェクト計画」の策定(C-3-3)

(2) 取り組み事例集

A-1-1 定例会



定例会は、発足当時から毎月1回を基本に実施してきた。事業内容やスケジュールの確認が主な議題であるが、筆者の定例会の進め方は、必ずレジュメをしっかり作り込み、何を協議するのか、何を決めるのかを明確にしてきた。議事録代わりになるし、欠席された方にも協議内容がわかるようにするためでもある。また、進行が事務局からの一方通行とならないよう、ワークショップをしたり、市役所の出前講座を取り入れたりするなどの工夫も忘れなかった。

A-1-2 地域の魅力資源調査



最初の取り組みとして、地域にどのような魅力資源があるのか、地域の特徴である寺社、町家、路地、塀、お堂、地蔵、石碑、緑等を調査した。協議会で実施したものもあるが、筆者が個人的に調査したものが圧倒的に多い。地域内をくまなく、そして何回も歩いた。歩く度に新しい発見もあり、同じ場所でも季節によって違った表情を見せてくれた。通りかかった地域の方々も声をかけてくれた。こうした地域の方々との出会いも調査の楽しみであった。こうした調査をもとに、「まち歩きマップ」や「地域の魅力資源集」を作成したり、身近なまちかど遺産を「姪浜まちかど遺産」として評価・紹介してきた。

A-1-3 先進都市調査



これは、町並み等の地域固有の魅力資源を活かしたまちづくりを推進している地域の調査であり、会員に実際に見て感じてほしいと企画したものである。姪浜とは置かれている状況は異なるが、他の都市を参考にしながら「姪浜の魅力資源をどのように活用していくのか」についてしっかり考えていくことが必要である。先進都市調査は、そのための絶好の機会である。協議会会員や関係団体の皆さまと一緒に視察に行った肥前浜宿、塩田宿、臼杵、杵築の町並みが印象に残っている。

A-1-4 まちづくり活動拠点（まちの案内所）の開設・運営



平成 22 年2月に、国の登録有形文化財であり、地域のシンボルとなっているマイヅル味噌の建物内に「まちの案内所」を開設した。これは活動を進める過程で、会議をするスペースや荷物を置くスペースが必要になったものであり、味噌貯蔵用の冷蔵庫が置かれていた 20 m²の部屋を、約3ヶ月かけて会員が手作業で壁塗りや床の張り替え等を行った。ここでは、会議の他、周辺の見どころを紹介したまち歩きマップやかかわら版の配布、イベントや唐津街道に関する情報提供等を行ってきた。

BC-1-1 地域の魅力資源集の作成



地域の魅力資源調査をもとに「地域の魅力資源集～唐津街道姪浜 見て歩き、食べ歩き～」を作成した。当初版でも30数ページにも及ぶもので、我ながら力作であった。古いパソコンを使っていた時代で、動きが悪く、作成に苦労したのを思い出す。この資源集は協議会主催の最初のまち歩きイベント（平成20年3月）で参加者に配布され、とても喜ばれた。しばらくは、まち歩きイベントの度に更新を続けた。活動を始めた平成19年当時の姪浜の町並みの現状を伝える貴重な資料でもある。また、概要版も作成し配布した。概要版を拡大したものが、まちなみパネルである。

BC-1-2 まち歩きマップの作成・発行



地域の景観資源調査をもとに、「まち歩きマップ」を作成・発行し、地域の魅力を多くの市民に伝えてきた。当初版のマップ（平成20年3月発行）は、A3両面、二つ折りのシンプルなものであり、片面が姪浜の魅力の紹介、片面がまち歩きマップとなっている（左）。また、23年1月には広域回遊マップとして「海恋のまち・姪浜まち歩きマップ」を作成・発行した（右）。B3蛇腹折り加工で、折り畳めばB5サイズで持ち運びしやすいものとした。25年4月には、上記の2つのマップを組み合わせたものを作成・発行し、現在のマップ（28年3月作成・発行）に引き継がれている。

BC-1-3 景観歴史発掘ガイドツアー



平成 20 年 3 月に第1回目を開催して以来、春(桜の頃)と秋(紅葉の頃)を中心に年間2~3回実施。毎回 40~60 人が参加。地域の見どころである寺社、町家、路地等を案内してきた。姪浜特産の「魚嘉の蒲鉾」や「仲西商店の削り節」の試食も参加者に大変喜ばれている。参加者との会話もまち歩き楽しみである。2時間半のショートコースや昼食をはさんで回るロングコースも用意。いろいろな見どころを歩いて回れるのが姪浜の特徴であり、様々なバリエーションが可能である。こうした実践が「姪浜まち旅プロジェクト計画」につながっていった。

BC-1-4 歴史的建造物での講演会・シンポジウム



平成 19 年 9 月に第 1 回目を開催して以来、「景観形成と地域づくり」をテーマに、春と秋を中心に年間2~3回実施してきた。会場の規模に応じて毎回 30~120 人が参加。寺社やみそ蔵、町家、旧郵便局舎での講演会等を通じて歴史的建造物の魅力を伝えてきた。手間暇とお金をかけても、姪浜ならではの場所(空間)にこだわるのが重要である。また、その時のタイムリーな話題と人、雰囲気等を総合的に判断していくのが事務局長である筆者の役割であり、進め方である。

BC-1-5 歴史的建造物でのコンサート①（みそ蔵コンサート）



みそ蔵コンサートは、マイヅル味噌の建物が平成19年12月に国の登録有形文化財に登録されたことを機に、その魅力を地域内外に広く伝えるとともに、幻想的な雰囲気の中での演奏を楽しんでいただきたいと実施してきたものである（1回目は平成20年3月。年間2～3回実施）。味噌の香りのする空間でのコンサートは珍しいということで、毎回多くの方々に参加していただいた。江戸時代後期に建てられ、地域のシンボルとなっているみそ蔵でのコンサートを通じて、歴史的建造物の魅力を伝えてきた。平成28年12月に役目を終え解かれたが、みそ蔵コンサートの思い出は忘れることはないだろう。

BC-1-5 歴史的建造物でのコンサート②（灯明コンサート）



多くの寺社があることも姫浜の大きな特徴であるが、地域の方々は意外とその歴史や魅力を知らない。灯明コンサートは、音楽だけでなく、普段味わうことのできない幻想的な雰囲気と魅力的な夜間景観を演出し、参加者に姫浜の魅力を伝えていくことを目的に行うものである。平成21年10月に第1回目を開催して以来、これまで5回実施してきた（興徳寺3回、姫浜住吉神社2回）。毎回180～250人が参加。姫浜ならではの空間と時間の中で、至福のひとときを過ごしていただいている。

BC-1-6 各種展示会①（まちなみパネル展）



春と秋のイベント等に合わせ、地域の見どころを紹介する「まちなみパネル展」を実施してきた。これは、地域資源集の概要版をA1サイズに印刷してパネル化したもので、当初は16枚のパネルを作成。このパネルの最初の出番は、平成20年10月の「西区まるごと博物館 IN 小戸ヨットハーバー」であった。大きさと枚数、統一されたデザインに来場者の評判も上々だった。このパネルは、毎年秋の「西区まるごと博物館」での展示だけでなく、みそ蔵でのイベント等の際にも何度も使われ、姪浜の魅力紹介ツールとしての役割を果たしてきた。

BC-1-6 各種展示会②（版画展、町家展）



これは、「唐津街道版画展」「ディスカバー姪浜展」「町家散歩展」など唐津街道や姪浜、町家等をテーマにした展示会であり、平成20年3月に第1回目を開催して以来、毎年1回程度、みそ蔵を中心に実施してきた。版画家の二川秀臣氏や漫画家の長谷川法世氏の作品も数回にわたり展示し、毎回500人程度の市民に来場いただいた。企画と準備は大変であるが、場所と内容にこだわった姪浜ならではの事業である。いろいろなところで構築してきた筆者の人的ネットワークを存分に活用させていただいた事業でもある。

BC-1-7 マスコミへの情報発信



燈明空間 響く音色
姪の浜 古寺で来月コンサート

福岡市東区の姪の浜に鎮座する八雲寺(浄土宗)の境内で、来月10月3日(土)午後7時から、地区で最も「古寺」を舞台に、「灯明コンサート」を開催する。約30人からなる若菜はなのと庄司の演奏の響きや、口琴の音色が響き渡る。この演奏会は、地域の活性化を図るため、寺の境内で、古寺の歴史や文化を伝える。また、地域の活性化を図るため、寺の境内で、古寺の歴史や文化を伝える。また、地域の活性化を図るため、寺の境内で、古寺の歴史や文化を伝える。

寺町のよさ 有志PR

本堂前のコンサート会場。マンションが林立する足元に伝統的な街並みが息づいている一帯(福岡市西区姪の浜5丁目)

10月3日(土)午後7時から、地区で最も「古寺」を舞台に、「灯明コンサート」を開催する。約30人からなる若菜はなのと庄司の演奏の響きや、口琴の音色が響き渡る。この演奏会は、地域の活性化を図るため、寺の境内で、古寺の歴史や文化を伝える。また、地域の活性化を図るため、寺の境内で、古寺の歴史や文化を伝える。

読売新聞 福岡西かわらばん

2014年10月26日 4.5頁 土曜 第369号

姪浜大好き落書き消し隊

児童8人 寺でペンキ塗り

「昔からある場所大事にしたい」



福岡市東区の姪の浜に鎮座する八雲寺(浄土宗)の境内で、来月10月3日(土)午後7時から、地区で最も「古寺」を舞台に、「灯明コンサート」を開催する。約30人からなる若菜はなのと庄司の演奏の響きや、口琴の音色が響き渡る。この演奏会は、地域の活性化を図るため、寺の境内で、古寺の歴史や文化を伝える。また、地域の活性化を図るため、寺の境内で、古寺の歴史や文化を伝える。

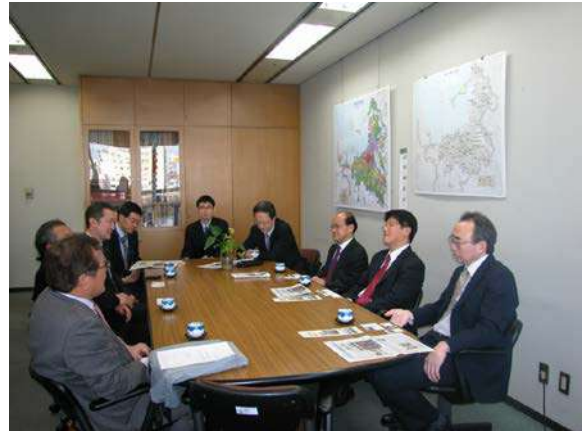
地域づくり活動において、マスコミの力を借りることは重要であり、イベントや受賞の広報にあたっては「マスコミに記事してもらえる内容」を常に意識して活動を進めてきた。一生懸命活動をして、地域の方々に協議会の活動を知ってもらえなければ、何の意味もないし、何もしないのと同じことである。また、マスコミを通じた地域への情報発信は、地域内外へのPR効果も高く、地域の方々の地域への誇りや愛着の醸成につながっていったと確信している。

BC-1-8 地域の食材を使った料理でのおもてなし



唐津街道サミットや全国町並みゼミ等の懇親会では、姪浜の食材(新鮮な魚、白魚、姪浜海苔等)を使った料理や、姪浜の名産品(魚嘉の蒲鉾、仲西商店の削り節、窯蔵のパン等)を使った料理を提供し、参加者に大変喜ばれた。また、昼食をはさむまち歩きイベントの際に、姪浜の老舗の料理店に協力いただいて特製の姪浜弁当を作っていたいたり、地域との交流会で姪浜ブランド店の協力をいただき、参加者に提供させていただいたこともある。手間暇はかかり、スタッフは大変であったが、まちづくりにはこうしたこだわりが大切である。こうした地道な取り組みが、姪浜ブランドの構築につながることを実感した。

A-2-1 景観づくり地域団体の認定



博多部の御供所地区に続き、福岡市都市景観条例に基づく「景観づくり地域団体」に認定された（平成 22 年3月）。これは、これまでの景観まちづくりに寄与する協議会の活動を福岡市が高く評価し、認定したものである。わかりやすく言えば、協議会が景観形成に配慮したまちづくりを進めていくことを行政が認定できる制度であり、自他ともに「景観」をキーワードとしたまちづくりを進めていくことを地域内外に宣言するものである。筆者が在籍中は「姪浜景観づくりの手引き」と「姪浜景観まちづくり宣言」を策定したが、今後は各会員のスキルアップとともに、地域の方々をいかに巻き込んでいくかが課題である。

A-2-2 地域の状況を踏まえた効果的な助成金へのチャレンジ

活動概要	
活動中心	区議会
実行委員会	博多区、福岡市
協賛名	景観まちづくり協議会
活動名	歴史的環境を活かした「住んでよし、訪れてよし」のまちづくり推進事業

1. 活動目的の概要

博多区は、福岡市の中心部を形成する歴史的なまちであり、その景観は福岡市の重要な資産である。しかし、近年のまちづくりの進展に伴い、歴史的な景観が失われるおそれがある。本事業は、歴史的な景観を保全・活用し、まちづくりの推進を図ることを目的とする。

2. 活動内容

(1) 調査・研究：地域の歴史・文化・景観に関する調査・研究を実施し、まちづくりの推進を図る。

(2) まちづくりの推進：まちづくりの推進を図るための活動を実施し、まちづくりの推進を図る。

(3) 協賛の獲得

協賛の獲得は、まちづくりの推進に不可欠である。本事業は、協賛の獲得を目的として、協賛の獲得を図る。

(4) 協賛の獲得

協賛の獲得は、まちづくりの推進に不可欠である。本事業は、協賛の獲得を目的として、協賛の獲得を図る。

(5) 協賛の獲得

協賛の獲得は、まちづくりの推進に不可欠である。本事業は、協賛の獲得を目的として、協賛の獲得を図る。

江戸時代の姪浜と唐津街道（筑前名所図會）

2014年7月
唐津街道姪浜まちづくり協議会

全国区の助成金にも果敢にチャレンジし、まちづくり活動を一層軌道に乗せることができた。筆者は協議会活動全体を見渡し、どの時期にどのような活動を進めていくのかを的確に把握し、それに応じた適切な助成金獲得を常に視野に入れていた。助成金を何に使うのではなく、数ある助成金の中から、協議会の活動状況に応じた助成金を選択し、チャレンジしていくことが大切であり、筆者は常にそれを意識していた。筆者が在籍中は7つの全国区の助成金に採択されたが、打率としては3割5分～4割程度と記憶している。

B-2-1 地域との交流会・活動報告会



アニバーサリー事業や受賞記念祝賀会では、日頃から協議会の活動にご支援・ご協力いただいている方々をお招きし、交流会を実施してきた。この中では、協議会の活動状況の報告や姪浜在住の演奏家によるミニコンサートを組み込み、交流を深めた。交流会は単なる懇親会ではない。「景観づくり計画」の報告会や「姪浜町家」認定プレート贈呈式等を組み込むことで、地域の方々に協議会の活動状況を伝えることができた。また、地元の音楽家に演奏していただくことで、地域としての一体感も演出することができた。

B-2-2 かわら版の発行



かわら版は、姪浜の魅力やまちづくり活動を地域の方々に広く発信することを目的としている。協議会活動を主体に、イベント情報の提供の他、「姪浜・まちかど遺産ピクニック」「まちなみ今昔」「トピック」「事務局長通信」等を掲載した(A3版、両面カラー)。姪北校区や姪浜校区での回覧板での広報の他、協議会案内所、地域内の主要なお店、近隣の5公民館、西区役所、福岡市情報プラザ等で配布した。地域内外の評判も上々であり、協議会の活動を広くPRする絶好の機会となっていた。筆者が協議会に在籍中、編集長として創刊号～第9号、号外(1回)の計10回発行した。

B-2-3 まちづくり計画の策定（ワークショップ形式）①



新旧の多彩な「よかところ」を姪浜の個性として活かすことができるような「まちづくり・町並み景観づくり」を地域の方々とともに進めていくため、まずは、まちづくりの共有指針となるまちづくり計画策定に向けて、地域住民を対象としたワークショップを行った。テーマは、「地域固有の歴史的環境を活かした町並みづくり」「歴史的魅力を活かしつつ、臨海部の集客施設との連携をも考慮した商店街の賑わい形成」等であるが、具体的でわかりやすい課題を出し合いながら、楽しく取り組むことで、参加者に姪浜のまちづくりに関心を持っていただいた。

B-2-3 まちづくり計画の策定（ワークショップ形式）②



ワークショップやアンケート調査等を踏まえ、「元気！姪浜計画」を策定した。これは、地域による、地域のためのまちづくり計画であり、短期、中期、長期ごとに、具体的に何をしていくかの方向性を示したものである。協議会では、地元の人にとっては「住みやすさ・暮らしやすさ」のあるまち、訪れる人にとっては「楽しさ」のあるまちの実現を目標として、新旧の多彩な「よかところ」を姪浜の個性として活かすことができるような「まちづくり・町並み景観づくり」を地域の皆さまとともに進めていきたいと考えている。「元気！姪浜計画」は、こうした想いを込めて策定したもので、地域のまちづくりの共有指針となるものと考えている。今後、具体的な実践活動に取り組んでいく必要がある。

B-2-4 景観づくり計画の策定（景観づくり委員会）①



「元気！姪浜計画」の主要な基本方針のひとつである「姪浜のまちの個性の再構築（住まいづくり・町並み景観づくり）」の実現に向けて、地元関係者、関係団体、九大生、専門家、行政職員等で構成する「唐津街道姪浜景観づくり委員会」を立ち上げ、景観づくり計画の検討を進めていった。具体的には、ワークショップ形式を取り入れながら、各委員から町並み形成や地域活性化に向けた多彩なアイデアをいただきながら段階的に検討を重ねた。

B-2-4 景観づくり計画の策定（景観づくり委員会）②



景観づくり委員会での議論を踏まえ、平成 24 年6月に「景観づくり計画ステップ1～景観づくりの考え方と景観よかごと事例集～」を策定。その後も議論を重ね、26 年3月に「景観づくり計画ステップ2」を策定した。ステップ2では、姪浜固有の地域資源を活かした景観づくりを浸透させ展開していくため、「景観づくりと並行して進めるべき実践活動」や「景観づくり推進組織」についても提案している。

B-2-5 景観まちづくり宣言

「姪浜景観まちづくり宣言～姪浜の宝を福岡市民の宝に！～」

姪浜のまちを眺めながらじっくりと歩いてみると、町並みのそこそこにくさの「よかとこ」を発見することができます。歴史ある数々の寺社、古い町家、唐津街道、路地、祠、お堂、寺社や民家の花・緑、港の風景など数え上げると切りがありません。このように姪浜は「寺町」「宿場町」「港町（漁師町、船町）」の面影を今に伝える全国的にも珍しいまちです。

私たちは、地元の人たちにとっては「住みやすさ・暮らしやすさ」のあるまち、訪れる人たちにとっては「楽しさ」のあるまちの景観を目標として、このような多様な「よかとこ」を景観の創作として活かすことができるような「まちづくり・町並み景観づくり」を地域の皆さま方とともに具体的に実践していくため、ここに「姪浜景観まちづくり宣言」を行います。

『姪浜の宝を福岡市民の宝に！』の実現に向けて、地域の総力を結集して取り組んでいきましょう。

○姪浜ならではの多彩な歴史や文化を活かした景観づくりを進めよう

國徳寺や住吉神社に代表される寺社、江戸時代から昭和時代にかけての伝統的な町家、唐津街道の宿場の名残を感じさせる町並みや遊の形、海辺のまち独特の路地のネットワーク、祠、お堂、寺社の豊かな緑、港の風景などは、姪浜固有の宝（魅力資産）です。これらを最大限に活用した景観づくりを地域協働で進めていきましょう。

○地域の貴重な財産である町家を現代的視点で再評価し、積極的に活用しよう

町家は、地域の長い歴史の中で生み出された建築様式です。「寒い」「暑い」「暮らしにくい」ということをよく聞きますが、もともとプライバシーや採光、通風の確保など生活の知恵が詰まった家です。最近では、快適な暮らし方が提案された事例やレストランなどとして再生された事例も多く見ることができます。こうした町家の特性を現代的視点で再評価し、住居や店舗として積極的に活用していきましょう。私たちも町家を保全・再生・活用するための体制づくりを進めていきます。

○新しい建物や駐車場も町並みの向上に貢献するよう景観づくりの工夫をしよう

様々な事情で古い町家が解体され、その後はワンルーム形式のマンションやアパートが建ったり、駐車場になったりしています。新しい建物や駐車場も町並みの連続性や色彩、緑化などに配慮し、地域の町並み形成に積極的に参加していきましょう。

○景観づくりを住みやすさ・暮らしやすさや商店街の賑わい創出につなげよう

「何のための景観づくりか？」「だれのための景観づくりか？」ということをよく耳にします。姪浜の景観づくりは外観を美しく、親近化することが主な目的ではありません。私たちは、宿場ならではの魅力資産を活かした景観づくりの取り組みにより、「地域の皆さまが歴史ある経済に暮らし、ここで商売をすることに誇りや愛着を持ち続けたい」と考え、そして、街道や路地を活かした地域コミュニティと会話が生まれる対面型の商店街を再生し、高齢者や子どもたちの姿が溢れるまちにしていきたいです。

○子どもたちに誇りをもって手渡すことのできる景観づくりをしよう

姪浜には多くの宝があります。しかし、まちの宝や伝統はそのまま残って置くだけではいつか朽ちたりして、最後には消滅してしまいます。まちの宝や伝統に誇りを持って次の世代にバトンタッチしていきたいです。また、子どもたちと一緒に景観を歩いてまちの宝をともに観察し、姪浜の宝や物語を伝えるなど、子どもたちが景観に関心や誇りを持つための入口をつくってあげましょう。

平成26年3月14日

唐津街道姪浜まちづくり協議会、唐津街道宿場景観づくり委員会

景観づくり計画が示す姪浜の景観づくりの方向性をわかりやすく示し、地域の皆さま方と共有するため、「姪浜景観まちづくり宣言～姪浜の宝を福岡市民の宝に！～」を策定した。この宣言を踏まえ、地域の関係団体や住民の方々のさらなる協力と幅広い参加をいただきながら、より詳細な計画を策定するとともに、具体的な景観づくりを実践していくこととしていたが、まだ道半ばである。地域の方々々が中心となった景観づくりの取り組みはこれからである。

B-2-6 「景観づくりの手引き」の作成



平成26年3月に策定した「姪浜景観づくり計画」の内容を地域の方々に広く知っていただき、活用していただきたいと考え、それをわかりやすく示した「姪浜景観づくりの手引き」を10月に発行した。まちづくり協議会と景観づくり委員会では、地域の集まりでの出前講座やみそ蔵でのパネル展等を開催し、この手引きを活用して地域の方々とともに姪浜ならではの地域特性を活かした景観づくりに取り組んでいくこととしている。

B-2-7 町家再生の実践



これは、町家改修に当たっての相談やアドバイスをし、住まい方や町並み形成への配慮について提案してきたものである。改修に当たり、景観形成に十分配慮していただいた事例もある。その一方、空家状態であった町家の活用について打診し、内部まで調査させていただいた家もあったが、親族の反対で解体・建て替えられた家もある。また、各店舗の自主的な取り組みとして、古い町家や家屋が飲食店やカフェ、美容室等として再生・活用される事例も増えてきている。これも今までの協議会活動の成果のひとつと言えるだろう。

B-2-8 旧町名表示板の設置



具体的に目に見える形でまちづくりを実践していくため、協議会でできることから取り組むことになった。その最初の事例が旧町名表示板の設置であり、地域の方々に地域への誇りや愛着を感じていただきたいという思いから、昭和 30 年代の町名表示板を作成し、散策コース(景観回遊路)の主要な場所に設置している。この表示板は、会員手作りのプレートであり、協議会オリジナルの事業である。外注するのではなく、会員が手作りで地域への想いを込めて作ることに大きな意義がある。

B-2-9 「姪浜町家」の認定



姪浜には、江戸から昭和初期にかけて建てられた約 100 軒の町家が残っているが、老朽化や後継者不足等の理由で取り壊される家が増えている中で、当協議会が独自に「姪浜町家」に認定することで、価値を再認識していただくきっかけになればと考え、こうした取り組みを始めた。選定に当たっては、当協議会のメンバーが平成 23 年秋から現地調査や所有者へのヒアリングを行い、保存状態や町並みへの貢献度等を総合的に判断し、姪浜町家として認定した。認定した町家の所有者には、当協議会から手作りの認定プレートを贈呈させていただいた。筆者が協議会に在籍中 26 軒の町家を認定した。

B-2-10 地域のシンボル再生活動



旧マイヅル味噌のみそ蔵は、姪浜の歴史的・景観的シンボルであり、地域のまちづくり・景観づくりに欠かせない重要な建物である。筆者らは、地域のシンボリックな空間を残し、何らかの形で活用していきたいと考え、所有者の協力を得て平成 25 年秋から定期的に特別公開させていただいた。また、公開に合わせ「姪浜展」「トークショー」「ワークショップ」「みそ蔵コンサート」等を開催し、建物の価値や後世に残していくことの意義、活用方法について、来場者と考えてきた。

B-2-11 子どもたちを対象にした景観づくり普及活動①



次の世代を担う子どもたちにも姪浜の魅力を伝えていきたいと考え、子どもたちを対象にした事業にも取り組んできた。「子どもまちなみ探検隊」では、歴史ある寺社、昔ながらの町家、迷路のような路地、そして蒲鉾や削り節の試食といった姪浜ならではの内容に、参加した子どもたちは興味津々で大満足の様であった。まち歩き後に俳句を詠んでもらい、子どもたちの感性の高さに驚かされたこともある。また、景観回遊路に面した、落書きの酷かったお寺の塀を子どもたちに手伝ってもらい、きれいに修景(塗装)したこともある。

B-2-11 子どもたちを対象にした景観づくり普及活動②



次の世代を担う子どもたちにも姪浜の魅力を伝えていきたいと考え、子どもたちを対象にした事業にも取り組んできた。「遊覧船&夏休み親子まちなみ探検隊」は、海や港との関わりの深い姪浜の魅力を再発見するガイドツアーである。魚市場の競りやクルーザー等を見学した後、遊覧船に乗船し博多湾から福岡のまちなみを楽しんでもらおうというものである。猛暑の中であったが、約 20 名の親子が参加。世界 55ヶ国から姪浜港を選んでいただき、ヨット生活を送っているヤップさんの双胴船にも乗船させていただき、子どもたちは大喜びの様子であった。

C-2-1 地域づくりネットワーク活動



唐津街道の宿場町で地域づくりに取り組む関係者で構成する「唐津街道サミット」を、各宿持ち回りで平成 20 年度からほぼ毎年開催。町おこしや地域づくりをテーマに、それぞれの地域の抱える課題や取り組み事例等について意見交換を行っている。これまで、赤間宿、畦町宿、箱崎宿、西新高取、姪浜宿、前原宿、深江宿で開催した。各回、まち歩きと意見交換、懇親会という構成である。姪浜宿では、平成 23 年 3 月に開催し、姪浜ならではの空間と料理でおもてなしをさせていただいた。

C-2-2 景観づくりネットワーク活動



平成 24 年度に「全国町並みゼミ福岡大会」が開催されたことを契機として、福岡県内で町並み等の地域遺産の保存継承に取り組む団体が「まちなみネットワークふくおか」を組織し、平成 25 年度から持ち回りで「まちなみフォーラム」を開催している。姪浜で第 1 回目を開催、その後も大川（小保・榎津）、内野宿、津屋崎、八女福島で開催している。地域遺産を活かしたまちづくりの方向性や、その戦略と実践方策について考え、姪浜の景観づくりのヒントもたくさんいただき、今後役に立てていきたいと思ったところである。

C-2-3 大学との連携活動



これは、九州大学の大学院生や建築学科3年生を対象にしたワークショップである。「今の学生は社会との接点が少なく、何でもできると思い込んでいる」ということで、地域に出かけ、実際にまちづくり団体がどのような取り組みをしているのかを学ぶため、企画しているとのことである。一人でも多くの学生に、姪浜というまちに関心を持っていただけたらと思う。社会人になってからも、それぞれの地域のためにまちづくり活動に尽力している人々がいることを認識していただくとともに、こうしたフィールドワークの体験を今後の仕事に活かしてほしいと思う。

C-2-4 展示会を主体としたウィークリー事業



これは、みそ蔵をメイン会場とした一週間単位の事業であり、姪浜に関する絵画や写真等を展示した「ディスカバー姪浜展」と、「みそ蔵コンサート」「姪浜シネマ」「景観歴史発掘ガイドツアー」等を組み合わせたものである。姪浜の多彩な魅力を知っていただけたことと思う。この他、講演会やワークショップなど様々な組み合わせにも取り組んできた。

C-2-5 町家活用イベント



これは、みそ蔵以外の歴史的建造物の活用の可能性を探るため、伝統的町家で映画の鑑賞会やコンサートを企画・実施したものである。姪浜ならではの魅力を発信していくためには、公民館等ではなく、姪浜ならではの場所にこだわる必要がある。今後は、空家となっている町家の活用の可能性も検討していく必要がある。

C-2-6 着物でそぞろ歩き



姪浜らしさにこだわった事業にチャレンジしていく一環として、「着物で唐津街道の町並みをそぞろ歩き」を定期的実施した。これは、唐津街道の趣のある町並みを着物で散策しながら、まちの歴史や景観を学び、伝統文化に触れてもらうものである。春は光福寺や万正寺、観音寺の満開の桜に、秋は興徳寺や住吉神社の紅葉に参加者に大変喜んでいただいた。沿道の方々も美しい着物姿に魅了された様子で、「着物の似合うまち・姪浜」をアピールできた。

C-2-7 「姪浜ブランド」の認定&PR①



唐津街道沿いや旧魚町通りにはすでに名産品といえる商品を販売しているお店や、地元で獲れる新鮮な魚を使った料理を提供している老舗のお店がある。このような商品やお店を「姪浜ブランド」や「姪浜ブランドの店」として協議会が独自に認定し、広く地域内外にアピールしていく活動を平成 23 年度から始めた。認定したお店には、協議会が独自にデザイン・作成した認定プレート进行贈呈し、地域内外に「姪浜ブランド」として発信していくことになった。筆者が協議会に在籍中に 14 のお店を認定した。

C-2-7 「姪浜ブランド」の認定&PR②



「姪浜ブランド」に認定するだけでなく、協議会としても機会を捉えて広く PR することで、お店だけでなく、地域にとっても宣伝効果は高いと考えている(Win-Win-Win の関係)。協議会のイベントだけでなく、唐津街道サミットの活動の一環としても西新商店街や西新プラリバで販売活動をし、PR させていただいたこともある。また、マスコミ取材においても、姪浜ブランド店や商品を率先して紹介している。こうした活動により、姪浜ブランド店との信頼関係を強くし、絆を構築できたと確信している。

C-2-8 全国区の賞へのチャレンジ



平成 25 年度～27 年度に全国区の賞に果敢にチャレンジし、5つの賞を受賞した。これに伴い、マスコミからの取材も大幅に増えた。特に「NPO 都市計画家協会日本まちづくり大賞」や「都市景観大賞（国土交通大臣賞）」の受賞は全国への PR 効果も高く、いろいろな取材を受けたり、遠方から視察に来られる団体も出てきた。また、地域の団体や住民の皆さま方からも協議会の活動を評価していただけるようになった。各種賞の受賞及びそれに伴うマスコミを通じた地域への情報発信は、地域の皆さま方の地域への誇りや愛着の醸成につながっていったと確信している。

C-2-9 地域からの贈り物



姫の浜史跡めぐりの歌

- 一 揮毫の歌をあとにして 姫の浜へいざ行く
- 二 地下のトンネル走り抜け 空を舞う心地よき
- 三 相撲にゆかりの歌 相互乗り入れ便利よく
- 四 高架のホームの姫の浜 行き交うバスも絶え間なし
- 五 白魚踊る宮見川 河口に貝橋人もあり
- 六 食室の山は木々青く 南はかすむ叶々
- 七 姫浜駅の北口に 立てば母校の内法小
- 八 我も娘も時経て 学びて進み進みよ
- 九 渡船場の岸あとにして フォリーに乗れば十分余
- 十 春は緑の稲古の島 夏は涼しい森の蔭
- 十一 コスモスの花の咲く頃 ฟ้าの空も澄みわた
- 十二 鳥渡る親子も数かず 夕焼けの空も忘れぬ
- 十三 煙一輪の田舎や 悪魔の森に展望台
- 十四 立ちて東を眺めれば 海の中道 志賀の島
- 十五 遠い故郷に夢や子を 残して来たる旅人の
- 十六 うらも哀しや芳業に 心を映す波の色
- 十七 笑は二十で遠泳し 藍空の向かいの岸につ
- 十八 小戸公園は今は呼ば 遊ぶ親子の数多し
- 十九 神功皇后の凱歌を 今も語るか磯の風
- 二十 小戸大神宮も知られて 神代を偲ぶ御膳立
- 二十一 船の浜を後にして 名物の川に沿って行けば
- 二十二 鎌倉武士の昔より 建てる美は興徳寺
- 二十三 しいい遊りの自遊や 町家作りの小格子の
- 二十四 奥に三毛舞臺建てて カラス戦んでも目もめず
- 二十五 御道に沿う水町に 寄ぐ(チウ)の天満宮
- 二十六 梅の香かおる境内に 祀るは菅原道真公
- 二十七 その賑の実は七葉の 湖に建てて今も年々に
- 二十八 詣でる人にもふりまて 今に建てる熊手寺
- 二十九 いかなる織か重町の 昔に建てる熊手寺
- 三十 その脚置の奥深く 管公の神体祀られて
- 三十一 遊覧船の昔目に 舞鶴城の跡をせし
- 三十二 み奥の裏に黒黒く 残せし人は誰ならん
- 三十三 母を亡して幾年ぞ 彼岸に参る善哉寺の
- 三十四 墓前に香をゆらして 祈るは若と子らのため
- 三十五 九州霊場 法蔵院 春は甘茶の花まつり
- 三十六 秋は夢さの町めぐり 参拝者せり時絶えず
- 三十七 観音の實の熟すころ 順光寺の横断
- 三十八 三叉路に立つ庚申塔 ゆかり知る人今いずこ
- 三十九 祝の筆子の昔より 近は志願進の塔まで
- 四十 庚申塔の石を留めし 赤き面は鐘田島

平成 25 年度に3つの栄えある賞をいただき、マスコミに大きく取り上げられたこともあり、地域の皆さま方から「姫の浜史跡めぐりの歌」を作っていただいたり、姫浜の名所旧跡及び三賞受賞に関する「相撲甚句」を作っていただいた。相撲甚句については、協議会のイベントでも2回披露していただき、出席された方々も大変感激されていた。こうした地域の方々からの贈り物は、「地域資源の保全・活用に向けた意識醸成と双方向のまちづくりへの展開」につながりつつあると感じた次第である。

C-2-10 様々な場面での姪浜のPR



様々な賞を受賞する中で、国や自治体等からの依頼による視察研修を受け入れてきた。こうした場では、それぞれの時期の地域課題に対応した目標を立て、具体的な活動を粘り強く実践してきたことをPRさせていただいた。町並み形成という点ではまだ成果は出ていないが、地道で多彩な活動は他の自治体や関係者の皆さま方にも大いに参考にしていただけたことと思う。こうした地道なPRは、いろいろな地域のまちづくり団体からの視察の増加につながっていった。

C-2-11 視察受入&意見交換



様々な賞を受賞する中で、他の地域のまちづくり団体からの視察研修も増えてきた。多彩な活動をPRするとともに、姪浜の見どころを案内させていただいた。活動を始めた頃はこちらが視察に行くことが多かったが、姪浜をフィールドにこうした視察研修を実施していただくことをとても光栄に思う。他の団体の取り組みについて、むしろ筆者らが見習うことの方がまだまだ多いと思う。協議会にとって、受賞はあくまで通過点であり、謙虚な姿勢でさらに活動を推進していく必要がある。

B-3-1 地域内の各団体の連携によるまちづくりの推進



次のステージに向けた姪浜のまちづくりを地域の方々といっしょに考えていくため、「姪浜ネクスト」の推進に向けて動き出した。これは、福岡市が推進する「福岡ネクスト」の姪浜版で、みんなの想いをひとつにして、姪浜の多彩な「よかところ」を活かしたまちづくりの実現に向けて取り組もうとするものである。3回の準備会を行い、28年3月に「姪浜ネクスト・まちづくり行動委員会」として発足した。姪浜を取り巻く環境の変化に対応していくためには、地域内のいろいろな関係団体と連携して取り組んでいく必要がある。

B-3-2 空き店舗活用のモデル的实践



平成27年12月に空き店舗を活用して開設した新案内所を、地域の情報発信、コミュニティの場となるよう運営するとともに、空き店舗活用のモデルとしてPRし、地域内への空き店舗活用の波及を目指していくものである。また、ここを拠点として姪浜ならではの多彩な魅力資源を活かしたまちづくり活動を実践していくものである。そのため、地域内の関係団体等と協働・連携して「姪浜ネクスト・まちづくり行動委員会」を立ち上げ、具体的なまちづくり実践計画書を策定し、モデル事業を実施していくこととした。

C-3-1 新たなまち旅プロジェクトの開発



各種イベントの実施に当たっては、常に「姪浜らしさ」にこだわり、チャレンジしてきた。その代表的なものが、「遊覧船で巡る福岡の歴史とまちなみ」であり、従来のまち歩きに加え、博多湾から姪浜周辺を眺め、歴史解説を行うことで、海との関わりが深い姪浜の歴史をより知っていただくことができた。また、「遊覧船&夏休み親子まちなみ探検隊」や「遊覧船から見る福岡のまちなみと花火大会」も実施し、参加した皆さま方に大変喜んでいただいた。しかし、遊覧船の運航が中止となり、新たな取り組みにチャレンジしていく必要がある。

C-3-2 win-win-win-win方式によるまち歩きマップの作成・発行



まち歩きマップの改訂に当たり、まちづくり活動の継続性及び「来訪者」「店舗」「姪浜地域」「協議会」の4者の Win-Win-Win-Win の関係構築を目指し、各店舗の協賛を得ながら取り組んでいくこととした。

- ◆来訪者……姪浜の魅力を享受できる。
- ◆店舗……来訪者や地域の方々にお店の情報を伝えることができる。
- ◆姪浜地域……姪浜の魅力を地域内外に発信できる。
- ◆協議会……継続的なまちづくり活動に必要な財源を確保できる。

C-3-3 「まち旅プロジェクト計画」の策定



『みそ蔵に代わる地域のシンボルとなる新たな魅力スポットや姪浜らしさにこだわった多彩な事業の発掘・発信』という課題を踏まえ、姪浜のまちづくりの次のステージ「姪浜ネクスト」の一環として、地域内の各団体と協働で、姪浜の多彩なよかとこを再発掘・活用する「姪浜まち旅プロジェクト計画」に取り組んできた。これは、姪浜の魅力を地域内外に発信し、身の丈にあった観光スタイル(着地型観光)の定着を目指していくとともに、コミュニティ交流や商店街活性化、地域に対する誇りや愛着の醸成につなげていくものである。

姪浜まち旅プロジェクト計画（概要版）

【まち旅を進めていく背景】	1
【まち旅プロジェクトの実施に向けたモデル的試行】	3
【まち旅プロジェクト推進のための情報発信ツールの整備】	6
1 着地型観光まち歩きマップの作成・印刷	
2 まちの案内所の整備	
【姪浜まち旅プロジェクト計画】	7
1 活かすべき多彩な魅力資源	
2 今後考えられるプログラム	
3 今後の課題	
4 実施に向けて	



2016年3月
唐津街道姪浜まちづくり協議会

姪浜まち旅プロジェクト計画（概要版）

【まち旅を進めていく背景】

唐津街道姪浜まちづくり協議会では、これまで姪浜の魅力の地域内外への発信をテーマに、「景観歴史発掘ガイドツアー」「みそ蔵コンサート」「まちなみ展示会」等の多彩なまちなみイベントを実施してきた。その結果、マスコミ取材回数の格段の増加や全国的な賞の受賞につながり、地域への来訪者が増えるなど地域の魅力発信や活性化に大きな成果を上げてきた。そして、その中心にはいつも、地域の歴史的・景観的シンボルとなっている旧マイヅル味噌のみそ蔵（国の登録有形文化財）があった。



景観歴史発掘ガイドツアー



みそ蔵コンサート



まちの案内所



地域交流の拠点



登録文化財 みそ蔵特別公開



九州大学ワークショップ



全国町並みゼミ福岡大会



子ども景観教室

しかし、旧マイヅル味噌は平成 25 年末に閉店し、売却も検討されるなど、今後はイベント会場や地域交流の拠点等としては活用しにくい状況であり、これに代わる地域のシンボルとなる新たな魅力スポットや、姪浜らしさにこだわった多彩な事業を発掘・発信していく必要がある。

⇒『ポストみそ蔵の発掘』が喫緊の課題である。

みそ蔵に代わる地域のシンボルとなる新たな魅力スポットや 姪浜らしさにこだわった多彩な事業の発掘・発信

こうした課題を踏まえ、姪浜のまちづくりの次のステージ『姪浜ネクスト』の一環として、地域内の各団体と協働で、姪浜の多彩なよかところを再発掘・活用する「姪浜まち旅プロジェクト」に取り組み、姪浜の魅力を地域内外に発信し、身の丈にあった観光スタイル（着地型観光）の定着を目指していくものである。また、まち旅プロジェクトに取り組むことにより、コミュニティ交流や商店街活性化、地域に対する誇りや愛着の醸成につなげていきたいと考えている。

【参考】魅力資源を活用した今までの主なイベント（みそ蔵以外のイベント）

（1）まち歩き

- ・ 景観歴史発掘ガイドツアー（主に春と秋に実施）
- ・ 着物でそぞろ歩き（春と秋に寺社を中心に実施）
- ・ 子ども（親子）まちなみ探検隊
- ・ 遊覧船ツアー

（2）歴史的建造物でのコンサート、講演会等

- ・ 寺社での灯明コンサート、講演会
- ・ 町家コンサート&姪浜ブランド料理（御園）

（3）その他

- ・ まちなみパネル展
- ・ 町家での映画鑑賞会



【まち旅プロジェクトの実施に向けたモデル的試行】

海や港・歴史との関わりの深い、姪浜らしさにこだわった5つの事業に取り組み、参加者の反応、これまでの実績等を踏まえ、今後の継続的实施に向けた可能性と課題を探った。

(1) 夏休み親子まちなみ探検隊 (8月)

○海や港との関わりの深い姪浜の魅力を再発見するガイドツアー。コースは、姪浜住吉神社～魚市場～造船所～海苔工場～海豚の慰霊碑～漁協～双胴船見学～クルーザー見学～遊覧船乗船 (博多湾周遊による海からの景観の魅力体験、古代からの交流の歴史解説)。30名参加 (小学生及び保護者、関係者)。



(2) 遊覧船から見る福岡のまちなみと花火大会 (8月)

○花火大会の夜の幻想的な景観を遊覧船でクルージングしながら楽しむ。65名参加 (一般市民)。



(3) 寺社コンサート (10月)

○多数の寺社がある姪浜ならではのプログラム。今回は、鎌倉時代からの歴史ある古刹・興徳寺での灯明コンサートを実施。樹齢数百年の大楠や改修された境内を灯明やライトアップで厳かに演出。170名参加（地域住民、一般市民、招待者、関係者）。



(4) 寺社講話&紅葉巡りツアー、着物で唐津街道の寺社をそぞろ歩き (11月)

○多数の寺社がある姪浜の特徴を活かして、将来的には各寺社を巡回する方式で、住職や宮司の講話を聴く事業を企画していきたいと考えている。その試験的取り組みとして、清楽寺の住職の講話を聴き、周辺の紅葉スポットを巡るツアー及び着物でのそぞろ歩きを実施した。30名参加（一般市民、関係者）。



(5) 白うさぎ伝説と桜の名所巡り&姪浜ブランド店巡り (3月)

○西区歴史よかとこ案内人のガイドによるガイドツアー。姪浜に古くから伝わる「白うさぎ伝説 (興徳寺関係)」「武内宿禰伝説 (真根子神社関係)」「探題塚伝説 (鎌倉幕府が元軍の来襲に備えて探題を置いた場所。日本の防衛の砦)」に関わる場所や、姪浜の桜の名所 (光福寺、住吉神社、万正寺等)、姪浜ブランド店 (老舗の削り節店、蒲鉾店、パン屋、料理店) を案内。45名参加 (一般市民、関係者)。



【まち旅プロジェクト推進のための情報発信ツールの整備】

1 着地型観光まち歩きマップの作成・印刷

○参加者の反応やワークショップ、関係団体のヒアリング等を踏まえ、着地型観光まち歩きマップを作成・印刷した。

- ・姪浜の見どころ紹介（歴史、まちなみ、食、祭り、お薦めのお店等）
- ・モデル的なまち歩きコース 等



2 まちの案内所の整備

○平成 27 年 12 月に空き店舗を活用して開設した新案内所を、地域の情報発信、コミュニティの場となるよう運営するとともに、ここを拠点として姪浜ならではの多彩な魅力資源を活かしたまちづくり活動を実践していく。



【姪浜まち旅プロジェクト計画】

1 活かすべき多彩な魅力資源（詳細は別添資料参照）

- (1) 寺社
- (2) 町家町並み
- (3) 路地
- (4) 海、港
- (5) まちかど遺産
- (6) 歴史、物語
- (7) 食
- (8) お薦めのお店



2 今後考えられるプログラム

(1) 総合型まち歩き (今までの景観歴史発掘ガイドツアー)

- ショートコース (半日コース)、ロングコース (一日コース)、東コース (住吉神社～愛宕神社)、西コース (住吉神社～小戸大神宮)



(2) テーマ型まち歩き

- 白うさぎ伝説を巡るツアー
(姪浜駅南口モニュメント～興徳寺～龍王館～且過だるま堂)
- 寺社巡りツアー (今まで案内していない寺社も含む寺社限定ツアー)
- 歴史巡りツアー (古代～現代までを体験できるコース設定)
- 海に特化したツアー (魚市場～造船工場～海豚の慰霊碑～漁協～双胴船～クルーザー～ゆーみんとマト乗船)
- 路地巡りツアー (住吉神社周辺の路地、光福寺周辺の路地、順光寺周辺の路地等)
- 伝説・物語巡りツアー
 - ・白うさぎ伝説 (興徳寺関係)
 - ・武内宿禰伝説 (真根子神社関係)
 - ・探題塚伝説 (鎌倉幕府が元軍の来襲に備えて探題を置いた場所。日本の防衛の砦)
 - ・元寇伝説



(3) 季節型イベント

- 歴史散策と桜の名所巡りツアー（春）
- 歴史散策と紅葉巡りツアー（秋）
- 着物でそぞろ歩き（春、秋）
- 遊覧船から見る花火大会（夏）



(4) 講話

- 寺社講話（住職や宮司の講話&境内散策）



(5) コンサート

- 灯明コンサート（興徳寺、住吉神社）
- 町家コンサート（森住邸、石橋邸）
- 町家コンサート&姪浜ブランド料理（御園）



(6) 体験型イベント

- お寺での座禅体験、点茶体験
- 蒲鉾作り体験（魚嘉）、削り節削り体験（仲西商店）



(7) まち歩き&お薦めのお店でランチ

- 白うさぎ伝説を巡るコース&姪浜ブランド店等でランチ（たつき、オオカミの口等）
- 景観歴史発掘ガイドツアー&姪浜ブランド店等でランチ（たつき、オオカミの口等）



(8) ウォークラリー

- 姪浜駅～唐津街道・魚町通り周辺～マリノアシティ
- 姪浜駅～唐津街道・魚町通り周辺～能古島
- ※JR九州や福岡市交通局との連携検討



(9) 子どもたちを対象にしたイベント

- 夏休み親子まちなみ探検隊



3 今後の課題

(1) 段階的实施と進化

まち旅プロジェクトについては、モデル事業の成果や、策定した計画を基に「とっておきの姪浜！」プログラムとして順次実施し、身の丈にあった観光（着地型観光）を推進していく必要がある。

また、まち歩きマップも工夫・改訂を繰り返しながら進化させていき、姪浜の魅力の情報発信ツールとして活用していく必要がある。

(2) 体験型メニューの掘り起こし

お寺での座禅、姪浜ブランド店での蒲鉾づくり等の体験型のメニューの掘り起こしを進めていく必要がある。

(3) 地域全体での取り組み

まち旅プロジェクトは一過性のイベントではなく、地域の活性化（コミュニティ交流や商店街活性化、地域への誇りや愛着の醸成等）にも大きく貢献するものであることをPRし、当協議会だけでなく、地域全体で取り組んでいく必要がある。

4 実施に向けて

実施可能なプログラムに取り組むとともに、次のような取り組みを進めていく。

(1) 多彩な情報発信

(例) 着地型観光まち歩きマップによる情報発信

まちの案内所の活用による情報発信

お店や関係団体との連携による情報発信

(2) スタッフの知識・意欲向上に向けた取り組み

(例) 研修、自己啓発、他都市視察

(3) 関係者への提言・働きかけ

(例) 案内表示板設置、レンタサイクル



参考1：まち旅プロジェクトの例（平成27年度）

**遊覧船から見る
福岡のまちなみと花火大会**

唐津街道姪浜
まちづくり協議会
夏イベント

親子まちなみ探検隊

2015年8月15日(土)
PM7:30～PM9:00 ※小雨決行
募集人数：50名
参加料：2,000円(小学生以下1,000円)
集合場所：マリノアシティ福岡西口

2015年8月8日(土)
AM7:30～AM11:40 ※小雨決行
募集人数：50名 / 参加料：小学生1,000円、保護者1,500円
集合場所：姪浜探検隊(西区経の浜3-5-6)

問い合わせ・申込み先
住所、氏名、年齢、電話番号を明記して、はがき、E-mail、FAXで下記までお申込みください。
唐津街道姪浜まちづくり協議会 事務局 大塚政博
〒819-0013 福岡市西区豊栄浜 2-3-2-601 E-mail: karasui.moinohama@gmail.com FAX: 092-882-3831 TEL: 090-7929-7758

唐津街道姪浜 秋のまち旅プロジェクト2015
〜灯明コンサートIN興徳寺〜

■日 ち：平成27年10月17日(土) (協賛協力：福岡県・三井物産社)
■時 間：18時30分～(開場：17時45分)
■会 場：興徳寺境内(西区経の浜4-23-1)
※雨天時は本堂内に変更になる可能性があります。
■募集人数：150名(小学生半席不可、事前申込みが必要です)
■参加料：2,000円(当日受付時にいただきます)

■千波(チノ)Cello: チェロ
1963年中国ハルビン市に生まれる。11才より、李大猷氏のハルビン芸術学院
歌劇院オーケストラでチェロを習いはじめる。13才でハルビンにて
「サイタルデビュー」。1982年、ポルトガルのリスボンのマヌエラ・クラウチン
7、1983年、北京音楽学院を首席で卒業し、中国芸術大学付属ハルビンに上
る。アシスタントとして活躍。1987年に来日後、1991年より福岡、
大阪、長崎、唐津、熊本にて毎年リサイタルを開催。九州をはじめ、東京、大
阪、上海、武漢等各地で多くのリサイタル、ソロ、アンサンブル活動を行って
いる。2015年7月、15枚目となるピアノTRIOのCDを発売。

■山由(はやま ゆみ)Piano: ピアノ
ピアノをピアノ・コラージュに師事。音楽グループCONTINUE 主宰。
1997年より毎年、福岡市においてチャリティーコンサートを主催中。
ピアノトリオ「ALTEZZA」を結成し、九州各地で演奏活動に積極的。
市内を中心に幅広い多くのプレイヤーと演奏。現在、年の後半を助産
で暮らしている「音楽家としてのリサイタル」や、「ソリストのための
伴奏(即興)」「NKK合唱コンクール」等の伴奏ピアニストとして活躍中。
2014年「Contina」チャリティーコンサートプログラムをリリー
ズ。野野井亮中

■申込み先
住所、氏名、年齢、電話番号を明記して、はがき、E-mail、FAXで下記までお申込みください。
唐津街道姪浜まちづくり協議会 事務局 大塚政博
〒819-0013 福岡市西区豊栄浜 2-3-2-601
E-mail: karasui.moinohama@gmail.com FAX: 092-882-3831
■電話での問い合わせ先 田中女士 TEL: 090-3734-1368(携帯)

唐津街道姪浜 秋のまち旅プロジェクト
景観歴史発掘ガイドツアー 2015

①歴史散策と紅葉巡りツアー
■日 ち：平成27年11月21日(土)
■時 間：14時～16時30分※小雨決行
(集合時間 13時45分)
■集合場所：旧マインビル棟(経の浜3-3-27)
■募集人数：40名
■参加料：1,000円(事前申込みが必要)
■内 容：
●唐津街道の歴史ある寺社と紅葉の名所(興
徳寺、姪浜往古神社等)を西区歴史よかと
こ案内人のガイドにより散策します。
●各地巡りや軽食ブランド店(かまぼこ、刺身
屋)での試食もあります。
●景観なかなか見ることのできる興徳寺(興
徳寺と興徳寺の深い寺社)のご住職のお話
も予定しています。

②着物で唐津街道の寺社を
どぞろ歩き
■日 ち：平成27年11月21日(土)
■時 間：14時～16時30分 ※小雨決行
(集合時間 13時45分) 着物の着付け・レンタル
を希望される方は13時30分
■集合場所：旧マインビル棟(経の浜3-3-27)
■募集人数：
レンタル着付け希望者10名程度
着物を着て歩ける方10名程度
■参加料：4,000円(事前申込みが必要)
※着付け・レンタル料を含む
■着物を着て歩ける方は2,000円
■内 容：
●唐津街道の歴史ある寺社を着物で散策しま
す。まはる歴史を学び、伝統文化に触れるこ
とができます。
●抹茶・和菓子・茶の作法講座、漢菜寺ご住
職の講話も予定しています。

問い合わせ・申込み先
住所、氏名、年齢、電話番号を明記して、はがき、E-mail、FAXで下記までお申込みください。
唐津街道姪浜まちづくり協議会 事務局 大塚政博
〒819-0013 福岡市西区豊栄浜 2-3-2-601 E-mail: karasui.moinohama@gmail.com FAX: 092-882-3831
■電話での問い合わせ先 田中女士 TEL: 090-3734-1368(携帯)

唐津街道姪浜 春のまち旅2016
白うさぎ伝説と桜の名所巡り
& 軽食ブランド店巡り

■日 ち：平成28年3月26日(土)※小雨決行
■時 間：10時30分～14時
■集合場所：姪浜新南口
■募集人数：限定30名(事前申込みが必要です)
■参加料：2,000円
(昼食代含む、当日受付時にいただきます)

■内 容：
●西区歴史よかとこ案内人がご案内します。
●「白うさぎ伝説」と「桜の名所」を巡ります。
●「神社」「町家跡み」「おもしろ踏切」なども巡ります。
●希望者は、昼食後に興徳寺、愛宕神社までご案内
します。

■申込み先
住所、氏名、年齢、電話番号を明記して、はがき、E-mail、FAXで下記までお申込みください。
唐津街道姪浜まちづくり協議会 事務局 大塚政博
〒819-0013 福岡市西区豊栄浜 2-3-2-601
E-mail: karasui.moinohama@gmail.com FAX: 092-882-3831
■電話での問い合わせ先 田中女士 TEL: 090-3734-1368

●軽食ブランド店「たつき」での昼食の他、伸高商店(刺
り刺)、魚屋(かまぼこ)で試食を行います。

「たつき」専用ランチ(内容が異なる場合がございます)

主 催：唐津街道姪浜まちづくり協議会
(福岡市認定 景観づくり協議会)
唐津街道景観まちづくり協議会
後 援：福岡市西区役所、姪浜会、唐津商店会連合会
協 力：西区歴史よかとこ案内人あここのグループ
【(一社)まちづくり地球市民財団
2016年度まちづくり地球市民財団助成金事業】

H21.11.22 西日本





福岡市西区姪浜 唐津街道の歴史巡る



小戸町の古い町並み。白壁の町家がゆかしい



臨済宗大徳寺派の禅寺興徳寺

かつて唐津街道の宿場としてにぎわった福岡市西区姪浜地区。秋の一日、歴史散歩を楽しみたい。

スタートは祇園河原裏り東に向かい姪浜小学校近くで知られる住吉神社。イチヨウの神木は樹齢700年、地域のランドマーク

東に向かい姪浜小学校近くにある探題塚を訪ねる。鎌倉時代、蒙古軍の襲来に備えられたエリア。その昔、商船で栄えた町とか。角地にある六角形の町家が、大正口

横にある幅1m程度の狭い路地を抜けるとお堂が出迎えてくれる。姪浜には、お堂や小さな神社、ほころや地蔵などが多い。思わぬ出会いが散歩に趣を加えてくれるだろう。

順光寺横の路地を通り、唐津街道に出る。かつて水町、小戸町と呼ばれた場所を巡って、約750年の歴史を誇る古刹・興徳寺。この10月には灯明コンサートが行われ、幻想的な雰囲気

真根子神社などを経て、北側に進めば住吉神社のイチヨウが見えてくる。この散策エリアには老舗のかつお節店やかまぼこ店などもあり、食べ歩きを楽しむも満喫できる。

(唐津街道姪浜まちづくり協議会・大塚政徳)

★あなたの街を歩いてみませんか？ 約1万歩(約6km)のコースを作り、①コースの地図②見所の説明(300字以内)③実際に歩いたレポート(約800字)と写真(2、3枚)を、住所氏名、連絡先を明記して、郵送か電子メールで文化部生活班「街歩き隊」係まで。選考の上、一部を紙面に掲載します

